I·O DATA

リファレンス編

インデックス部

IEEE802.11b無線LANプリントサーバ

WN-B11/PRS

97967-01

本書の内容一覧

・Web ブラウザから本製品を設定したい場合

Web ブラウザから本製品を設定する場合について説明しています。

・Windows版設定ツールの詳細

別冊【Windows 版】で使用している Windows 版設定ツールの詳細について説明しています。

・Macintosh版設定ツールの詳細

別冊【Macintosh 版】で使用している Macintosh 版設定ツールの詳細について説明しています。

・TCP/IPプリンタ・ポートモニタの詳細

別冊【Windows 版】で使用している［TCP/IP プリンタ・ポートモニタ］の詳細について説明しています。

・テスト印字

本製品のテスト印字機能について説明しています。

・TCP/IPの基礎知識

［TCP/IP］の基礎知識について説明しています。

・用語解説

本製品に関連する用語について説明しています。

・工場出荷時の設定

本製品の工場出荷時の設定について説明しています。

リファレンス編（WN-B11/PRS）
2001.Sep.12　97967-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町３丁目１０番地

© 2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

もくじ

もくじ ····· i

Webブラウザから本製品を設定したい場合 ····· 1

～ 設定するまでの準備 ～

Web ブラウザで設定できるようにする ····· 2
ステップ1　設定する前の確認 ····· 3
ステップ2　設定用パソコンの IP アドレスを設定する ····· 4
ステップ3　Web ブラウザを設定する ····· 6

～ 設定 ～

Web ブラウザから本製品を設定する ····· 13
設定画面の起動 ····· 14
設定内容の概要 ····· 15
基本的な変更手順 ····· 17
[TCP/IP]の設定 ····· 21
[EtherTalk]の設定 ····· 26
[SMB]の設定 ····· 34
[SNMP]の設定 ····· 38
[Flash ROM バージョン]の確認 ····· 40
[ワイヤレスステータス]の設定 ····· 41
[パラレルポート]の設定 ····· 46
[エラーコード]の確認 ····· 49
[印刷バッファのクリア] ····· 50
[プリントサーバのリセット] ····· 51
[プリンタステータス] ····· 52
[ブートディレイ]の設定 ····· 53
[パスワードの変更] ····· 54
ファームウェアのアップデート ····· 55

Windows版設定ツールの詳細 ・・・・・・・・・・・・・・・59

*・メイン画面 ・・・・・・・・・・・・・・・

・*[プロパティ]画面 ……101*
プロパティ画面の起動方法 ……102
システム名を設定する…[一般情報]タブ ……103
コミュニティ名を設定する…[SNMP]タブ ……104
本製品の IP アドレスを設定する・・[TCP/IP]タブ ……105
SMB を設定する…[SMB]タブ ……108
EtherTalk を設定する…[EtnerTalk]タブ ……111
ハードウェアを設定する…[ハードウェア設定]タブ……117
無線情報を設定する…[無線]タブ ……119

Macintosh版設定ツールの詳細 …… 123

・*設定画面を起動する……124*
・*TCP/IP を設定する……127*
・*SNMP を設定する ……129*
・*EtherTalk を設定する(プリンタ名以外) ……130*
・*プリンタ名を設定する ……133*
・*SMB を設定する……137*
・*無線を設定する ……141*
・*起動ディレイタイムを設定する ……147*
・*パラレルポートを設定する……148*
・*バージョン情報を確認する ……150*
・*パスワードを変更する場合 ……151*
・*出荷時状態に戻す場合 ……152*
・*本製品をリセットする……153*

TCP/IPプリンタ・ポートモニタの詳細 ····· 155

・印刷および印刷の中止 ····· 156
・TCP/IP プリンタ・ポートモニタの[詳細]画面 ····· 159
・EPSON インクジェットプリンタへ
印刷する際の注意点 ····· 161

テスト印字 ····· 163

・印字手順 ····· 163
・テスト印字仕様 ····· 164

TCP/IPの基礎知識 ····· 169

・IP アドレス ····· 170
同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要 ····· 170
インターネットの IP アドレスと LAN の IP アドレス ····· 171
LAN 内で使用する IP アドレスのクラス ····· 172
・DHCP ····· 173
・具体的な IP アドレスの設定例 ····· 174

用語解説 ····· 177

工場出荷時の設定 ····· 183

Webブラウザから本製品を設定したい場合

本製品は、Webブラウザから設定することができます。

～ *設定するまでの準備* ～

Web ブラウザで設定できるようにする……2ページ
ステップ1　設定する前の確認 ……3ページ
ステップ2　設定用パソコンの IP アドレスを設定する……4ページ
ステップ3　Web ブラウザを設定する……6ページ

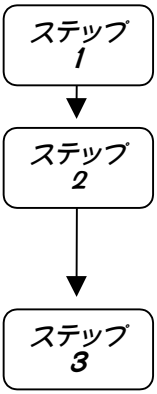
～ *設定* ～

Web ブラウザから本製品を設定する …… 13ページ
設定画面の起動…… 14ページ
設定内容の概要…… 15ページ
基本的な変更手順…… 17ページ
[TCP/IP]の設定 …… 21ページ
[EtherTalk]の設定 …… 26ページ
[SMB]の設定…… 34ページ
[SNMP]の設定 …… 38ページ
[Flash ROM バージョン]の確認…… 40ページ
[ワイヤレスステータス]の設定 …… 41ページ
[パラレルポート]の設定 …… 46ページ
[エラーコード]の確認…… 49ページ
[印刷バッファのクリア] …… 50ページ
[プリントサーバのリセット] …… 51ページ
[プリンタステータス]…… 52ページ
[ブートディレイ]の設定 …… 53ページ
[パスワードの変更] …… 54ページ
ファームウェアのアップデート …… 55ページ

設定するまでの準備

Webブラウザで設定できるようにする

Web ブラウザで設定するには、まずパソコンの設定が必要です。
以下のステップに従って設定するパソコンの準備をしてください。
※設定は、管理者が設定用パソコン1台だけで行うようにしてください。



設定する前の確認 ·····3ページ
本製品を設定するパソコンに関しての
確認事項について説明します。

設定用パソコンの IP アドレスを設定する ·····4ページ
Web ブラウザから設定するために必要な
パソコンの IP アドレスの設定について
説明します。

Web ブラウザを設定する ·····6ページ
Web ブラウザから設定するために必要な
Web ブラウザ自体の設定について説明します。

ステップ 1

設定するまでの準備①
設定する前の確認

Web ブラウザから設定する前に以下が準備されているか確認してください。

・必要なWebブラウザ

本製品を設定するには，以下の Web ブラウザが必要です。

Windowsパソコンで設定する場合	Internet Explorer Ver.3.0以降
Macintoshで設定する場合	Internet Explorer Ver.5.0以降

注意！

Web ブラウザから設定するには、あらかじめ本製品に IP アドレスを設定しておく必要があります。（出荷時は[192.168.0.100]の IP アドレスが設定されています。）

・設定するために必要な無線LAN

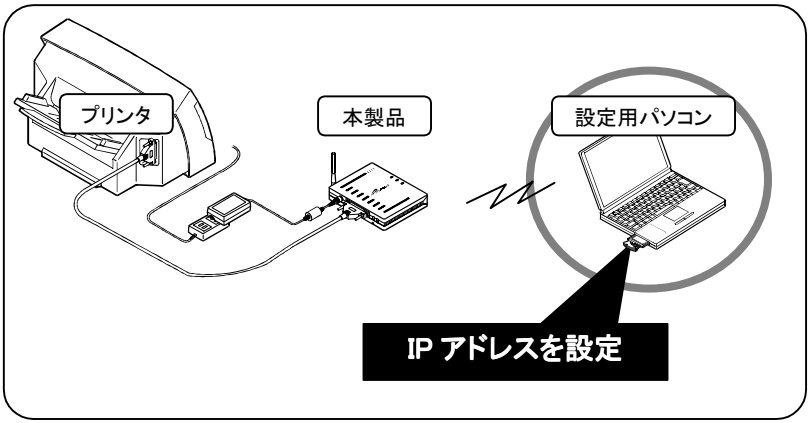
本製品を初めて設定する場合は、最初にパソコン（無線 LAN アダプタ）の無線 LAN の設定を本製品の出荷時の設定に合わせる必要があります。
設定については、別冊【Windows 編】または【Macintosh 編】を参照してください。

※すでに別冊【Windows 編】および【Macintosh 編】で設定済みの場合は特に設定の必要はありません。
※本製品出荷時は、[Ad Hoc]モードに設定されていますので、初めて本製品の設定を行う場合は、無線 LAN アダプタ経由で直接設定してください。
アクセスポイント経由（[Infrastructure]モード）で設定することはできません。
（本製品を[Infrastructure]モードに設定後には、アクセスポイント経由で設定できます。）

ステップ
2

設定するまでの準備②
設定用パソコンのIPアドレスを設定する

Webブラウザから本製品を設定するには、パソコン(**設定用パソコン**)のIPアドレスを設定する必要があります。



以下の個所を参照して設定してください。

・*Windowsで設定する場合* → 別冊【Windows編】の【第2章　本製品を設定する】の項を参照してください。

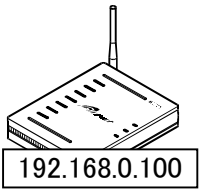
・*Macintoshで設定する場合* → 次ページ以降を参照してください。

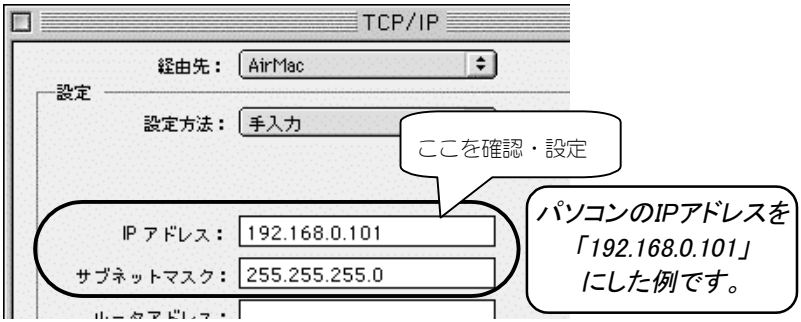
Mac OSでIPアドレスを設定する例

1 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[TCP/IP]をクリックします。

2 管理用パソコンのIPアドレスを確認・設定します。

管理用パソコンで本製品を設定するには、
管理用パソコンのIPアドレスが本製品の
IPアドレスと同じクラスで、かつ、別の
IPアドレスとなっている必要があります。
（本製品のIPアドレスは
出荷時「192.168.0.100」です。）





「DHCP サーバを参照」
に設定している場合

別のクラスの IP アドレス
（「172. xxx. xxx. xxx」など）

本製品と同じ IP アドレス
（「192. 168. 0. 100」）
に設定している場合

一時的に、
［設定方法：］を［手入力］に設定し、
パソコンの IP アドレスを
「192.168.0.101」などの
同じクラスで、かつ、別の IP アドレスに
変更し、すべての画面を閉じてパソコン
を一度再起動してください。

※パソコンのこの設定は、一時的な設定です。本製品のすべての設定が終了した後に、ご利用環境に合わせて再度設定し直してください。

この後、次ページ【ステップ3】へお進みください。

ステップ
3

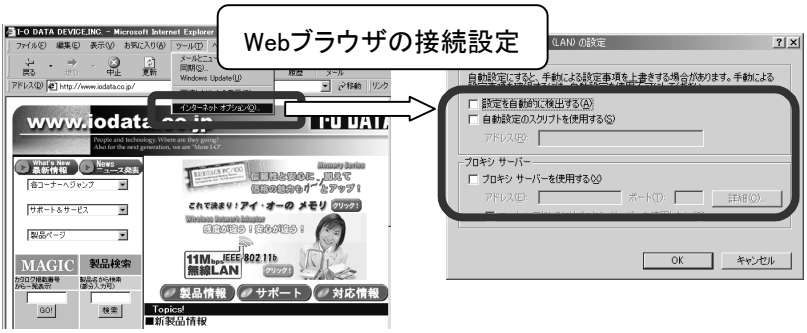
設定するまでの準備③
Webブラウザを設定する

本製品を設定するには、Web ブラウザ（Internet Explorer）の接続設定をしておく必要があります。

※インターネットに接続しない場合にも必ず設定してください。

下記２点に注意し設定してください。

①LANを使用してインターネットに接続する。
②プロキシサーバーを設定する。

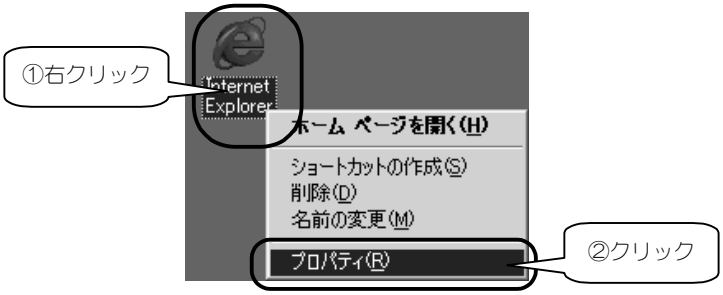


注意！

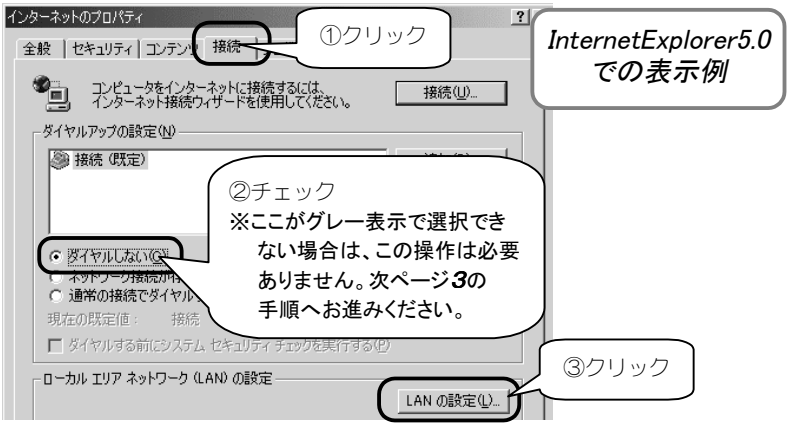
インターネット利用時には、プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。
まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

WindowsでのInternet Explorerの設定手順

1 デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンを右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



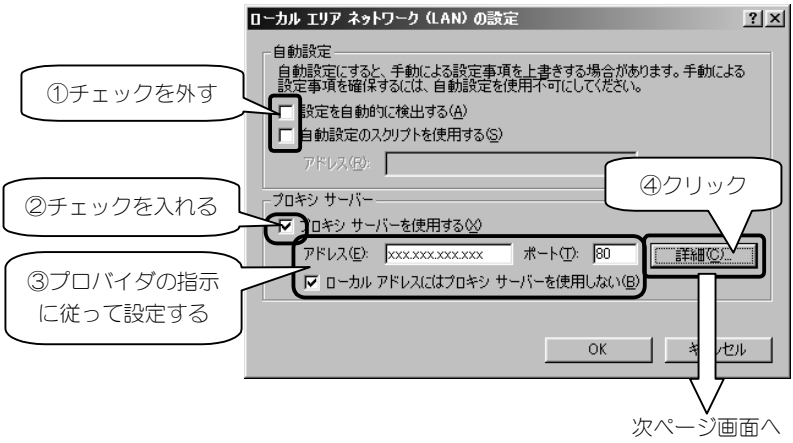
2 [接続]タブをクリックし、
[ダイヤルアップの設定]にて[ダイヤルしない]をチェックします。
続けて、[LANの設定]ボタンをクリックします。

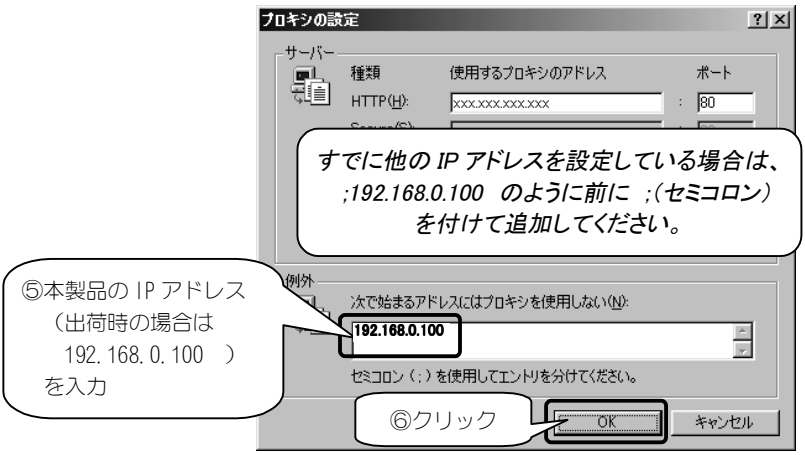


3 インターネットを利用しない場合は以下の設定を行ってください。インターネット利用時は、プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下の設定を行います。

●インターネットを利用しない場合、あるいは、インターネットを利用するが、プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がない場合

●インターネットを利用する場合で、プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がある場合





4 [ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定]画面で
[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

5 [インターネットのプロパティ]画面へ戻りますので、
[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

以上の設定で本製品を Web ブラウザから設定できるようになります。
【Web ブラウザから本製品を設定する】(13 ページ)へお進みください。

参考

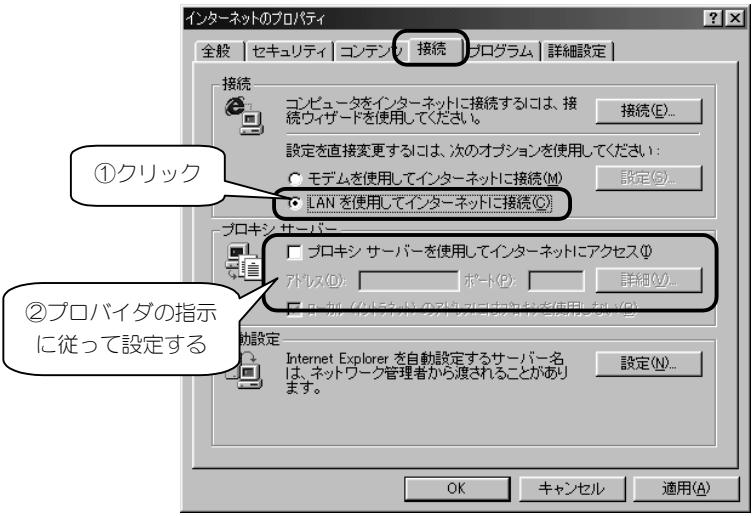
Internet Explorer のバージョンによっては、手順 *3* の時に以下の画面となる場合があります。
その場合は、[接続]タブで[LAN を使用してインターネットに接続]をチェックします。
その後、以下の手順を行います。

- ***インターネットを利用しない場合、あるいは、インターネットを利用する場合で、プロバイダからプロキシに関する設定の指示がない場合***

  [プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。

- ***インターネットを利用する場合で、プロバイダからプロキシに関する設定の指示がある場合***

  [プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセス]をチェックし、[アドレス]と[ポート]を入力後、[詳細]ボタンをクリックします。
  [プロキシの設定]画面での設定は、前ページを参照してください。
  設定後、[OK]ボタンをクリックします。



Mac OSでのInternet Explorerの設定手順

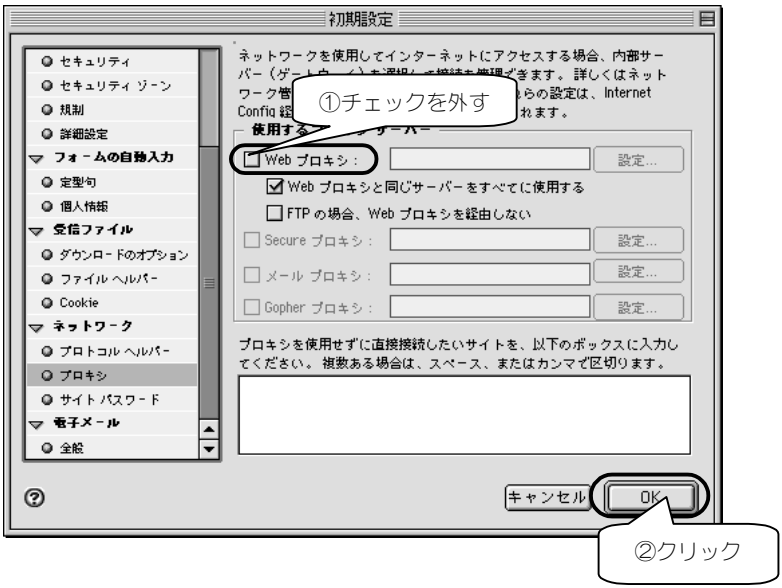
1 Internet Explorerを起動します。

2 [編集]→[初期設定...]を選択します。

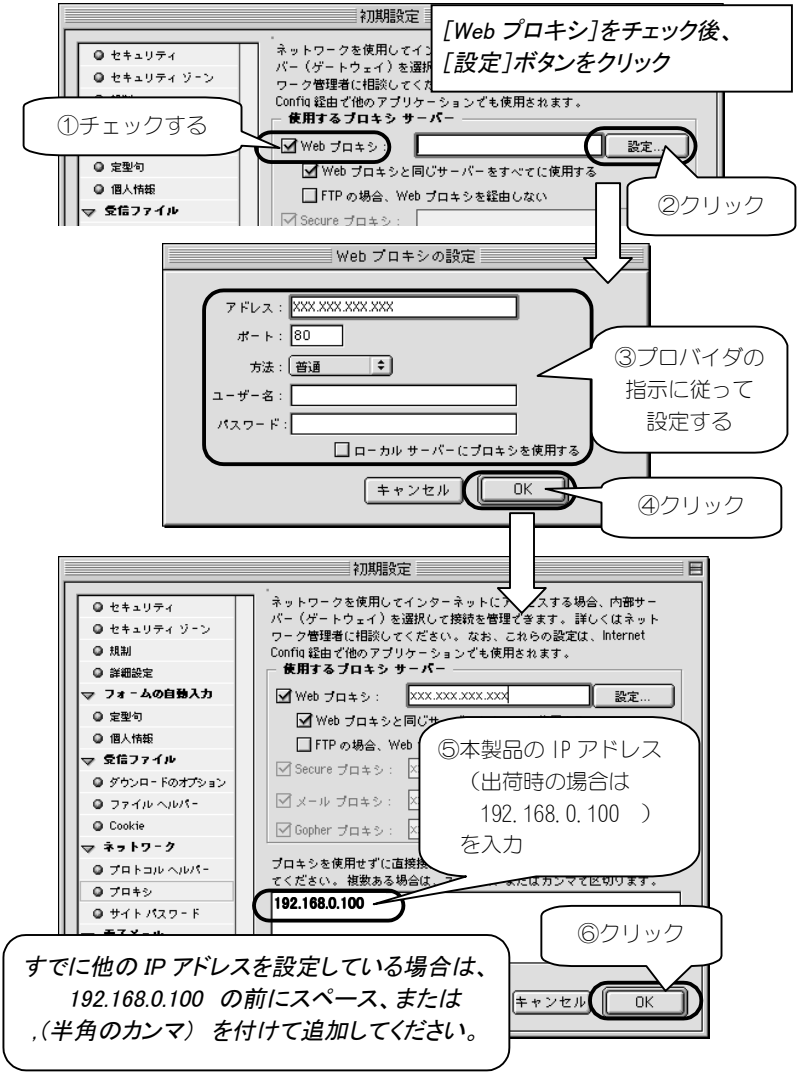
3 [▽ネットワーク]の[プロキシ]を選択します。

4 インターネットを利用しない場合は以下の設定を行ってください。インターネット利用時は、プロバイダからの資料を参照し、[プロキシ]に関する設定の指示がないか確認し、以下および次ページの設定を行います。

●インターネットを利用しない場合、あるいは、インターネットを利用するが、プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がない場合



●インターネットを利用する場合で、プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がある場合



以上の設定で本製品を Web ブラウザから設定できるようになります。次ページ【Web ブラウザから本製品を設定する】へお進みください。

設定

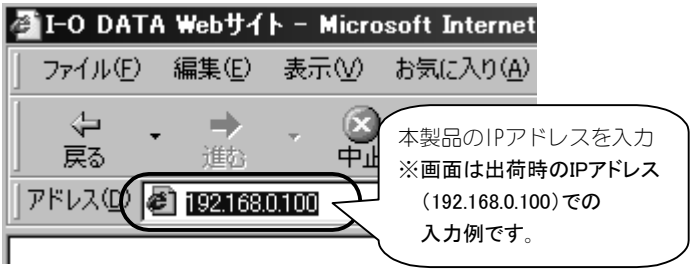
Webブラウザから本製品を設定する

設定画面の起動 …… 14ページ
設定内容の概要 …… 15ページ
基本的な変更手順 …… 17ページ
[TCP/IP]の設定 …… 21ページ
[EtherTalk]の設定 …… 26ページ
[SMB]の設定 …… 34ページ
[SNMP]の設定 …… 38ページ
[Flash ROM バージョン]の確認 …… 40ページ
[ワイヤレスステータス]の設定 …… 41ページ
[パラレルポート]の設定 …… 46ページ
[エラーコード]の確認 …… 49ページ
[印刷バッファのクリア] …… 50ページ
[プリントサーバのリセット] …… 51ページ
[プリンタステータス] …… 52ページ
[ブートディレイ]の設定 …… 53ページ
[パスワードの変更] …… 54ページ
ファームウェアのアップデート …… 55ページ

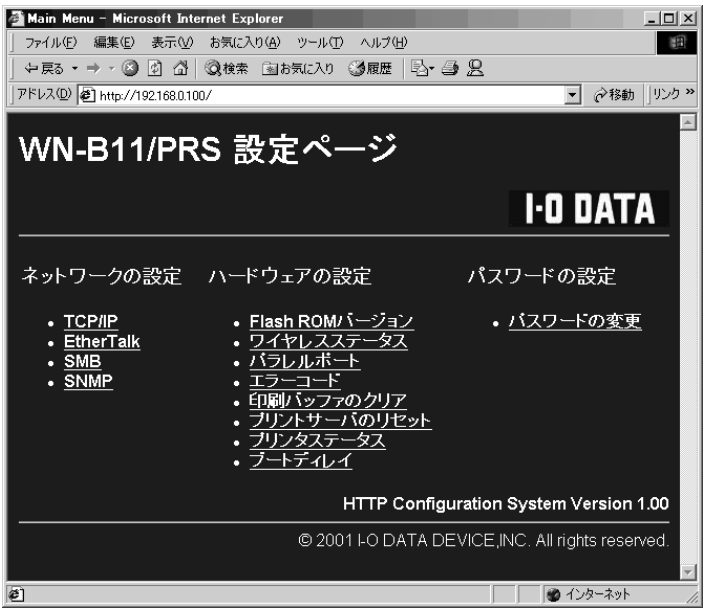
設定画面の起動

Webブラウザの設定画面は以下の手順で起動します。

1 Webブラウザを起動し、本製品に設定したIPアドレス（出荷時の場合：192.168.0.100）を入力し、[Enter]キーを押します。



2 設定ページ画面（設定メイン画面）が表示されます。



次ページ以降を参照して設定してください。

設定内容の概要

設定ページ画面から、「ネットワークの設定」「ハードウェアの設定」「パスワードの設定」を行うことができます。

● *［ネットワークの設定］*

TCP/IP/EtherTalk/SMB/SNMPで本製品を使用する場合の設定の確認と変更を行うことができます。確認や変更を行いたいプロトコルをクリックします。

項目	設定内容	参照頁
TCP/IP	TCP/IPで通信するために必要なIPアドレスなどの設定値を確認および変更することができます。	21
EtherTalk	EtherTalkで通信するために必要なプリンタタイプ名などの設定値を確認および変更することができます。	26
SMB	SMBで通信するために必要な下位層プロトコル(TCP/IP、NetBEUI)の設定値を確認および変更することができます。	34
SNMP	SNMPで通信するために必要なコミュニティ名の設定値を確認および変更することができます。	38

● *［ハードウェアの設定］*

本製品のハードウェアに関する設定の確認と変更を行うことができます。確認や変更を行いたい項目をクリックします。

項目	設定内容	参照頁
Flash ROM バージョン	本製品で現在使用しているファームウェアのバージョンを確認できます。	40
ワイヤレス ステータス	本製品の無線の設定を確認および変更することができます。	41
パラレルポート	本製品の電源を入れた時のプリンタとの接続確認時のモード(接続されているプリンタとネゴシエーションを行うためのモード)を確認および変更することができます。	46

項目	設定内容	参照頁
エラーコード	本製品で過去に発生したエラーの履歴を確認することができます。	49
印刷バッファのクリア	本製品のバッファ内のデータを削除します。	50
プリントサーバのリセット	本製品のソフトウェアリセットを行います。	51
プリンタステータス	接続したプリンタの現在の状態を表示します。	52
ブートディレイ	本製品の起動時の遅延時間を確認および変更することができます。	53

● *[パスワードの設定]*

項目	設定内容	参照頁
パスワードの変更	ブラウザ、WindowsおよびMacintosh用設定ツールで本製品にログインする時のパスワードの変更を行います。	54

● *ファームウェアのアップデート*

※本設定は、[設定ツール]メニュー内にはありません。

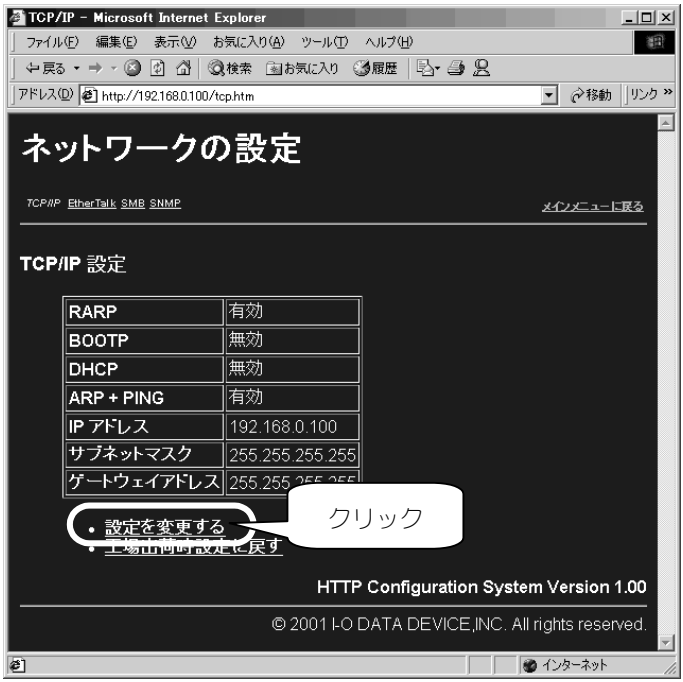
項目	設定内容	参照頁
ファームウェアのアップデート	本製品のファームウェアのアップデートを行います。	55

基本的な変更手順

ここでは、基本的な設定の変更手順の例をTCP/IPでの設定を例として説明します。
以下および次ページ以降の画面はすべてWindowsパソコンでの例です。

1 ［設定ページ］画面の［TCP/IP］をクリックします。

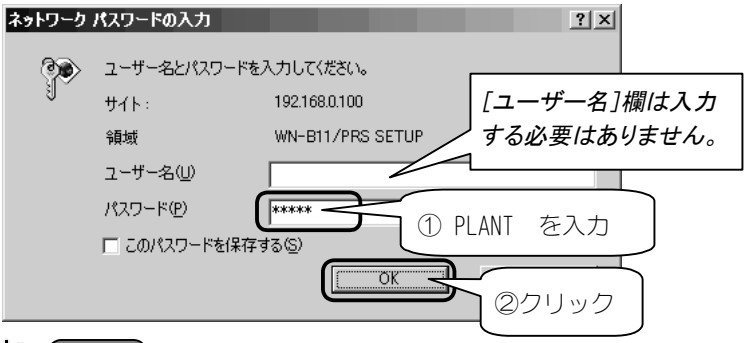
2 以下の画面が表示されます。
画面の［設定を変更する］をクリックします。



3 以下の画面が表示されます。
以下を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

ユーザー名： 入力する必要はありません。
パスワード： PLANT （半角大文字）

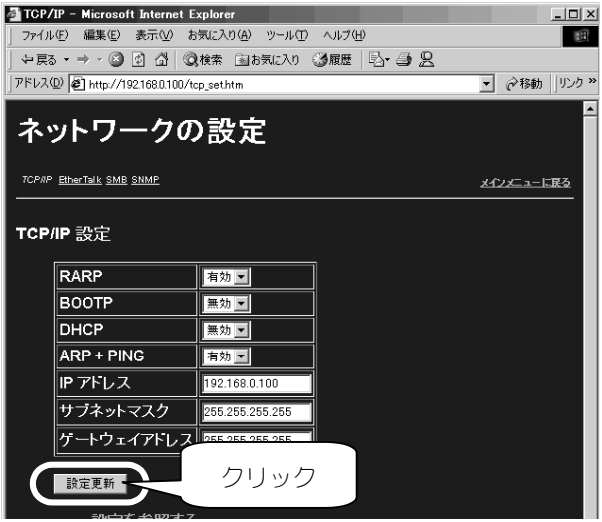
※パスワードを変更している場合は、変更したパスワードを入力します。



参考

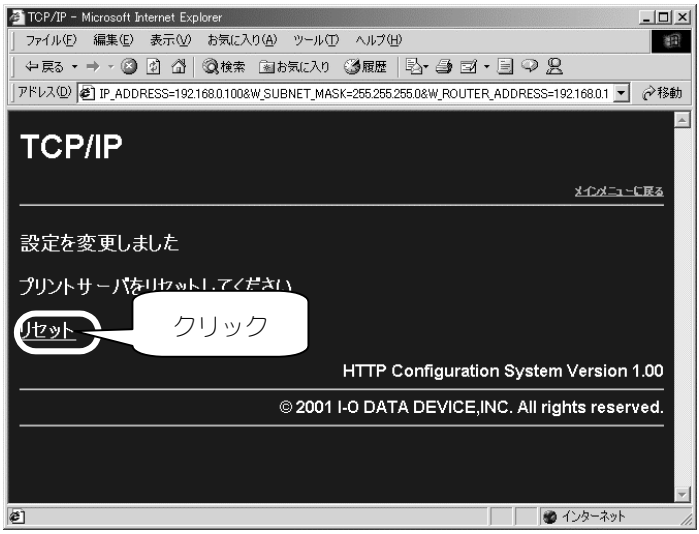
[パスワード]は管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定することを防ぐためのものです。出荷時の[パスワード]は[PLANT]となっていますが、必要に応じて変更してください。変更方法は、54 ページを参照してください。

4 必要に応じて、設定を変更します。
変更後、[設定更新]ボタンをクリックします。



5 設定終了後、変更を有効にするために
[リセット]をクリックします。

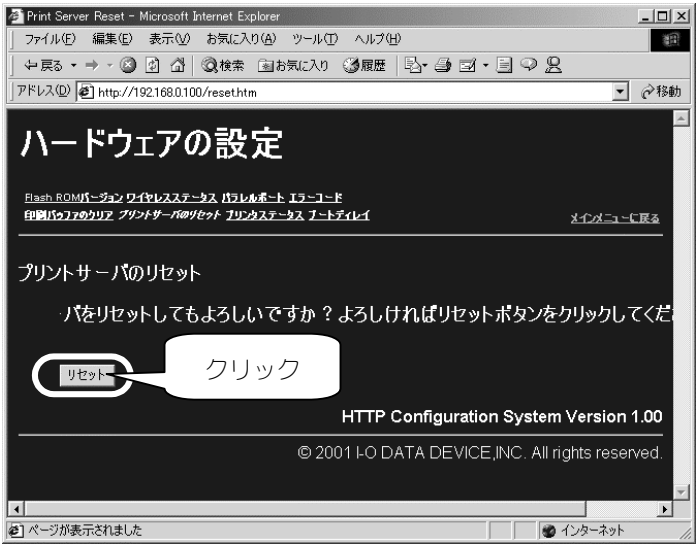
※再度設定を見なおしたり、設定をやり直す場合は、メニュー上の[戻る]で
設定をやり直してください。



注意！

修正した内容を本製品に反映するには、[設定更新]ボタンだけでは反映されません。上記の[リセット]クリック後、次ページの[リセット]ボタンをクリックし、本製品の再起動（リセット）を行うことで、初めて設定した内容が本製品に反映されます。

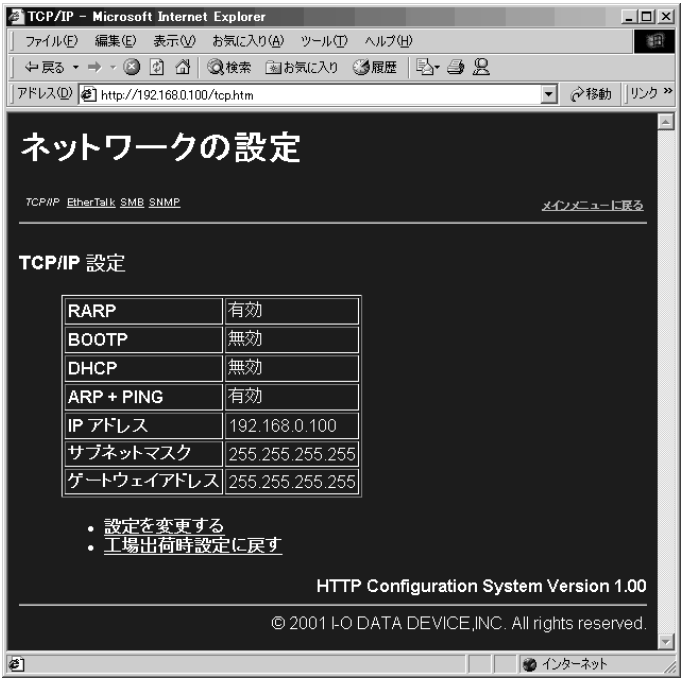
6 以下の画面で[リセット]ボタンをクリックします。



本製品を自動的にリセット（再起動）し、設定が反映されます。
以上で設定終了です。

［TCP/IP］の設定

設定画面の［TCP/IP］をクリックすれば、本製品のTCP/IP環境の設定を変更することができます。



項目	内容
RARP	RARPサーバが存在する環境では、本製品のTCP/IP設定をRARPサーバから取得することができるようになります。 （有効/無効）
BOOTP	BOOTPサーバが存在する環境では、本製品のTCP/IP設定をBOOTPサーバから取得することができるようになります。 （有効/無効）

項目	内容
DHCP	DHCPサーバが存在する環境では、本製品のTCP/IP設定をDHCPサーバから取得することができるようになります。 （次ページの【DHCPをご利用になる場合の注意】も参照してください。） （有効/無効）
ARP + PING	同一セグメント内において、“ARP”と“PING”によるIPアドレスの設定ができるようになります。 （有効/無効） 25ページの【WindowsでARP,PINGによるIPアドレスの設定手順】も参照してください。
IPアドレス	本製品に割り当てるIPアドレスを入力します。
サブネットマスク	ご使用になる環境にサブネットマスクが設定されている場合は、同一のマスクを入力する必要があります。
ゲートウェイアドレス	ご使用になる環境にゲートウェイ（ルータ）が存在する場合には、ゲートウェイ（ルータ）のIPアドレスを入力する必要があります。 ゲートウェイ（ルータ）を使用していない場合でも空白にはできません。

設定を変更する	設定を変更する場合にクリックします。
工場出荷時設定に戻す	本製品のTCP/IP環境の設定を工場出荷時に戻します。

DHCPをご利用になる場合の注意

［DHCP］項目を［有効］に設定して、IPアドレスをDHCPサーバ（例：Windows 2000 サーバおよびWindows NTサーバなど）から取得する設定にした場合は、DHCP サーバの設定時に本製品のIPアドレスを予約するようお薦めします。

DHCPを使用するとIPアドレスの管理が簡単になりますが、本製品を含め各DHCP クライアントが使用するIPアドレスが固定でなくなります。本製品の場合、本製品のIPアドレスが変わると印刷をするパソコンの印刷時の設定変更が必要になります。（各パソコンの印刷用設定時に本製品のIPアドレスを指定している場合）
このような事態を避けるため、DHCPサーバの中にはIPアドレスの予約ができるようになっているもの（例：Windows 2000サーバおよびWindows NTサーバなど）がありますので、予約ができる場合は、DHCPサーバの設定時に本製品のIPアドレスを予約してください。

注意！

ネットワーク上に WINS サーバが存在し、WINS による名前解決を行える環境で、以下の場合は IP アドレスの予約を行う必要はありません。

- **［SMB］の設定で［WINS］項目を［有効］にしている（34 ページ）**
- **［TCP/IP］の設定で［DHCP］項目を［有効］にしている（21 ページ）**

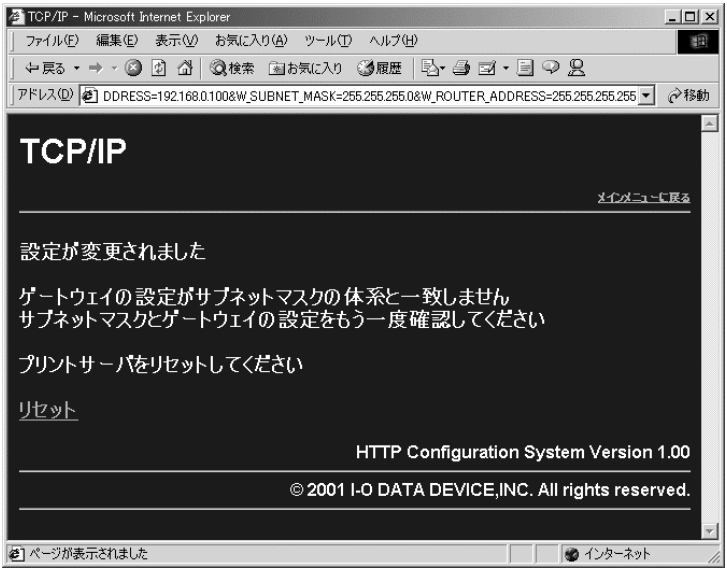
［サブネットマスク］のみ変更時の注意

出荷時の設定から以下の例のように［サブネットマスク］のみを変更した場合は以下の画面が表示されますが、問題なく［サブネットマスク］を設定できます。

・サブネットマスク変更例

出荷時の［サブネットマスク］		変更した［サブネットマスク］
255.255.255.255	→	255.255.255.0

・変更時に表示される画面例



WindowsでARP,PINGによるIPアドレスの設定手順

(1)設定したい本製品の MAC アドレスをメモしておきます。
（本製品底面のラベル面に記載されている[00A0B0]ではじまる数値が本製品の MAC アドレスです。）

(2)設定したい IP アドレスを決定します。

(3)MS-DOS プロンプト（またはコマンドプロンプト）より次のように入力します。

C:¥WINDOWS>arp -s xxx.xxx.xxx.xxx 00-a0-b0-yy-yy-yy

xxx.xxx.xxx.xxx ： 設定したい IP アドレス

yy-yy-yy ： 本製品の MAC アドレス下6桁

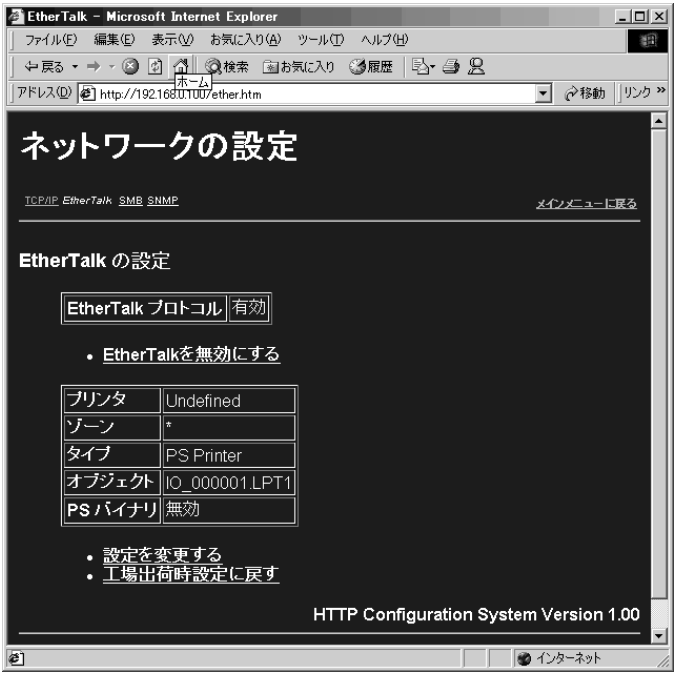
(4)さらに次のように入力します。

C:¥WINDOWS>ping xxx.xxx.xxx.xxx

(5)以上の手順で IP アドレスを割り振ることができます。

[EtherTalk]の設定

設定画面の[EtherTalk]をクリックすれば、本製品の本製品のMacintosh用のEtherTalkに関する設定を変更することができます。



注意！

初期設定では EtherTalk を使用する設定（[EtherTalk プロトコル]項目が[有効]）になっています。
ご使用のネットワーク内に Macintosh パソコンがない場合など、EtherTalk でご使用にならない場合は、[EtherTalk プロトコル]項目を[無効]に設定してください。（【EtherTalk で使用しない場合の注意】29 ページ参照）

項目	内容
EtherTalk プロトコル	EtherTalkの環境下で本製品を使用する/しないを選択します。（有効/無効）
プリンタ	［タイプ］項目で［PS Printer］［AT-MJColor］を選択した場合には、ご使用になられるプリンタの機種をリストから選択します。（30ページ【［プリンタ］項目に関する注意】も参照してください。） ※［サポートするパラレルポートモード］項目が、［ECPモード］または［NIBBLEモード］の場合はプリンタの情報を自動的に取得することがあります。その場合は変更を行わないでください。
ゾーン	ご使用になる環境にゾーンが設定されている場合は、本製品が所属するゾーンを割り当てることができます。
タイプ	本製品に接続したプリンタ用のプリンタドライバをリストから選択します。（31ページ【［タイプ］項目に関する注意】も参照してください。
オブジェクト	Macintoshのセレクタ上から見えるプリンタ名であり、任意に設定できます。 ※オブジェクト名として使用できるのは以下の文字以外のASCII文字で長さ32文字以内です。 =(イコール)、 *(アスタリスク)、 ~(チルダ)、 @(アットマーク)、 :(コロン)
PSバイナリ	［タイプ］項目で［PS Printer］を設定しているときに本項目［PSバイナリ］の設定内容が有効になります。 ［有効］：バイナリデータを印刷できます。（ASCIIデータも印刷できます）。 ［無効］：ASCIIデータのみとなります。 ※TBCP非対応のプリンタに対して、PSバイナリを［有効］にして印刷すると、正常に動作しません。 ※本製品はBCPには対応していません。

設定を変更する	設定を変更する場合にクリックします。
工場出荷時設定に戻す	本製品のEtherTalkの設定を工場出荷時に戻します。

参考

[ECP]、[PS バイナリ]、[TBCP]、[BCP]、[Nibble]、[Compatible]、[ASCII]、[バイナリ]とは

→ECP とは、

ECP(Extended Capability Port)は HP と Microsoft の 2 社より提案され、IEEE1284 で標準化されている規格です。データ圧縮転送(RLE)をサポートし、高速な転送が可能です。

→PS バイナリとは、

PostScript を使用して印刷データをバイナリで処理します。
別に[PS アスキー]も存在し、PostScript を使用して印刷データを ASCII で処理します。印刷に時間がかかります。

→TBCP とは、

TBCP(Tagged Binary Communications Protocol)はタグ付きバイナリ通信プロトコルです。BCP と互換性はありません。タグを使用して、送信側と受信側を接続し、通信を行います。ASCII より高速に印刷する事ができます。

→BCP とは、

BCP(Binary Communications Protocol)は 8 ビット値で表現できる任意の 256 種類のデータを転送する事ができます。バイナリイメージを含んだ PostScript ジョブの送信に一連の制御文字を含むデータを送信する事ができます。ASCII より高速に印刷する事ができます。

→Nibble(ニブル)とは、

Compatible を双方向に対応させたパラレルポートのモードです。

→Compatible(コンパチブル)とは、

片方向(出力)のみ通信可能な低速なパラレルポートのモードです。

→ASCII(アスキー)とは、

ASCII コードのみで記述されているテキストファイルなど

→バイナリとは

アプリケーション独自のデータなどで構成されるファイルなど

EtherTalkで使用しない場合の注意

本製品は起動すると、EtherTalkの仕様に基づき、定期的にパケットを送出します。これはネットワーク上でEtherTalkを使用していない場合にも行われます。(TCP/IPについては、設定により起動時にのみRARP/BOOTP/DHCPのパケットを送出します。起動後は要求がない限り送出しません。)
このため、本製品の接続されているネットワークが、ダイヤルアップ式のルータで他のネットワークに接続されている場合、これらのパケットが送出されるたびにダイヤルアップしてしまう可能性があります。(常時通話中になる場合もあります。)

ルータを越えた先に印刷する必要が無い場合や、EtherTalkを使用しない場合には、この現象を回避するために以下のどちらかの設定を行う必要があります。

・*ルータに本製品からのパケットを通過させないよう設定する。*
　設定方法については、ルータの取扱説明書などをご覧ください。

注意！

上記設定を行うと、ルータを超えた EtherTalk 経由の印刷はできなくなります。

・*本製品がEtherTalkのパケットを送出しないよう設定する。*
　26ページの画面で［EtherTalkプロトコル］項目を［無効］に設定してください。

[プリンタ]項目に関する注意

ここでは、設定する[プリンタ]項目(26ページ参照)に関する注意を説明します。
本製品に接続するプリンタがPostScriptプリンタ、またはEPSON製カラーインクジェットプリンタおよびEPSON製レーザプリンタの場合はプリンタの機種名を設定しなければ、印刷できない場合があります。それ以外のプリンタを使用する場合はこの項目を設定する必要はありません。

使用するプリンタ	設定内容など
PostScriptプリンタ	[プリンタ]項目リストの中に使用するプリンタがある場合は選択します。 ***【注意】*** [PSバイナリ]項目(26ページ参照)が[無効]の場合は、PostScriptプリンタへのデータ出力はASCIIデータのみに限られます。 *【参考】* リストにないプリンタ、またはハードディスクにオプションのフォントを追加しているプリンタを使用する場合は情報の取得を行う必要があります。32ページ【参考:プリンタの情報取得】も参照してください。
EPSON製カラーインクジェットプリンタ	[プリンタ]項目リストの中に使用するプリンタがある場合は選択します。 ***【注意】*** プリンタが双方向通信可能な設定になっており、本製品の[サポートするパラレルモード]項目の設定(46ページ参照)を自動/ECPモード/Nibbleモードにし、プリンタ→本製品の順に電源を投入した場合、プリンタ名を双方向通信にて取得します。その場合は[プリンタ]項目を設定する必要はありません。
EPSON製レーザプリンタ	レーザプリンタの場合、ほとんどが[プリンタ]項目を設定する必要がありません。 プリンタが双方向通信可能な設定になっており、本製品の[サポートするパラレルモード]項目の設定(46ページ参照)が、自動/ECPモード/Nibbleモードに設定されていることを確認してください。

[タイプ]項目に関する注意

ここでは、設定する[タイプ]項目（26ページ参照）に関する注意を説明します。

使用プリンタ	設定内容など
PostScript プリンタ	[タイプ]項目リストから[PS Printer]を選択します。 **【注意】** [PSバイナリ]項目(26ページ参照)が[無効]の場合は、PostScriptプリンタへのデータ出力はASCIIデータのみに限られます。
ESC/Pプリンタ	EPSON製のVPシリーズのAppleTalk対応プリンタドライバをインターネットなどからダウンロードして使用してください。
EPSON製ESC/Pageプリンタ	EPSON製LP-8200以前のプリンタは、以下の3種類のプリンタドライバに対応しています。 [AT-T1ESC/Page]、[AT-T2ESC/Page]、 [AT-T3ESC/Page] これらを使用する場合は、[タイプ]項目リストからプリンタドライバと同じ名前を選択します。 LP-8200以降は[AT-EP3Page]に対応しています。
EPSON製カラーインクジェットプリンタ	本製品は、以下の2種類のプリンタドライバに対応しています。 [AT-MJColor]、[EPSON MJ/PM(AT)] このプリンタドライバを使用する場合は、[タイプ]項目リストから[AT-MJColor]を選択します。 **【注意】** [AT-MJColor]に設定した場合、EPSON製マッハジェットプリンタ以外ではプリンタのジョブランプが点滅し、本製品の電源を切ると印刷を実行しなくても 紙が排出されます。 これは、[AT-MJColor]で印刷するためのコマンドが印刷されるためです。動作異常ではありませんので、本製品の設定を確認して正しい設定を行ってください。
キャノン製LIPSプリンタ	本製品は[PrintCaddie]というプリンタドライバに対応しています。 このプリンタドライバを使用する場合は、[タイプ]項目リストから[LaserShot AppleTalk]を選択します。
Macintoshでは使用しない場合	[タイプ]項目リストから[Set EtherTalk inactive]を選択します。
上記以外のAppleTalk対応プリンタ	[タイプ]項目リストから[ユーザー設定]を選択してタイプ名を直接入力すると使用できるものもあります。

参考:プリンタの情報取得

Webブラウザでの[設定ツール]のリストにないPostScriptプリンタまたはハードディスクに追加のフォントをダウンロードしているPostScriptプリンタを使用する場合は以下の手順でプリンタ情報の取得を行ってください。

注意!

・AirMac 対応 Macintosh のみの環境では、この手順はご利用いただけません。
・以下の手順を行うには、アクセスポイントと有線 LAN 接続できる、LocalTalk ポートを持った Macintosh が必要です。また、プリンタにも LocalTalk ポートが必要です。(詳細については、Macintosh およびプリンタの取扱説明書またはメーカーにお問い合わせください。)
・設定ツールの[プリンタ名]リストに載っていない PostScript プリンタで、そのプリンタの持っているフォントがあらかじめ本製品の持っているフォント情報と一致する場合のみ設定可能です。

1 PostScriptプリンタおよび本製品の電源を入れます。

2 LocalTalkポートを持つMacintoshとアクセスポイントを有線LANで接続します。

3 PostScriptプリンタと***2***の手順で準備したMacintoshをLocalTalkケーブルで接続します。この時、MacintoshのLocalTalkポートにはプリンタのみを接続してください。

4 設定用パソコンで、アクセスポイントと本製品を通信できるように設定します。([Infrastructure]モード)

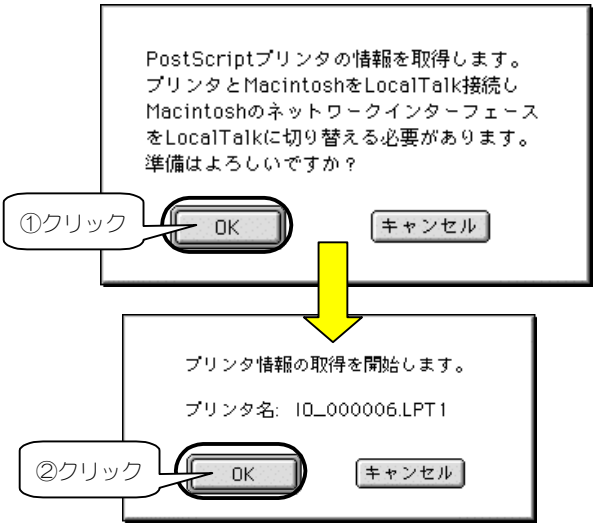
参考

アクセスポイントについてはアクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

5 ***3***の手順で準備したMacintoshに、本製品の[Macintosh用設定ツール]をインストールし、設定ツールを起動後、本製品を設定できる状態にします。
(【設定画面の起動】(124ページ)の ***1*** ～ ***6***の手順)

6 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[AppleTalk]をクリックし、[経由先]を[LocalTalk]に変更します。

7 Macintosh用設定ツールの[セットアップ]メニュー→[EtherTalk]→[PSプリンタ情報の取得]で、本製品を接続したプリンタに関する情報を取得します。



8 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[AppleTalk]をクリックし、[経由先]を[EtherTalk]に変更します。

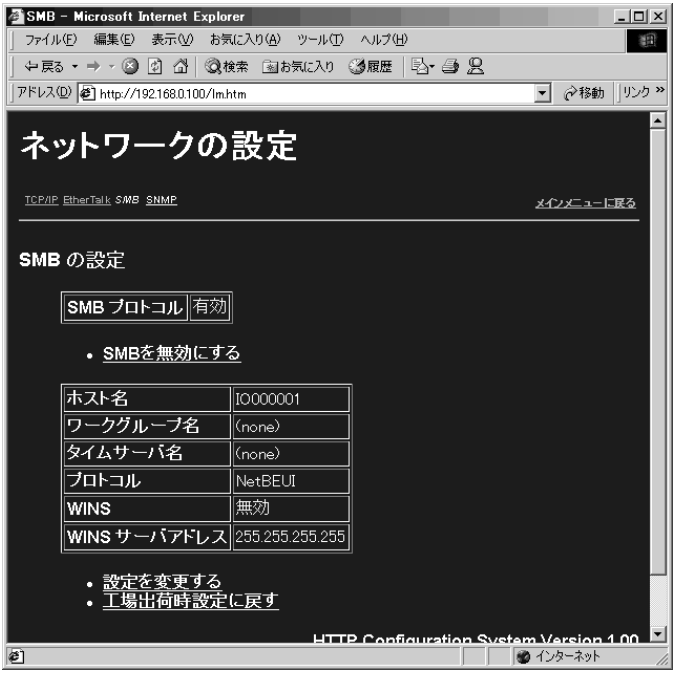
9 Macintosh用設定ツールの[セットアップ]メニュー→[EtherTalk]→[取得した情報の設定]を選択します。

10 設定終了後、確認のための画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。

以上でプリンタの情報取得は終了です。

［SMB］の設定

設定画面の［SMB］をクリックすれば、本製品のWindows用のSMBに関する設定を変更することができます。



注意！

初期設定では SMB を使用する設定（［SMB プロトコル］項目が［有効］）になっています。ご使用のネットワーク内に Windows パソコンがない場合など、SMB でご使用にならない場合は、［SMB プロトコル］項目を［無効］に設定してください。（【SMB で使用しない場合の注意】37 ページ参照）

参考

［SMB］とは

→SMB（Server Message Block）とは、Windows でネットワークを通じてファイル・プリンタ共有を実現するプロトコルです。

項目	内容
SMBプロトコル	SMBを使用する/しないを選択します。(有効/無効)

ホスト名	ネットワーク上での本製品の名称を指定してください。 (半角英数字15文字以内) ※他の機器と同じ名前を使用することはできません。 必ず固有の名前を指定してください。
ワークグループ名	使用するドメイン名またはワークグループ名を指定してください。 (半角英数字15文字以内) ドメイン管理を使用していない場合は、特に入力する必要はありません。 ドメイン管理している場合は、使用するドメイン名を指定してください。
タイムサーバ名	本製品に設定したドメインのドメインコントローラを指定してください。(TCP/IP使用時のみ) タイムサーバ名を設定しなくても印刷には影響しませんが、プリントジョブ情報の時間が正しく表示されません。 Windows NT 4.0サーバおよびWindows NT 3.51サーバを使用していない場合やドメインの設定をしない場合は、このタイムサーバ名は無効です。 ※下位プロトコルでTCP/IPを選択した場合のみ設定可能です。
プロトコル	SMBで使用する下位プロトコル(NetBEUIまたはTCP/IP)を選択します。
WINS	WINSを使用する場合に[有効]にしてください。 WINSをサポートしている環境では、WINSを有効にすることで本製品が起動時にWINSデータベースにホスト名とそのIPアドレスが自動的に登録され、ネットワーク内での名前の重複をさけることを可能にします。 ※ネットワーク上にWINSサーバが存在しない場合は、有効にする必要はありません。 ※ルータを越えた印刷を行う場合には、ゲートウェイアドレスとサブネットマスクを正しく設定(21ページ参照)する必要があります。

WINSサーバ アドレス	WINSを使用する場合には、WINSサーバのIPアドレスを設定する必要があります。 ※DHCPを使用してWINSサーバのIPアドレスを取得する場合は設定する必要はありません。(この場合には、DHCPを有効にする必要があります。) ただし、DHCPが有効であるにも関わらず、WINSサーバのIPアドレスを取得できない場合があります。この場合は、WINSサーバのIPアドレスを直接設定する必要があります。

注意！

SMB の仕様上、印刷中に別のクライアントより印刷要求があった場合には、後から印刷したデータはエラーとなり印刷できません。前の印刷が終了した後、再度印刷を行う必要があります。

注意！

ホスト名、ドメイン/ワークグループ名、タイムサーバ名は、下記の半角記号は入力禁止文字です。入力された場合は、カーソルが先頭に戻りますが、これは設定ツール側で入力されないように処理を行っているためです。

“”(ダブルクォーテーション)、 “=”(イコール)、 “|”(パイプ)、 “¥”(円マーク)、 “+”(プラス)、 “; ”(セミコロン)、 “*”(アスタリスク)、 “:”(コロン)、 “]”(大カッコ右)、 “[”(大カッコ左)、 “,”(カンマ)、 “<”(不等号小なり)、 “>”(不等号大なり)、 “?”(クエスチョンマーク)

設定を変更する	設定を変更する場合にクリックします。
工場出荷時設定に戻す	本製品のSMBの設定を工場出荷時に戻します。

SMBで使用しない場合の注意

本製品は起動すると、SMBの仕様に基づき、定期的にパケットを送出します。
これはネットワーク上でSMBを使用していない場合にも行われます。(TCP/IPについては、設定により起動時にのみRARP/BOOTP/DHCPのパケットを送出します。起動後は要求がない限り送出しません。)
このため、本製品の接続されているネットワークが、ダイヤルアップ式のルータで他のネットワークに接続されている場合、これらのパケットが送出されるたびにダイヤルアップしてしまう可能性があります。(常時通話中になる場合もあります。)

ルータを越えた先に印刷する必要が無い場合や、SMBを使用しない場合には、この現象を回避するために以下のどちらかの設定を行う必要があります。

・*ルータに本製品からのパケットを通過させないよう設定する。*
　設定方法については、ルータの取扱説明書などをご覧ください。

・*本製品が、SMBのパケットを送出しないよう設定する。*
　34ページの画面で［SMBプロトコル］項目を［無効］に設定してください。

［SNMP］の設定

設定画面の［SNMP］をクリックすれば、本製品のSNMPに関する設定を変更することができますが、特に変更する必要はありません。

参考

［SNMP］とは

→SNMP とは、簡易ネットワーク管理プロトコル（Simple Network Management Protocol）の略称で、ネットワーク上にある様々な機器を管理できる標準プロトコルです。

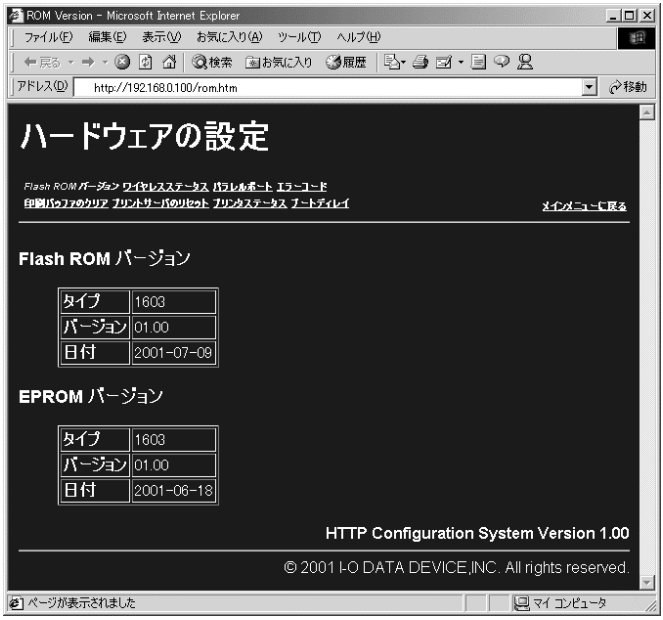
SNMP は、SNMP マネージャと SNMP エージェントから構成されています。基本的には、SNMP エージェントは管理されている機器に搭載されており、SNMP マネージャはエージェントから情報を得ます。マネージャ及びエージェントは、MIB（Management Information Base）と呼ばれる管理情報を持っており、この管理情報を基にして機器の管理を行います。

コミュニティ名＃1	本製品のSNMPコミュニティ名を設定できます。 （ASCII 31文字以内）
コミュニティ名＃2	本製品のSNMPコミュニティ名を設定できます。 （ASCII 31文字以内）

設定を変更する	設定を変更する場合にクリックします。
工場出荷時設定に戻す	本製品のSNMPの設定を工場出荷時に戻します。

［Flash ROMバージョン］の確認

設定画面の［Flash ROMバージョン］をクリックすれば、本製品のFlash ROMとBoot ROMで使用しているファームウェアのバージョン情報を表示します。



［ワイヤレスステータス］の設定

設定画面の［ワイヤレスステータス］をクリックすれば、本製品の無線に関する設定を変更することができます。

注意！

・通信モードに関係なく［SSID］や［WEP キー］をご使用の環境に合わせて、設定を行ってください。Ad Hoc モード時はさらに［チャンネル］も設定してください。
誤って設定した場合には、［TEST］ボタンによる工場出荷時設定に戻さなければ、通信できなくなることがあります。

・AirMac ネットワークをご使用になられている場合、AirMac の WEP Key を変更できないため、予め調べた WEP Key に合わせて本製品の暗号キーを設定してください。
（設定については、【AirMac での暗号化の設定】44 ページ参照）

MACアドレス	本製品のMacアドレスを表示します。
通信モード	現在、使用している無線ネットワークの環境にあわせて通信モードを選択します。
使用 チャンネル	無線LANを構成する装置同士（パソコンや本製品など）を同じチャンネルに設定する必要があります。 現在使用している無線LANの環境にあわせてAd-Hocチャンネルを選択します。 ※チャンネルの設定は、［Ad Hoc］モードの場合にのみ有効です。複数チャンネルが存在する環境の場合は、チャンネル同士を5つ以上離して設定してください。混信の恐れがあります。
WEPリクエスト	暗号化通信を行う際のWEP(Wired Equivalent Privacy)を設定した機器同士の認証手順の設定です。 現在、無線LANで使用している暗号キーの認証手順と同じ認証手順を設定する必要があります。
SSID	SSID(Service Set IDentifier)は、無線LANを構成する装置同士（パソコン、本製品やアクセスポイントなど）を識別する名前です。（半角英数字32文字以内） ※大文字、小文字は区別されます。 現在、無線LANで使用しているSSIDと同じSSIDを設定する必要があります。 同じネットワークに属するクライアント（パソコン、本製品やアクセスポイントなど）同士は、同じSSIDを設定しなければなりません。 出荷時のSSIDは［default］です。
通信 ステータス	現在の無線の状態を表示します。（変更はできません。）
データ転送 スピード	現在の転送レートを表示します。（変更はできません。）

設定を変更する	設定を変更する場合にクリックします。（次ページ参照）
工場出荷時設定に戻す	本製品のワイヤレスステータスの設定を工場出荷時に戻します。

●*41ページ画面の[設定を変更する]をクリック後の画面*

※[Ad Hoc]モードの場合、[設定更新]をクリック後、[使用チャンネル]を指定する画面となります。

通信モード	前ページの本項目に関する説明を参照してください。
WEPリクエスト	前ページの本項目に関する説明を参照してください。
WEPキー	暗号キーを生成するためのキー文字列です。通信相手側に設定したキー文字列と同じ文字列を入力する必要があります。 2桁ずつ合計10桁の16進数を設定できます。 ※大文字/小文字は区別されます。
デフォルトWEPキー	ドロップダウンリストで表示される[Key1]、[Key2]、[Key3]、[Key4]の中から1つの暗号キーを選択します。 このとき通信相手側に設定してある暗号キーと同じ暗号キーを選択する必要があります。選択された暗号キーでデータを暗号化および復号化します。 ※[デフォルトWEPキー]の設定の無いアクセスポイント(弊社製WN-B11/AXPなど)と通信する場合は、本設定を[Key1]に設定します。

AirMacでの暗号化の設定

AirMac と本製品とで暗号化通信を行う場合は、以下の 2 通りの方法があります。

注意！

AirMac のパスフレーズ（文字列から暗号生成）での設定では、本製品と暗号化通信を行うことはできません。
必ず以下のいずれかの手順で行ってください。

方法1：ASCII 5文字で行う方法

AirMac 側の設定	本製品側の設定
文字列の前後を ”” で囲んで設定します。 例） ″12345″	AirMac 側に設定した文字列の ”” 以外を 1 文字ずつ 16 進コード（次ページ参照）に変換して設定します。 右の例 ″12345″ の場合、本製品の［キー文字列］欄には、以下を入力します。 31 32 33 34 35

方法2：16 進 10 桁で行う方法

AirMac 側の設定	本製品側の設定
10 桁の 16 進数の先頭に $（ドルマーク）を付けて設定します。 例） $3132333435	AirMac 側に設定した $（ドルマーク）以外の 10 桁の 16 進数を設定します。 右の例 $3132333435 の場合、本製品の［キー文字列］欄には、以下を入力します。 31 32 33 34 35

●16進コード表

文字	16進
!	21
″	22
#	23
$	24
%	25
&	26
’	27
(	28
)	29
*	2a
+	2b
,	2c
−	2d
.	2e

文字	16進
/	2f
0	30
1	31
2	32
3	33
4	34
5	35
6	36
7	37
8	38
9	39
:	3a
;	3b
<	3c

文字	16進
=	3d
>	3e
?	3f
@	40
A	41
B	42
C	43
D	44
E	45
F	46
G	47
H	48
I	49
J	4a

文字	16進
K	4b
L	4c
M	4d
N	4e
O	4f
P	50
Q	51
R	52
S	53
T	54
U	55
V	56
W	57
X	58

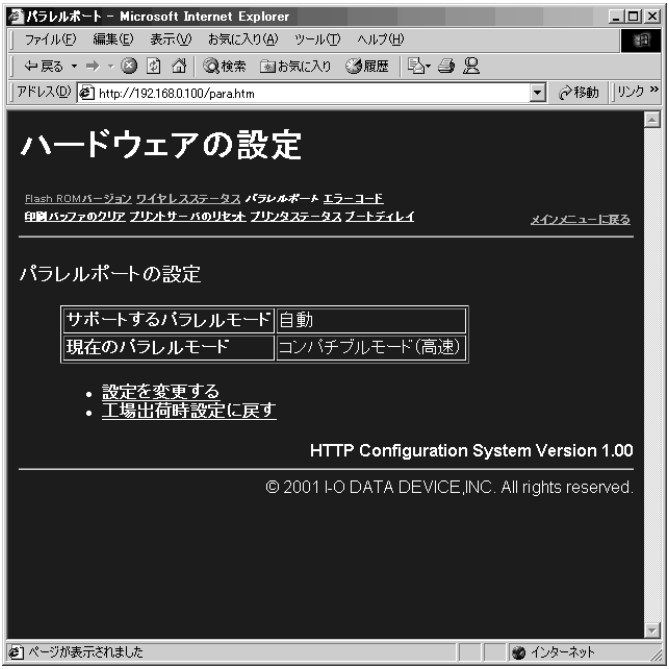
文字	16進
Y	59
Z	5a
[	5b
¥	5c
]	5d
^	5e
_	5f
`	60
a	61
b	62
c	63
d	64
e	65
f	66

文字	16進
g	67
h	68
I	69
j	6a
k	6b
l	6c
m	6d
n	6e
o	6f
p	70
q	71
r	72
s	73
t	74

文字	16進
u	75
v	76
w	77
x	78
y	79
z	7a
{	7b
|	7c
}	7d
~	7e

［パラレルポート］の設定

設定画面の［パラレルポート］をクリックすれば、本製品のパラレルポートに関する設定を変更することができます。



サポートするパラレルモード	本製品の電源を入れた時に、接続されているプリンタとの接続確認（ネゴシエーション）の設定変更ができます。 ※ECP/Nibbleをサポートしているプリンタと接続確認（ネゴシエーション）を行うためにはプリンタの電源が先に入っている必要があります。 ※本製品を［ECPモード］もしくは［Nibbleモード］に固定した場合は、プリンタが［ECPモード］もしくは［Nibbleモード］をサポートしていて、かつ、プリンタの設定と本製品の設定が一致している必要があります。この条件を満たさない場合は、接続確認（ネゴシエーション）エラーとなり印刷が行えません。

現在の パラレルモード	現在のパラレルモードを表示します。 パラレルポートの現在のモードは、本製品が起動時にプリンタのモードを自動認識したものを確認するもので変更はできません。

設定を変更する	設定を変更する場合にクリックします。（次ページ参照）
工場出荷時設定に戻す	本製品のパラレルポートの設定を工場出荷時に戻します。

［ECP］、［Nibble］、［コンパチブル］とは

→ECP とは、

ECP(Extended Capability Port)は HP と Microsoft の 2 社より提案され、IEEE1284 で標準化されている規格です。データ圧縮転送(RLE)をサポートし、高速な転送が可能です。

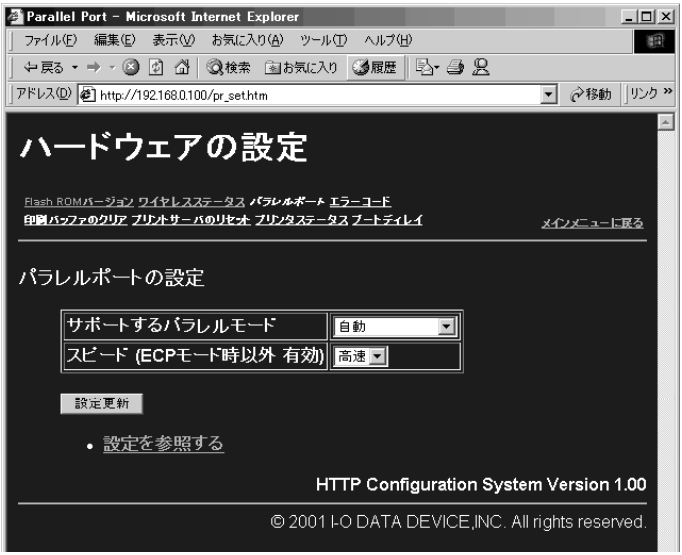
→Nibble（ニブル）とは、

Compatible を双方向に対応させたパラレルポートのモードです。

→コンパチブル（Compatible）とは、

片方向（出力）のみ通信可能な低速なパラレルポートのモードです。

●46ページ画面の[設定を変更する]をクリック後の画面



サポートする パラレルモード	46ページの本項目に関する説明を参照してください。
スピード	本製品のパラレルポートの転送速度を設定します。 パラレルポートへのデータの転送速度を2段階に設定できます。ただし、接続されているプリンタのパラレルポートの設定で「コウソク」などが選択できないプリンタの場合に、本製品の設定を[高速]に設定すると正常に印刷できないことがあります。 ※[スピード]項目の設定は、[サポートするパラレルポートモード]項目が、[ECPモード]の場合は無効です。

注意！

・自動、ECP、 NIBBLE モードを使用する場合は、必ずプリンタの電源を入れた後に本製品の電源を入れてください。
また、ECP・NIBBLE モード固定の場合はプリンタがサポートしていない場合、または、設定が一致していない場合はネゴシエーションエラーとなり印刷できません。
・スピード設定(通常/高速)の変更は、ECP モード時以外に有効です。

［エラーコード］の確認

設定画面の［エラーコード］をクリックすれば、本製品に過去に発生したエラーの履歴を確認することができます。

エラーコードが格納されている領域は40番地から始まります。上の列に表示されている番地はエラーコードがかかれるアドレスのオフセットを表しています。
通常エラーが発生した場合、40番地から45番地にエラーコードが書かれます。
各番地に対して、エラーが発生していない場合は‘FF’が表示されます。

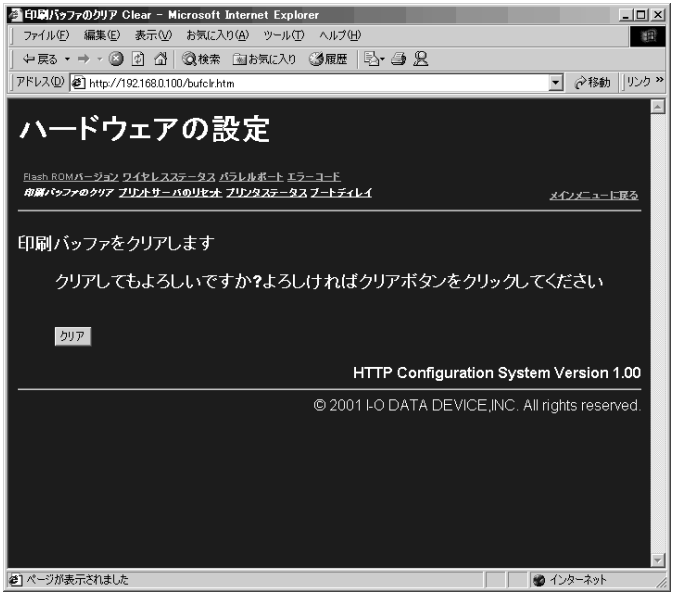
注意！

本製品はエラーが発生すると、クリアしない限り以前のエラーコードを保存しています。エラーが発生した後は、クリアしてからご使用ください。

工場出荷時設定に戻す	本製品のエラーコードの値を工場出荷時に戻します。

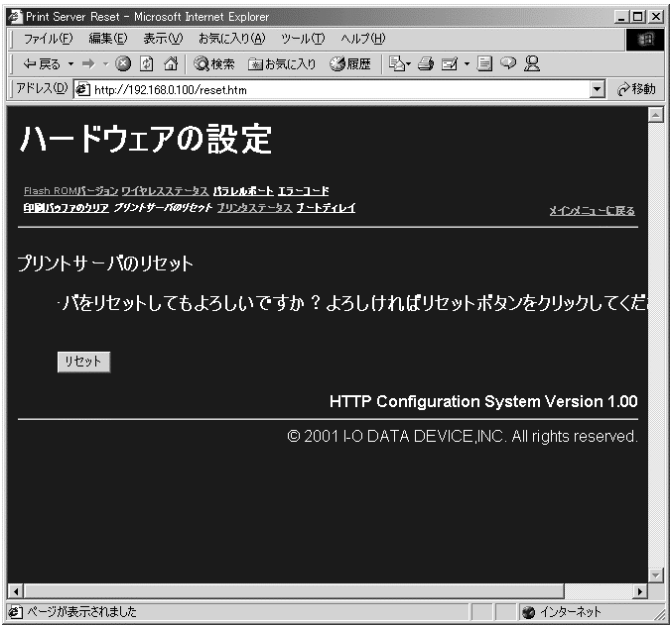
［印刷バッファのクリア］

設定画面の［印刷バッファのクリア］をクリックすれば、本製品本体の印刷バッファの内容を消去します。



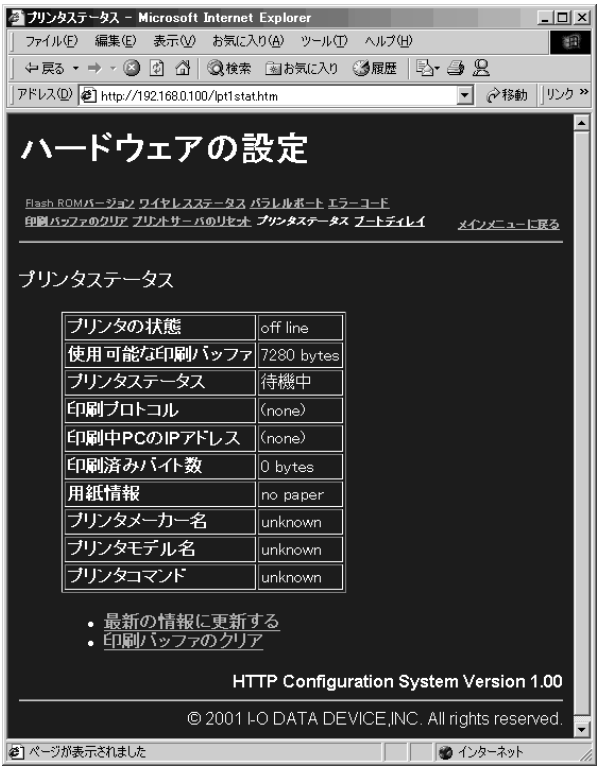
［プリントサーバのリセット］

設定画面の［プリントサーバのリセット］をクリックすれば、本製品を再起動します。
（ソフトウェアリセット）



［プリンタステータス］

設定画面の［プリンタステータス］をクリックすれば、プリンタに関する情報を表示します。



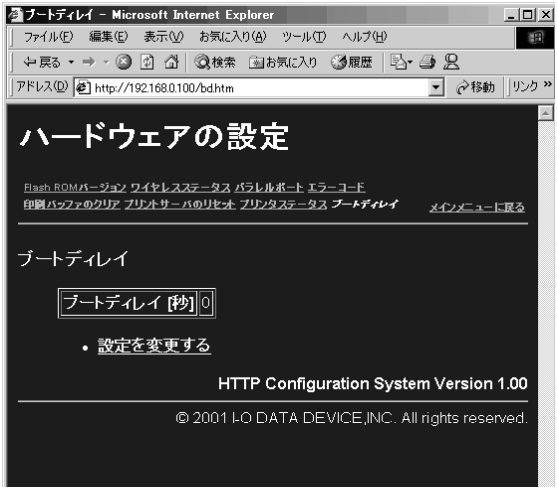
最新の情報に更新する	プリンタに関する情報を最新の情報に更新して表示します。 ※ただしこの機能を使用するためには、ブラウザ上でページの更新設定が必要になります。
印刷バッファのクリア	本製品本体の印刷バッファの内容を消去します。

［ブートディレイ］の設定

設定画面の［ブートディレイ］をクリックすれば、本製品の起動時の遅延時間を変更することができます。

注意！

通常は変更する必要はありません。

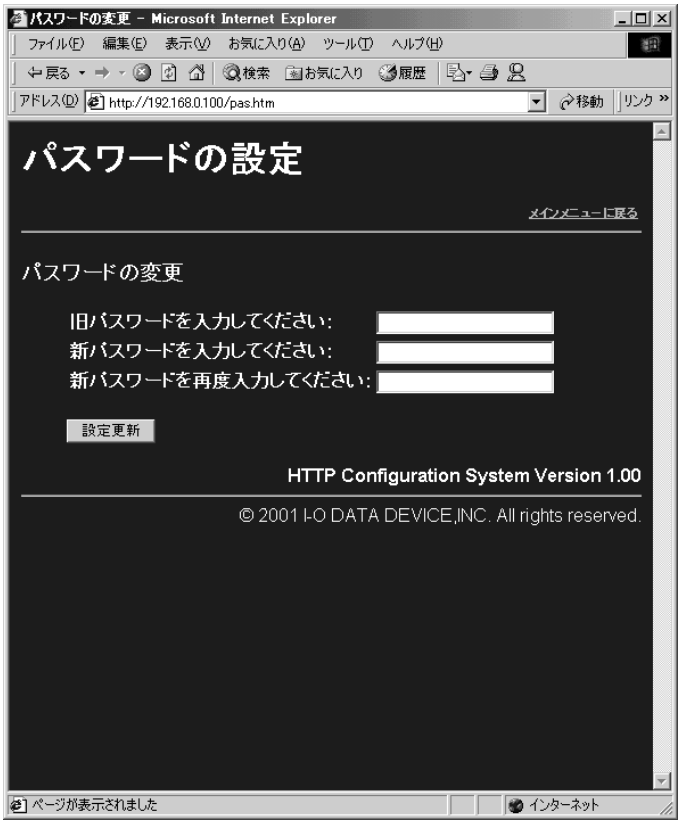


ブートディレイ	本製品起動時の遅延時間の確認と変更を行います。 通常は変更する必要はありません。 設定値：0～240（秒） ※本製品とアクセスポイントを同じコンセントにしている場合では、本製品とアクセスポイントは同時に電源が投入されます。 この場合、本製品の方が先に起動しますので、この時にDHCPなどの関係で不都合が生じる場合、ブートディレイが有効な手段となります。

設定を変更する	本製品の起動時遅延時間を変更する場合にはクリックします。

［パスワードの変更］

設定画面の［パスワードの変更］をクリックすれば、ブラウザ、設定ユーティリティ本製品にログインするときのパスワードを変更することができます。



注意！

パスワードは 4 文字以上 15 文字以下で大文字小文字を区別し、半角 A～Z、a～z、0～9 を使用できます。パスワードは変更時より有効になります。
本製品をリセットまたは電源再投入する必要はありません。

ファームウェアのアップデート

本製品のファームウェアを最新のファームウェアにアップデートすることができます。
※設定ツール画面のメニュー項目内にはありません。

注意！

次ページ*3*の手順以降の画面はすべて英語で表示されます。ご了承ください。

1 弊社ホームページ(http://www.iodata.co.jp/)から
本製品の最新のファームウェアファイルを入手してください。

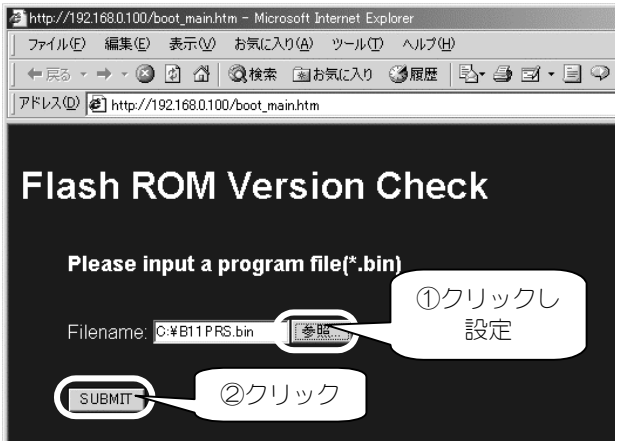
2 Webブラウザのアドレス欄に以下を入力して[ENTER]キーを押すと以下の画面が表示されます。

http://xxx.xxx.xxx.xxx/ver_up.htm

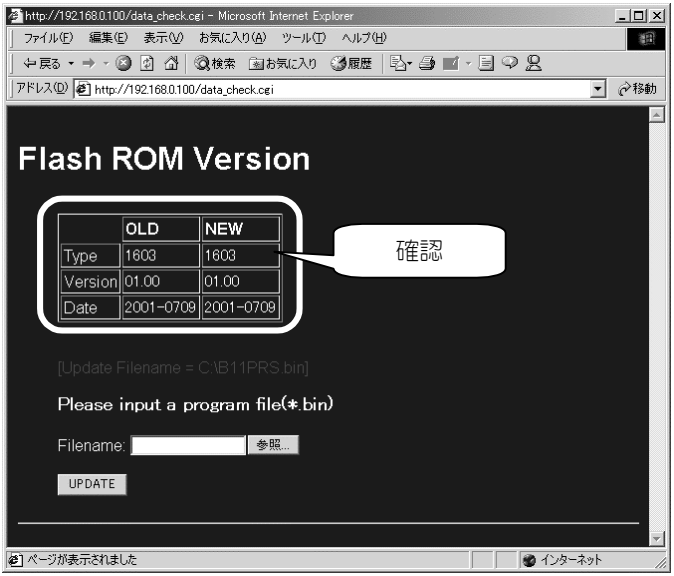
（xxx.xxx.xxx.xxxは本製品に設定したIPアドレス）

次ページ*3*の手順の画面が表示されるまでしばらくお待ちください。

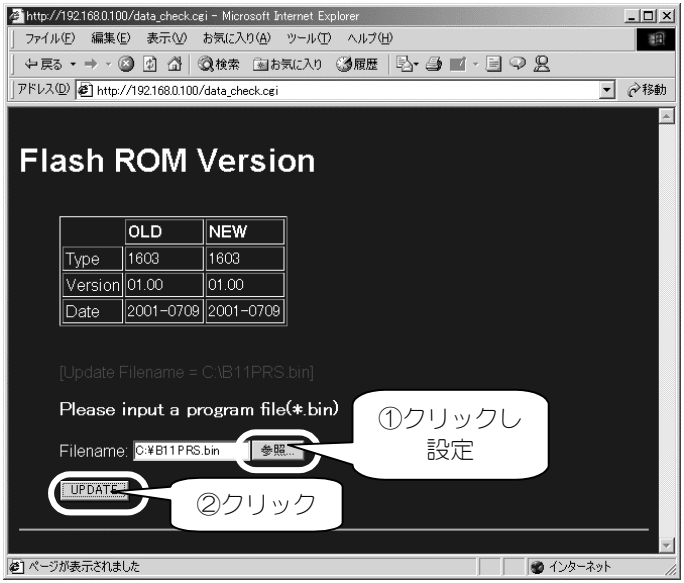
3 [参照]ボタンをクリック後、*1*の手順で入手したファームウェアファイルを選択します。
選択後、[SUBMIT]ボタンをクリックします。



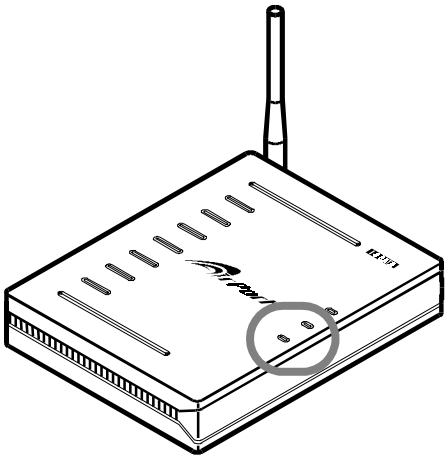
4 新旧([OLD]、[NEW])ファームウェアのバージョンが表示されます。
表示されているかを確認します。



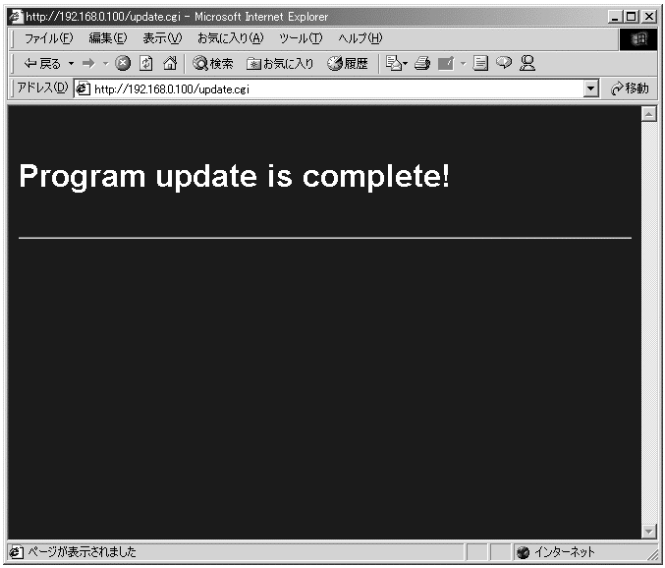
5 再度[参照]ボタンをクリック後ファームウェアファイルを選択し、[UPDATE]ボタンをクリックします。



6 本製品の[POWER]ランプ([緑LED])がゆっくり点滅し、[STATUS]ランプ([黄LED])がゆっくり点滅します。



7 以下の画面が表示されればファームウェアのアップデートは終了です。



参考

[ファームウェアのバージョンの確認方法]

上記の手順でファームウェアをアップデートした場合などに以下の手順でバージョンを確認することができます。

1. **InternetExplorer の[アドレス]欄に以下を入力し、[Enter]キーを押します。**
   http://xxx.xxx.xxx.xxx/
   (xxx.xxx.xxx.xxx は本製品に設定した IP アドレス)
2. **設定画面の[Flash ROM バージョン]をクリックします。**
3. **ファームウェアのバージョンをご確認ください。**

Windows 版設定ツールの詳細

ここでは、別冊【Windows編】で使用している［Windows版設定ツール］の詳細について説明します。
必要に応じてお読みください。

・メイン画面 …… 61
メイン画面について …… 61
起動方法 …… 65
終了方法 …… 66

・[ファイル]メニュー …… 67
新規グループの作成 …… 68
開く …… 69
名前を付けて保存 …… 70
最新のファイル …… 71
アプリケーションの終了 …… 72
参考：情報ファイルを利用したネットワーク管理について …… 73

・[表示]メニュー …… 74
ステータス …… 75
プリンタステータス …… 77
最新情報に更新 …… 80
自動更新の設定 …… 81
検索 …… 83

・*[設定]メニュー…… 84*
プロパティ…… 85
IP アドレスの設定…… 86
エラー履歴のクリア …… 88
工場出荷時に戻す…… 89
リセット…… 90
ダウンロード…… 91
コミュニティ名の設定 …… 96

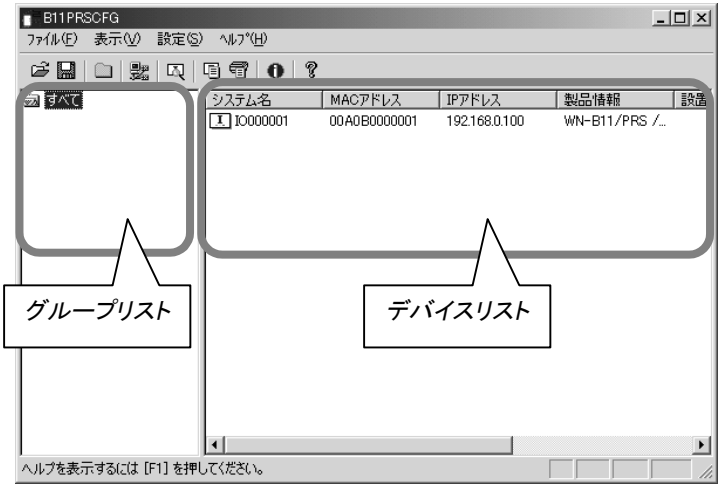
・*[ヘルプ]メニュー…… 97*
ヘルプトピックス …… 98
バージョン情報 …… 99
サポート情報 …… 100

・*[プロパティ]画面……101*
プロパティ画面の起動方法 …… 102
システム名を設定する…[一般情報]タブ…… 103
コミュニティ名を設定する…[SNMP]タブ…… 104
本製品の IP アドレスを設定する・・[TCP/IP]タブ…… 105
SMB を設定する…[SMB]タブ…… 108
EtherTalk を設定する…[EthnerTalk]タブ…… 111
ハードウェアを設定する…[ハードウェア設定]タブ …… 117
無線情報を設定する…[無線]タブ…… 119

メイン画面

ここでは、Windows設定ツールのメイン画面について説明します。

メイン画面について



グループリスト	グループを表示します。 グループを追加することで管理目的に合わせて自由にグループを構成することができます。 グループの追加方法については【新規グループの作成】(68ページ)を参照してください。
デバイスリスト	デバイスリストウィンドウはグループリストウィンドウで選択されたグループに属するネットワーク機器の製品名やネットワークアドレスがリスト表示されます。 本製品の場合は、アイコン [I] で表示されます。 また、通信不能状態(電源が切られた場合など)になると、[×] のように×印で表示されます。

● *[デバイスリスト]の各項目*

システム名	MIB-ⅡのsysNameの内容を表示します。
MACアドレス	本製品のMACアドレスを表示します。 (MIB-ⅡのifPhysAddrss の内容を表示します。) MACアドレスは本製品裏面に記載されています。
IPアドレス	製品に設定されているIPアドレスを表示します。
製品情報	MIB-ⅡのsysDescrの内容を表示します。
設置場所	MIB-ⅡのsysLocationの内容を表示します。
登録 グループ名	ユーザグループに登録されている本製品の場合は、 そのユーザグループ名が表示されます。 デフォルトグループに登録されている本製品は表示されません。
最終通信日時	本「設定ツール」と、リストに表示されている本製品を含むネットワーク機器が最後に通信した日時を表示します。 ただし、「設定ツール」を起動後に、[ファイル]メニュー→[開く]で過去のリストを開いた場合は、現在稼働中のネットワーク機器に関しても過去に最後に通信した時間になりますので、その場合には最新情報に更新を実行すれば最終通信日時は更新されます。

● *起動時の[デバイスリスト]の表示について*

[デバイスリスト]ウィンドウに表示されているネットワーク機器は、[設定ツール]を終了するときに自動的にネットワーク機器のリスト情報を、初期設定の場合、「StartUpFile.kdf」という名前の「情報ファイル」として保存します。

次回以降に、「設定ツール」を起動する際には、このファイルからネットワーク機器の情報を読み込んで起動します。

また、起動時には、ルータ内に新しく追加された機器なども自動検索で追加されます。

注意！

「設定ツール」を起動時に、情報ファイル「StartUpFile.kdf」に保存されている本製品の情報と、その本製品の現在の IP アドレスが異なる設定がされている場合は、通信不能状態(X 印)で表示されます。これは、「設定ツール」以外の設定ツールにて本製品の IP アドレスを変更した場合に発生しますが、「設定ツール」の仕様として本製品とユニキャストにて通信しているためで、「設定ツール」の動作がおかしくなったわけではありませんのでご注意ください。

● *[デバイスリスト]のソート機能*

[デバイスリスト]は起動時および更新時の返答順にリストを作成していますので、ネットワーク機器が順不同に表示されます。ネットワーク機器をソートしたい場合には、デバイスリストの表示項目(カラム)をクリックすると、昇順(下矢印)/降順(上矢印)にてソートを行えます。ソートは表示項目ごとに行えます。

最新情報に更新されるとリストを作成するのでソートは解除されます。

● *[デバイスリスト]のカラム移動*

[デバイスリスト]の表示項目(カラム)はドラック＆ドロップすることにより移動することができます。

「設定ツール」を終了し、再起動すると初期設定の順番にカラムは戻ります。

● *[デバイスリスト]の削除について*

[デバイスリスト]に表示されているネットワーク機器は、「設定ツール」終了時に保存された情報ファイル「StartUpFile.kdf」を元に表示しますので、一時的に接続された機器や長期間稼働していない機器情報に関しては、削除を行わない限り[デバイスリスト]から削除されることはありません。
その場合、管理者の方は管理不要と判断したネットワーク機器に関しましては、定期的に削除することをお奨めします。削除方法は、削除したいネットワーク機器を選択(複数選択時は、[Ctrl]キーや[Shift]キーが使えます)して、右クリックで[デバイスの削除]をクリックして削除するか（次ページ画面参照）、[Delete]キーで削除できます。

注意！

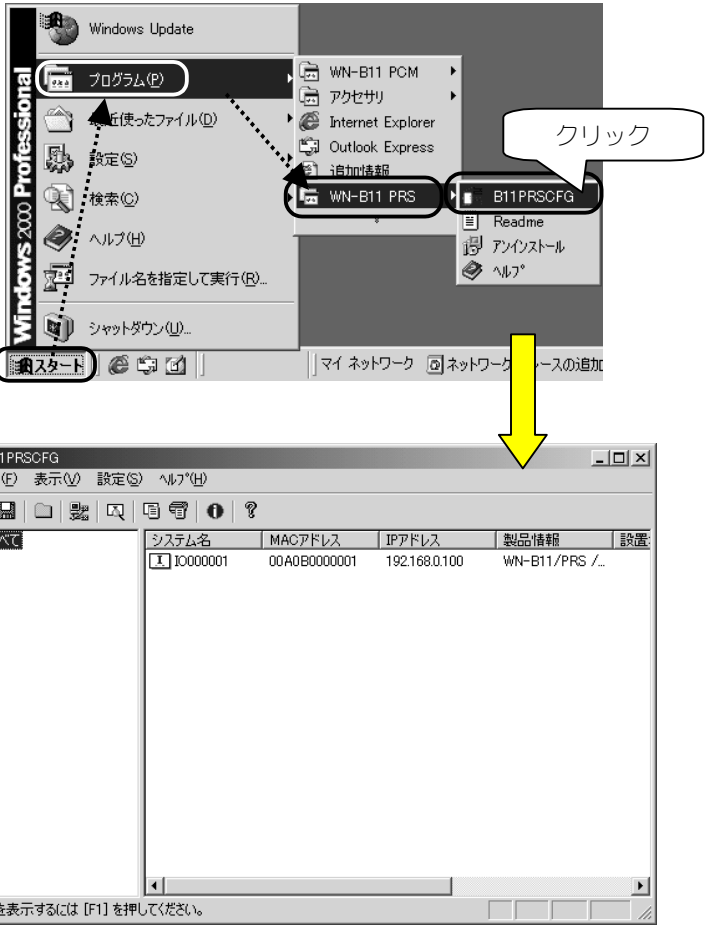
通信不能状態(X 印)の機器が多数存在すると、[表示]メニュー→[最新情報に更新]および[自動更新の設定]で自動更新が有効になっている場合には、通信タイムアウト時間がネットワーク機器の数に比例して増加するため自動更新に時間がかかる原因となります。長期間稼働していないネットワーク機器に関しましては、[デバイスリスト]から削除することをお奨めします。

参考

通信不能状態(X 印)のネットワーク機器がルータを越えて存在する場合に、[デバイスリスト]から削除すると、このネットワーク機器が復旧した場合に[表示]メニューの[検索]にて検索してリストに追加する作業が発生します。
このような場合には、「設定ツール」を終了する前に情報ファイルを別名で保存することをご推奨します。このネットワーク機器を復旧させたときには「設定ツール」を起動した後に、[ファイル]メニュー→[開く]を実行して、別名で保存した情報ファイルを開くことによりルータを越えて存在するネットワーク機器を再検索する必要がありませんので、管理の一貫としてご利用ください。

起動方法

メイン画面は、[スタート]→[プログラム]→[WN-B11 PRS]→[B11PRSCFG]を順にクリックすれば起動します。



終了方法

［ファイル］メニューの［アプリケーションの終了］で終了します。

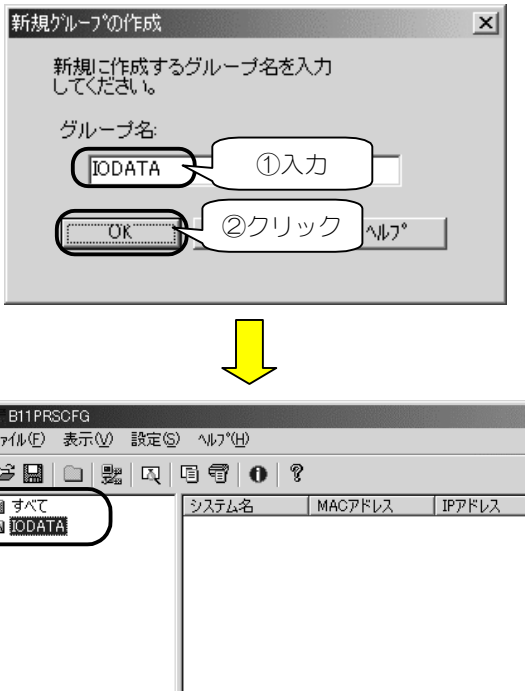
［ファイル］メニュー

メイン画面の［ファイル］メニューについて説明します。

項目	設定内容	参照頁
新規グループの作成	グループリストウィンドウに新しいユーザグループを作成します。	68
開く	現在の「情報ファイル」から、以前に保存されていた「情報ファイル」を開きます。	69
名前を付けて保存	「情報ファイル」に名前を付けて保存します。	70
最新のファイル（StartUpFile.kdf）	「設定ツール」が以前起動時に使用した「情報ファイル」を最大で4つまで表示します。	71
アプリケーションの終了	本ツールを終了します。	72

新規グループの作成

［グループリスト］ウィンドウに新しいユーザグループを作成します。
作成したグループに機器を登録することで、ネットワーク機器の管理をより効率的に行うことができます。



開く

現在の「情報ファイル」から、以前に保存されていた「情報ファイル」に開きます。

参考

初期設定の情報ファイル名は、「StartUpFile.kdf」です。
「設定ツール」は終了時に現在の情報を自動的にこのファイルに上書き保存しますので、現在の機器情報を他のパソコンで利用する場合や保存しておきたい機器情報がある場合には、［ファイル］メニュー→［名前をつけて保存］を実行して専用のファイルとして管理されることをお奨めします。

名前を付けて保存

「情報ファイル」に名前を付けて保存します。
ユーザが作成したグループ情報やそのグループに登録されているネットワーク機器情報を3種類の保存形式で保存することができます。

1. *アプリケーション形式(*.kdf)*
   「設定ツール」の情報ファイル形式であり、この形式で保存されたデータは別の設定ツールをインストールしたパソコンにコピーすることで同一のグループ環境を実現します。
2. *CSV形式(*.csv)*
   取得したネットワーク機器のデータを、“,” （カンマ）で区切られたファイル形式に保存します。
   CSV形式で保存したファイルは、Microsoft Excelで開くとセルごとにデータが収められた形で表示することができます。

注意！

Microsoft Excel で開いた場合に、一部のデータがセルの形式により正しく表示されない場合があります。これは、Microsoft Excel がファイルを開く場合に自動的にセルの形式を決定しているために発生していることが原因ですので、この場合はテキストエディタをご使用ください。

3. *Text形式(*.txt)*
   取得したネットワーク機器のデータが、タブで区切られている形式のファイルです。
   メモ帳などのテキストエディタで開くことができます。

最新のファイル

「設定ツール」が以前起動時に使用した「情報ファイル」を最大4つまで表示します。［ファイル］メニュー→［開く］を実行して、以前に保存した情報ファイルを指定することで、指定された情報ファイルで「設定ツール」が動作します。この場合には、指定したファイル名が表示されます。

注意！

・インストール直後は、情報ファイルが存在しないためグレーアウト表示になります。
・情報ファイルの削除が行われた場合、以下のエラーメッセージが表示されます。
また、内容の変更などが行われた場合に、アプリケーションエラーが発生する場合があります。このような場合、弊社は一切の責任を負うことはできませんので、情報ファイルの共有などの際にはご注意願います。

アプリケーションの終了

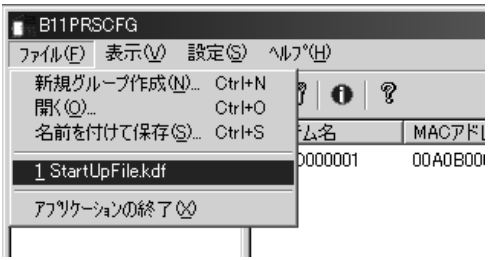
「設定ツール」を終了します。

「設定ツール」が終了する時に、自動的に現在の情報がデフォルトの情報ファイル「StartUpFile.kdf」に書き込まれます。

参考：情報ファイルを利用したネットワーク管理について

ここでは、情報ファイルの機能と情報ファイルを使用したネットワーク管理について説明します。

「設定ツール」は、本製品に設定した内容やユーザが作成したグループ情報、また、そのグループに登録されているネットワーク機器情報を「StartUpFile.kdf」という情報ファイルに保存し、管理できるようにしています。
この情報ファイルは「設定ツール」の起動時に読み出され、「設定ツール」の終了時に上書き保存されます。
次回起動時には、下記のような画面で表示されます。



● *情報ファイルを使用したネットワーク管理*

複数のパソコン（クライアント）で「設定ツール」を使用する場合、１台の管理用パソコンでグループの作成を行い、その情報ファイルを保存して、別の管理用パソコンでその情報ファイルを使用した場合には、グループ登録など全ての情報が移植されます。
このように情報ファイルを有効活用することによって、どの管理用パソコンからも同様の環境でネットワーク機器の管理を行うことができるようになります。

注意！

情報ファイル「StartUpFile.kdf」は、「設定ツール」終了時に自動で上書き保存されますので特定の機器情報にてネットワーク管理される場合は、トラブルを防ぐために必ず別名のファイルで保存したものを専用に作成して管理していただきますようお願いします。

［表示］メニュー

メイン画面の［表示］メニューについて説明します。

項目	設定内容	参照頁
ステータス	選択されている本製品を含めたネットワーク機器の詳細情報を表示します。	75
プリンタ ステータス	接続しているプリンタの情報を表示します。	77
最新情報に更新	［デバイスリスト］を最新の情報に更新します。	80
自動更新の設定	「デバイスリスト」の表示の更新を自動で行う場合の更新間隔を設定できます。	81
検索	別セグメントにある本製品をIPアドレスを指定して検索し、デバイスリストに追加もしくはグループに追加することができます。	83

ステータス

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［表示］メニューの［ステータス］で、選択されている、本製品を含めたネットワーク機器の詳細情報を表示します。
［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［表示］メニューの［ステータス］で表示します。

・*［ステータスリスト］*

［デバイスリスト］ウインドウで選択されたネットワーク機器の情報を各項目ごとに表示します。

・*［PSフォント］ボタン*

［EtherTalk］の［タイプ名］項目（111ページ参照）を［PS Printer］に設定している場合は、このボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、フォント情報(対応しているPostscriptレベルの情報など)を参照することができます。

・*［開・閉］ボタン*

リストに表示されている全てのフォルダを一括で、開いたり閉じたりすることができます。

・*[保存]ボタン*

取得されたデータをファイルに保存することができます。

保存形式は、text形式とCSV形式を選択できます。

・*[閉じる]ボタン*

表示されているステータスを閉じます。

・*[ヘルプ]ボタン*

ステータスに関するヘルプが起動します。

プリンタステータス

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［表示］メニューの［プリンタステータス］で、本製品に接続しているプリンタの情報を表示します。
プリンタのステータス表示の更新を行いたい場合には、以下の画面の［リフレッシュ］ボタンをクリックしてください。

・*オンライン/オフライン*

表示が、 （緑）の場合はオンライン、 （赤）の場合はオフラインを意味します。（HostResourceMIB　DeviceStatus　/　PrinterMIB　PrinterStatus）HostResourceMIB　DeviceStatus　/　PrinterMIB　PrinterStatusに答えないデバイスの場合は、 （グレー）を表示します。

（オフライン表示例）

注意！

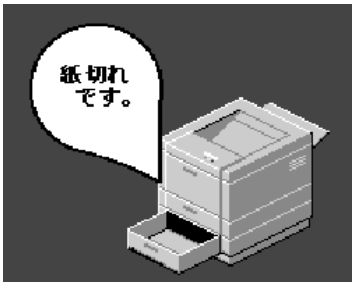
プリンタがアイドル状態の時は、オンライン LED が消灯してオフライン状態に見えますが、プリンタの情報としてはオンライン状態ですので、表示はオンラインと表示されます。

・*プリンタ名*

プリンタの名称を表示します。（HostResourceMIB　DeviceDescr）

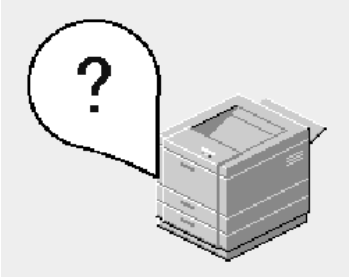
・*プリンタエラーステータス*

プリンタの現在の状態を表示します。(PrinterMIB　PrinterDetectedErrorState)
また、エラーステータスの状態にあわせて、下記のような画面が表示されます。



＜紙切れの場合＞

PrinterMIB　PrinterDetectedErrorStateに答えないプリンタの場合は、以下の画面が表示されます。

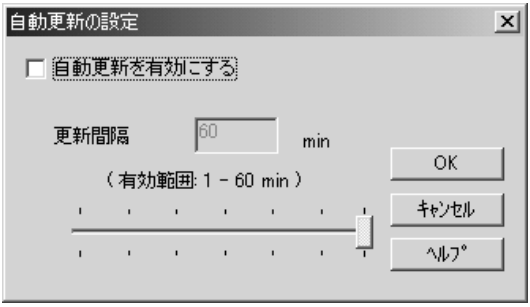


最新情報に更新

［表示］メニューの［最新情報の更新］で、［デバイスリスト］ウィンドウを最新情報に更新して表示します。

自動更新の設定

［表示］メニューの［最新情報の更新］で、［デバイスリスト］ウィンドウの表示を、自動で更新する場合の更新間隔を設定できます。



・*自動更新を有効にする*

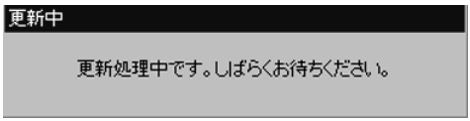
［デバイスリスト］ウィンドウの表示を自動的に更新します。初期設定は無効に設定されてます。

・*更新間隔*

自動更新を行う間隔を設定します。

設定範囲は、1～60（分）です。

自動更新が実行された場合には、以下のメッセージが表示されます。



注意！

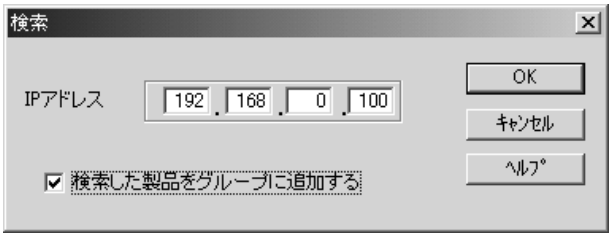
・自動更新中は、「設定ツール」への操作は一切実行できません。
・自動更新は、［デバイスリスト］ウインドウに表示されているすべてのネットワーク機器と通信を行います。
このため、［デバイスリスト］ウインドウに表示されるネットワーク機器が多い場合は、ネットワーク上に多数のパケットが送受信されるので、自動更新の間隔を短くしないようにしてください。
特に、「設定ツール」はルータを越えた機器とも通信できますので、ルータを越えたネットワーク機器とユニキャストによる通信が多数ある場合もご注意ください。
また、現在稼働していないネットワーク機器が多数ある場合には通信タイムアウト時間が機器の数に比例して増加するため、自動更新に時間がかかる原因となります。
長期間稼働していない機器に関しましては、デバイスリストから削除することをお奨めします。
・自動更新が行われた場合に、正常に稼働しているネットワーク機器にも関わらず X 印表示される場合がありえます。これは、ネットワークの負荷が大きいためにネットワーク機器からの応答に時間がかかる場合が原因として考えられます。
この場合には、［表示］メニューの［最新情報に更新］を実行してみてください。

検索

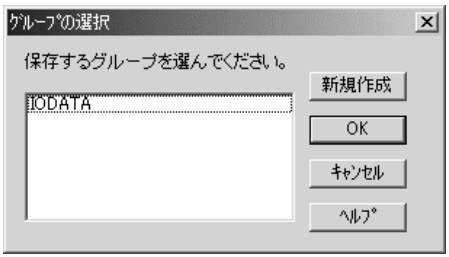
［表示］メニューの［検索］で、別セグメントにある本製品をIPアドレスを指定して検索し、［デバイスリスト］に追加もしくはグループに追加することができます。

●検索方法

本製品に設定されているIPアドレスで本製品を検索します。
IPアドレスで指定した本製品が検索されると、デバイスリストに追加されます。



［検索した製品をグループに追加する］にチェックが入っている場合は、「新規グループ追加」画面もしくはユーザグループが作成されている場合は「グループの選択」画面が表示され、［グループリスト］ウィンドウに任意の製品グループとして追加できます。



注意！

ルータを越えたネットワーク機器を検索した場合は、任意のグループに追加してください。検索したネットワーク機器を任意のグループではなくデフォルトグループに追加することもできますが、デフォルトグループに追加した場合は、［自動更新の設定］や［最新情報に更新］を実行してもユニキャストを使用した通信が行われないため、ルータを越えたネットワーク機器の情報が更新されません。

［設定］メニュー

メイン画面の［設定］メニューについて説明します。

項目	設定内容	参照頁
プロパティ	本製品の各種プロパティの設定を行います。	85
IPアドレスの設定	同一セグメント内の本製品に対して、IPアドレスの設定を変更することができます。	86
エラー履歴のクリア	本製品に関するエラー履歴をクリアすることができます。	88
工場出荷時に戻す	本製品を工場出荷時設定に戻すことができます。	89
リセット	本製品をソフトウェアリセットすることができます。	90
ダウンロード	本製品のファームウェアを最新のファームウェアにアップデートすることができます。	91
コミュニティ名の設定	設定ツールと本製品がSNMP通信するために必要なコミュニティ名を設定することができます。	96

プロパティ

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［設定］メニューの［プロパティ］で、本製品の各種プロパティの設定を行います。

詳細は、【プロパティ画面】（101ページ）を参照してください。

IP アドレスの設定

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［設定］メニューの［IPアドレスの設定］で、同一セグメント内の本製品に対して、IPアドレスの設定を変更することができます。

本製品に設定したいIPアドレスを入力して［OK］ボタンをクリックしてください。
設定が終了すると以下のメッセージが表示されます。

注意！

ブロードキャストにてIP アドレスを設定しますので、本製品とパソコンは同一セグメントに存在する必要があります。

同一セグメント以外のIPアドレスを設定した場合は、通信ができないため、
「通信できません。接続状態をご確認ください。」のメッセージが表示されます。

注意！

本製品に、あらかじめ［ゲートウェイアドレス］と［サブネットマスク］を正確に設定されている場合は、同一セグメントの［IP アドレス］を設定する必要はありません。

「設定ツール」を起動しているパソコンにTCP/IPがインストールされていない場合は、「TCP/IP環境がない場合、IP設定はできません。」のメッセージが表示されますので、パソコンのLANアダプタ設定をご確認ください。

注意！

TCP/IP 環境であっても、本製品が［デバイスリスト］ウィンドウで IP アドレス表示が空欄(認識されていない)の場合は、上記のエラーメッセージが表示されます。
この場合には、［表示］メニュー→［最新情報に更新］を実行して、IP アドレスが表示されたことを確認してから再度実行してください。

エラー履歴のクリア

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［設定］メニューの［エラー履歴のクリア］で、本製品に関するエラー履歴をクリアすることができます。

エラー履歴をクリアしたい場合には、［OK］ボタンをクリックしてください。
エラー履歴がクリアされると40番地～45番地までが全て「FF」になります。

参考

本製品にエラー(FF 以外の値)履歴がある場合の対応に関しましては、弊社 PLANT コールセンターにお問い合わせください。

工場出荷時に戻す

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［設定］メニューの［工場出荷時に戻す］で、本製品を工場出荷時設定に戻すことができます。

参考

本製品にエラーが発生した場合に、原因が不明ではじめから設定をやり直したい場合にご利用ください。

［表示］メニューの［工場出荷時に戻す］をクリック後、以下のメッセージが表示されますので、出荷時設定に戻す場合は［はい］ボタンをクリックしてください。クリックすると、工場出荷時設定に戻してリセットされますので、IPアドレス体系が現在のネットワーク環境と異なります。IPアドレスを再設定し、その他の必要な設定を再度行ってください。

注意！

「設定ツール」のコミュニティ名の設定が、本製品の初期設定と異なる場合は、出荷時設定に戻した本製品がリストに表示されません。
「設定ツール」のコミュニティ名と本製品のコミュニティ名を合わせてください。

リセット

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［設定］メニューの［リセット］で、本製品をソフトウェアリセットすることができます。

参考

本製品で動作が不安定な場合にリモートでリセットする場合や、設定を変更した場合に設定を本製品に反映させる際などにご利用ください。

［表示］メニューの［リセット］をクリック後、以下のメッセージが表示されますので、リセットする場合は［OK］ボタンをクリックしてください。

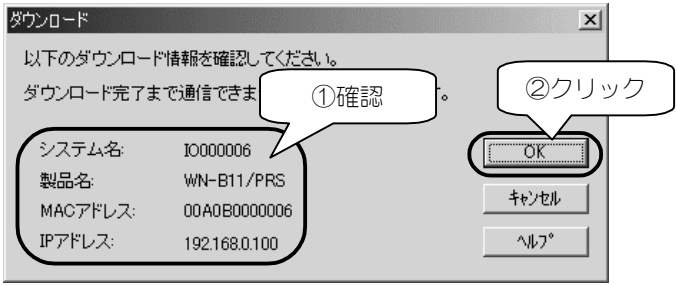
ダウンロード

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［設定］メニューの［ダウンロード］で、本製品のファームウェアを最新のファームウェアにアップデートすることができます。

1 弊社ホームページ（http://www.iodata.co.jp/）から
本製品の最新のファームウェアファイルを入手してください。

2 設定ツールのメイン画面でファームウェアをダウンロードしたい
デバイスを選択し、「設定」→「ダウンロード」をクリックします。

3 以下の画面が表示されますので、
［システム名］が目的のデバイスと一致していることを確認して、
［OK］ボタンをクリックします



4 以下の画面が表示されます。
機種名が「WN-B11/PRS」になっていることを確認して、
[ファイル参照]ボタンをクリックします。

参考

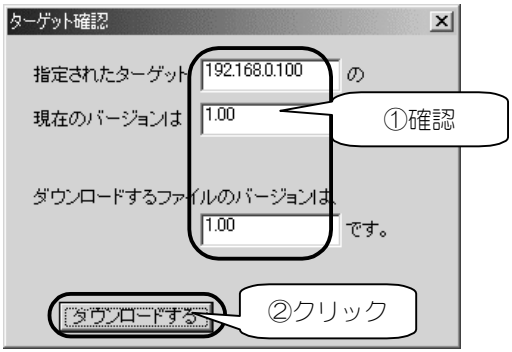
まだ、弊社ホームページ（http://www.iodata.co.jp/）から本製品の最新のファームウェアファイルを入手していない場合は、[ダウンロードファイルの取得]ボタンをクリックすると弊社ホームページを開きますので、ファームウェアファイルを入手してください。

5 入手したファームウェアファイルを選択し、
[開く]ボタンをクリックします。
※画面の例では、B11PRS.binというファームウェアファイルを［デスクトップ］に保存しておいたものを選択しています。

6 「ダウンロードファイルを指定しました。」と表示されますので、
[OK]ボタンをクリックします。

7 *4*の手順の画面に戻りますので、
本製品に設定したIPアドレスを入力し、
[ダウンロード]ボタンをクリックします。

8 以下の画面が表示されますので、[IP アドレス]、[現在のバージョン]、[ダウンロードするファイルのバージョン]を確認し、
[ダウンロードする]ボタンをクリックします。
※画面はファイルがバージョン1.00での例です。



9 「ダウンロードを開始します。」と表示されますので、
[OK]ボタンをクリックします。

10 「ダウンロード中はプリントサーバの電源を切ったり…」と表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。
ダウンロードを開始します。

注意！

ダウンロード中は絶対に本製品の電源を切らないでください。
故障の原因になります。

11 ダウンロードを開始すると
以下のように表示されます。

12 「ダウンロードが終了しました。」と表示されますので、
[OK]ボタンをクリックします。

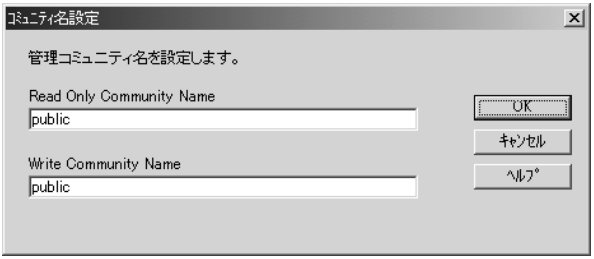
以上でファームウェアのダウンロードは終了です。

コミュニティ名の設定

［デバイスリスト］上の本製品をクリック後、［設定］メニューの［コミュニティ名の設定］で、設定ツールと本製品がSNMP通信するために必要なコミュニティ名を設定することができます。

注意！

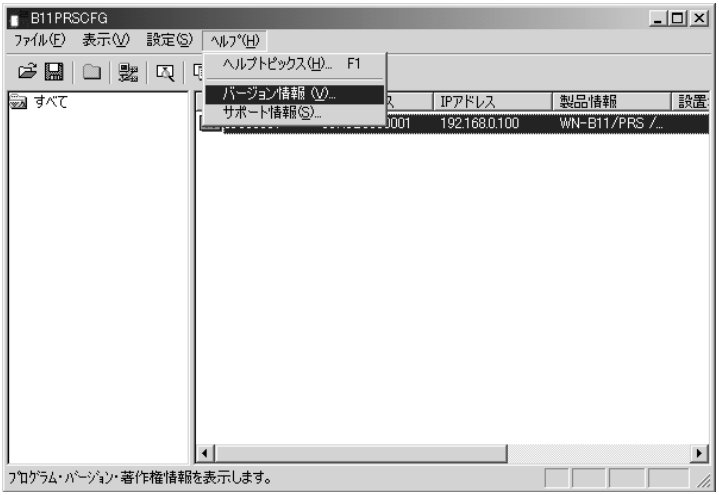
本製品に設定されている SNMP COMMUNITY NAME と異なる設定を行うと本製品と通信(情報の取得/設定)が行えなくなります。



コミュニティ名（CommunityName）には2種類あり、一つは本製品に設定を行うための Write CommunityName で、もう一つは本製品の情報を取得するための Read Only CommunityName となっています。

［ヘルプ］メニュー

メイン画面の［ヘルプ］メニューについて説明します。



項目	設定内容	参照頁
ヘルプトピックス	「設定ツール」に関するヘルプを表示します。	98
バージョン情報	「設定ツール」のバージョン情報を表示します。	99
サポート情報	サポートに関する情報を表示します。	100

ヘルプトピックス

［ヘルプ］メニューの［ヘルプトピックス］で、「設定ツール」に関するヘルプを表示します。

注意！

［設定］メニュー→［プロパティ］で開かれるプロパティシートに関するヘルプは、プロパティシート上の［ヘルプ］ボタンをクリックすることで起動されます。ここで、起動するヘルプとは異なります。

バージョン情報

［ヘルプ］メニューの［バージョン情報］で、「設定ツール」のバージョン情報を表示します。

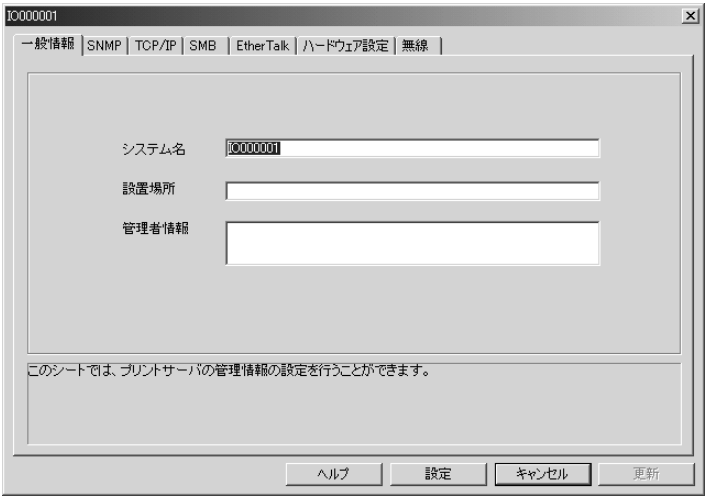
サポート情報

［ヘルプ］メニューの［サポート情報］で、サポートに関する情報を表示します。

弊社のホームページのURLが表示されます。
［PLANT］ボタンをクリックすると、「設定ツール」を起動しているパソコンにWebブラウザがインストールされている場合は、自動的に弊社ホームページにリンクして起動します。

［プロパティ］画面

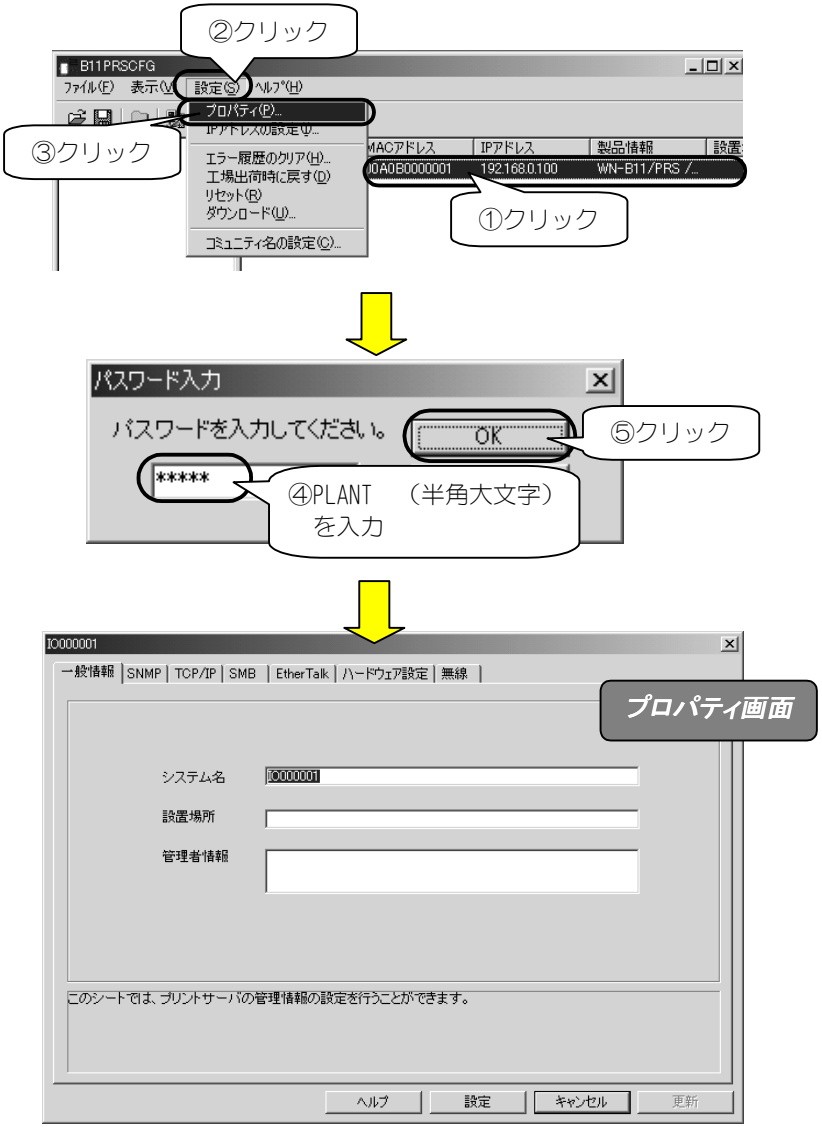
プロパティ画面について説明します。



項目	タブ名	参照頁
システム名を設定する	一般情報	103
コミュニティ名を設定する	SNMP	104
本製品のIPアドレスを設定する	TCP/IP	105
SMBを設定する	SMB	108
EtherTalkを設定する	EtherTalk	111
ハードウェアを設定する	ハードウェア設定	117
無線情報を設定する	無線	119

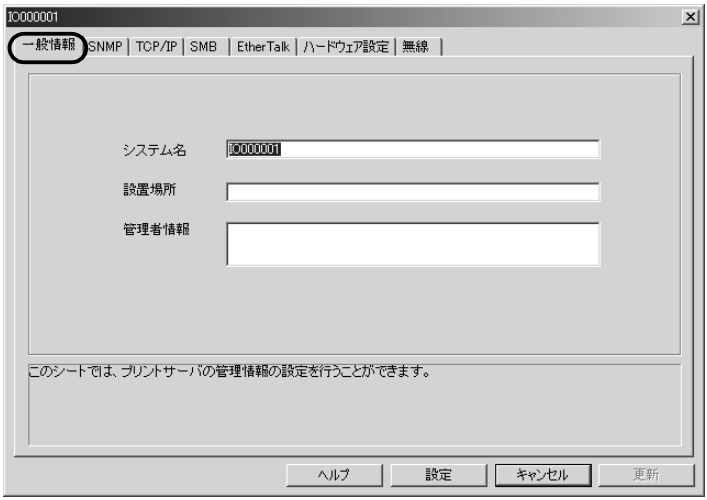
プロパティ画面の起動方法

［デバイスリスト］欄の本製品をクリック後、［設定］メニューの［プロパティ］をクリックし、パスワードを入力すれば［プロパティ］画面が表示されます。



システム名を設定する…［一般情報］タブ

［一般情報］タブでは、本製品のシステム名などの一般情報を設定することができます。

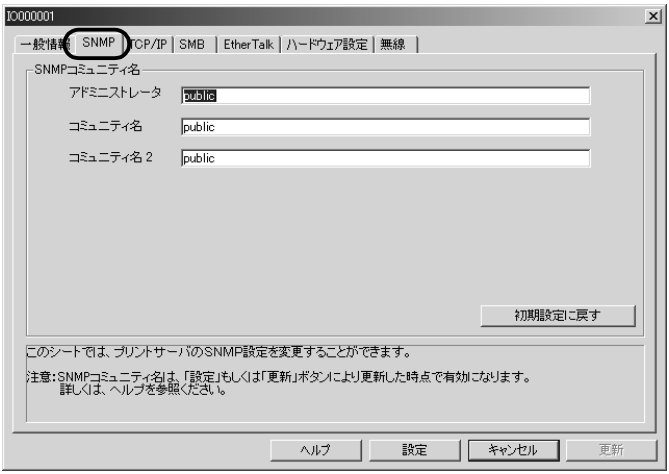


システム名	本ユーティリティで認識されるシステム名です。 出荷時状態では以下のように表示されます。 IOxxxxxx （xxxxxxは、本製品のMACアドレスの「00A0B0」の後の下6桁の数値です。MACアドレスは、本製品底面のラベル面に記載されています。）
設置場所	本製品の設置場所をメモとして残すことができます。 設定ツールの［デバイスリスト］欄（61ページ参照）の［設置場所］に表示されます。
管理者情報	本製品の管理者情報をメモとして残すことができます。

コミュニティ名を設定する…［SNMP］タブ

［SNMP］タブをクリックし、本製品側のSNMP設定をすることができます。
特に変更する必要はありません。次ページへお進みください。

なお、この設定は、本製品と本ツールがSNMP通信するときのための設定です。
また、設定メイン画面の［設定］メニューの［コミュニティ名の設定］（96ページ参照）と同じ値を設定しないと、本製品の設定ができなくなります。



アドミニストレータ	管理用のSNMPコミュニティ名を設定できます。
コミュニティ名１	本製品のSNMPコミュニティ名を設定できます。
コミュニティ名２	本製品のSNMPコミュニティ名を設定できます。
初期設定に戻す	SNMPコミュニティ名を工場出荷状態に戻します。

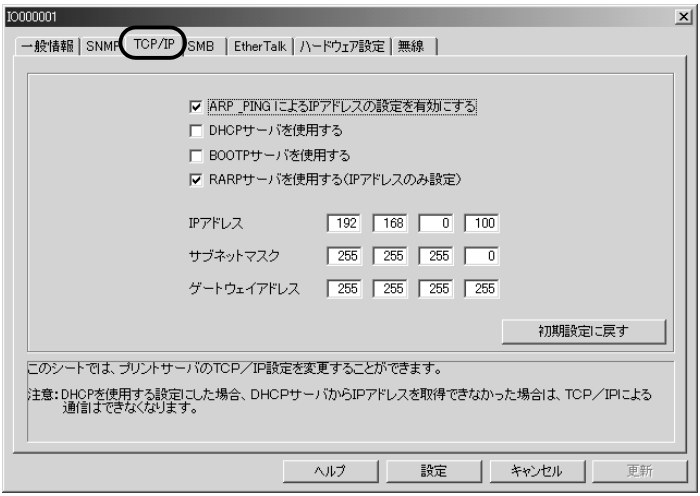
参考

［SNMP］とは

→SNMP とは、簡易ネットワーク管理プロトコル（Simple Network Management Protocol）の略称で、ネットワーク上にある様々な機器を管理できる標準プロトコルです。
SNMP は、SNMP マネージャと SNMP エージェントから構成されています。基本的には、SNMP エージェントは管理されている機器に搭載されており、SNMP マネージャはエージェントから情報を得ます。マネージャ及びエージェントは、MIB（Management Information Base）と呼ばれる管理情報を持っており、この管理情報を基にして機器の管理を行います。

本製品の IP アドレスを設定する…［TCP/IP］タブ

［TCP/IP］タブでは、本製品のIPアドレスなどを設定することができます。
ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。



ARP、PINGによるIPアドレスの設定を有効にする	同一セグメント内において、“ARP”と“PING”によるIPアドレスの設定ができるようになります。次ページの【WindowsでARP,PINGによるIPアドレスの設定手順】も参照してください。
DHCPサーバを使用する	DHCPサーバが存在する環境では、本製品のTCP/IP設定をDHCPサーバから取得することができるようになります。（107ページの【DHCPをご利用になる場合の注意】も参照してください。）
BOOTPサーバを使用する	BOOTPサーバが存在する環境では、本製品のTCP/IP設定をBOOTPサーバから取得することができるようになります。
RARPサーバを使用する（IPアドレスのみ設定）	RARPサーバが存在する環境では、本製品のTCP/IP設定をRARPサーバから取得することができるようになります。

IPアドレス	本製品を TCP/IP 環境で使用するためには、必ず設定する必要があります。 ただし、IPアドレスをDHCP/BOOTP/RARPサーバのいずれかから取得する設定にした場合には、設定する必要はありません。
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを設定できます。 特に設定しなくても問題ありません。 Windowsパソコンでルータを越えてTCP/IP通信（印刷）する場合には必ず設定してください。（※1）
ゲートウェイアドレス	本製品のゲートウェイアドレスを設定できます。 特に設定しなくても問題ありません。 Windowsパソコンでルータを越えてTCP/IP通信（印刷）する場合には必ず設定してください。（※1）

※1　本製品を利用してMacintoshからルータを越えて印刷することはできません。

初期設定に戻す	本製品のTCP/IP設定を工場出荷状態に戻します。

WindowsでARP,PINGによるIPアドレスの設定手順

(1)設定したい本製品の MAC アドレスをメモしておきます。
（本製品底面のラベル面に記載されている[00A0B0]ではじまる数値が本製品の MAC アドレスです。）

(2)設定したい IP アドレスを決定します。

(3)MS-DOS プロンプト（またはコマンドプロンプト）より次のように入力します。

C:¥WINDOWS>arp -s xxx.xxx.xxx.xxx 00-a0-b0-yy-yy-yy

xxx.xxx.xxx.xxx ： 設定したい IP アドレス

yy-yy-yy ： 本製品の MAC アドレス下6桁

(4)さらに次のように入力します。

C:¥WINDOWS>ping xxx.xxx.xxx.xxx

(5)以上の手順で IP アドレスを割り振ることができます。

DHCPをご利用になる場合の注意

［DHCP サーバを使用する］に設定して、IP アドレスを DHCP サーバから取得する設定にした場合は、DHCP サーバ（例：Windows 2000 サーバおよび Windows NT サーバなど）の設定時に本製品の IP アドレスを予約するようお薦めします。

DHCP を使用すると IP アドレスの管理が簡単になりますが、本製品を含め各 DHCP クライアントが使用する IP アドレスが固定でなくなります。本製品の場合、本製品の IP アドレスが変わると印刷をするパソコンの印刷用設定を変更する必要があります。（各パソコンの印刷用設定時に本製品の IP アドレスを指定する場合）このような事態を避けるため、DHCP サーバの中には IP アドレスの予約ができるようになっているもの（例：Windows 2000 サーバおよび Windows NT サーバなど）がありますので、予約ができる場合は、DHCP サーバ設定時に本製品の IP アドレスを予約してください。

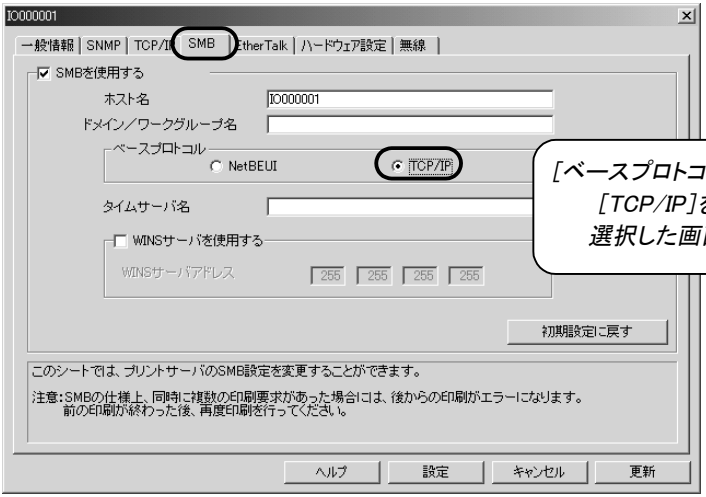
注意！

ネットワーク上に WINS サーバが存在し、WINS による名前解決を行える環境で、以下の場合は IP アドレスの予約を行う必要はありません。

- **SMB 設定で［WINS サーバを使用する］をチェックしている（次ページ）**
- **TCP/IP 設定で［DHCP サーバを使用する］をチェックしている（105 ページ）**

SMB を設定する…[SMB]タブ

［SMB］タブでは、本製品のSMB設定をすることができます。
ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。



［ベースプロトコル］に［TCP/IP］を選択した画面

注意！

Windows パソコンから NetBEUI プロトコル経由で印刷する場合は、［SMB を使用する］にチェックし、［ベースプロトコル］に［NetBEUI］をチェックする必要があります。

参考

［SMB］とは

→SMB（Server Message Block）とは、Windows でネットワークを通じてファイル・プリンタ共有を実現するプロトコルです。

SMBを使用する	SMBを使用する場合は、チェックします。 SMBを使用しない場合は、チェックを外してください。 （114ページも参照してください。）
ホスト名	ネットワーク上での本製品の名称を指定してください。 （半角英数字15文字以内） ※Windowsパソコンのコンピュータ名と同等の設定となりますので、他のWindowsパソコンと同じ名前を使用することはできません。 必ず固有の名前を指定してください。
ドメイン/ ワークグループ名	ドメイン管理している場合は、ネットワーク環境に合わせて使用するドメイン名またはワークグループ名を指定してください。 （半角英数字15文字以内） ドメイン管理を使用していない場合は、特に入力する必要はありません。

注意！

ドメイン/ワークグループ名に日本語など全角文字を使用している場合は、パソコン側で設定しているワークグループ名を本製品に合わせて、半角英文字 15 文字以内に設定しなおしてください。

ベースプロトコル	SMBで使用する下位プロトコル(NetBEUIまたはTCP/IP)を選択します。
タイムサーバ名	本製品に設定したドメインのドメインコントローラを指定してください。(TCP/IP使用時のみ) タイムサーバ名を設定しなくても印刷には影響しませんが、プリントジョブ情報の時間が正しく表示されません。 Windows NT 4.0サーバおよびWindows NT 3.51サーバを使用していない場合やドメインの設定をしない場合は、このタイムサーバ名は無効です。 ※下位プロトコルでTCP/IPを選択した場合のみ設定可能です。

WINSサーバを使用する	WINS を使用する場合に、チェックしてください。 WINSをサポートしている環境では、WINSを有効にすることで本製品が起動時にWINSデータベースにホスト名とそのIPアドレスが自動的に登録され、ネットワーク内での名前の重複をさけることを可能にします。 ※ネットワーク上にWINSサーバが存在しない場合は、有効にする必要はありません。 ※Windowsでルータを越えた印刷を行う場合には、ゲートウェイアドレスとサブネットマスクを正しく設定する必要があります。（105ページ参照） （本製品を利用してMacintoshでルータを越えた印刷はできません。）
WINSサーバアドレス	WINSを使用する場合には、WINSサーバのIPアドレスを設定する必要があります。 ※DHCPを使用してWINSサーバのIPアドレスを取得する場合は設定する必要はありません。(この場合には、DHCPを有効にする必要があります。) ただし、DHCPが有効であるにも関わらず、WINSサーバのIPアドレスを取得できない場合があります。この場合は、WINSサーバのIPアドレスを直接設定する必要があります。

初期設定に戻す	本製品のSMB設定を工場出荷状態に戻します。

注意！

SMB の仕様上、印刷中に別のクライアントより印刷要求があった場合には、後から印刷したデータはエラーとなり印刷できません。前の印刷が終了した後、再度印刷を行う必要があります。

注意！

ホスト名、ドメイン/ワークグループ名、タイムサーバ名は、下記の半角記号は入力禁止文字です。入力された場合は、カーソルが先頭に戻りますが、これは設定ツール側で入力されないように処理を行っているためです。

“”(ダブルクォーテーション)、 “=”(イコール)、 “|”(パイプ)、 “¥”(円マーク)、 “+”(プラス)、 “; ”(セミコロン)、 “*”(アスタリスク)、 “:”(コロン)、 “]”(大カッコ右)、 “[”(大カッコ左)、 “,”(カンマ)、 “<”(不等号小なり)、 “>”(不等号大なり)、 “?”(クエスチョンマーク)

EtherTalkを設定する…[EtherTalk]タブ

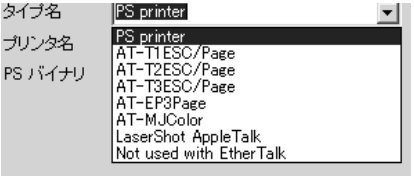
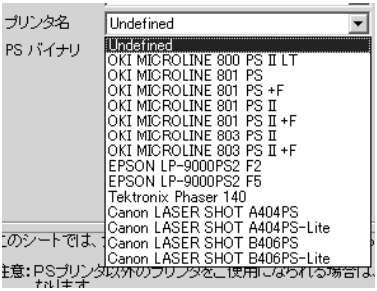
[EtherTalk]タブでは、本製品のMacintosh用のEtherTalkを設定することができます。

ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。

注意！

ご使用のネットワーク内に Macintosh パソコンがない場合など、EtherTalk でご使用にならない場合は、必ず［EtherTalk を使用する］のチェックを外してください。

EtherTalkを使用する	EtherTalkを使用する設定にします。 EtherTalkを使用しない場合は、チェックを外してください。 （114ページ参照）
ゾーン名	ご使用になる環境にゾーンが設定されている場合は、本製品が所属するゾーンを割り当てることができます。
オブジェクト名	Macintoshのセレクタ上から見えるプリンタ名であり、任意に設定できます。 ※オブジェクト名として使用できるのは以下の文字以外のASCII文字で長さ32文字以内です。 =(イコール)、 *(アスタリスク)、 ~(チルダ)、 @(アットマーク)、 :(コロン)

タイプ名	本製品に接続したプリンタ用のプリンタドライバをリストから選択します。（115ページ【［タイプ名］に関する注意】も参照してください。） 
プリンタ名	［タイプ名］に［PS printer］［AT-MJColor］を選択した場合は、ご使用になるプリンタの機種をリストから選択します。 （116ページ【［プリンタ名］に関する注意】も参照してください。）  ※［パラレル動作モード］項目（117ページ参照）を［ECP］または［Nibble］の場合は、プリンタの情報を自動的に取得することがあります。 その場合は変更しないでください。
PSバイナリ	［タイプ名］を［PS printer］に設定しているときに本項目［PSバイナリ］の設定内容が有効になります。 *［Enable］*：バイナリデータを印刷できます（ASCIIデータも印刷できます）。 *［Disable］*：ASCIIデータのみとなります。 ※TBCP非対応のプリンタに対して、［PSバイナリ］の設定を［Enable］にして印刷すると、正常に動作しません。 ※本製品はBCPには対応していません。

参考

［ECP］、［PS バイナリ］、［TBCP］、［BCP］、［Nibble］、［Compatible］、［ASCII］、［バイナリ］とは

→ECP とは、

ECP(Extended Capability Port)は HP(ヒューレットパッカード)と Microsoft の 2 社より提案され、IEEE1284 で標準化されている規格です。データ圧縮転送(RLE)をサポートし、高速な転送が可能です。

→PS バイナリとは、

PostScript を使用して印刷データをバイナリで処理します。
別に［PS アスキー］も存在し、PostScript を使用して印刷データをアスキーで処理します。印刷に時間がかかります。

→TBCP とは、

TBCP(Tagged Binary Communications Protocol)はタグ付きバイナリ通信プロトコルです。BCP と互換性はありません。タグを使用して、送信側と受信側を接続し、通信を行います。アスキーより高速に印刷する事ができます。

→BCP とは、

BCP(Binary Communications Protocol)は 8 ビット値で表現できる任意の 256 種類のデータを転送する事ができます。バイナリイメージを含んだ PostScript ジョブの送信に一連の制御文字を含むデータを送信する事ができます。アスキーより高速に印刷する事ができます。

→Nibble(ニブル)とは、

Compatible を双方向に対応させたパラレルポートのモードです。

→Compatible(コンパチブル)とは、

片方向(出力)のみ通信可能な低速なパラレルポートのモードです。

→ASCII(アスキー)とは、

ASCII コードのみで記述されているテキストファイルなど

→バイナリとは

アプリケーション独自のデータなどで構成されるファイルなど

EtherTalk/SMBで使用しない場合の注意

本製品は起動すると、EtherTalk、SMB の仕様に基づき、定期的にパケットを送出します。これはネットワーク上で EtherTalk、SMB を使用していない場合にも行われます。(TCP/IP については、設定により起動時にのみ RARP/BOOTP/DHCP のパケットを送出します。起動後は要求がない限り送出しません。)
このため、本製品の接続されているネットワークが、ダイヤルアップ式のルータで他のネットワークに接続されている場合、これらのパケットが送出されるたびにダイヤルアップしてしまう可能性があります。(常時通話中になる場合もあります。)

ルータを越えた先に印刷する必要が無い場合や、EtherTalk を使用しない場合には、この現象を回避するために以下のどちらかの設定を行う必要があります。

・*ルータに本製品からのパケットを通過させないよう設定する。*
　設定方法については、ルータの取扱説明書などをご覧ください。

注意！

上記設定を行うと、ルータを超えた EtherTalk 経由の印刷はできなくなります。

・*本製品が、EtherTalk、SMB のパケットを送出しないよう設定する。*
　・108 ページの画面で[SMB を使用する]のチェックを外す
　・111 ページの画面で[EtherTalk を使用する]のチェックを外す

［タイプ名］に関する注意

ここでは、設定する［タイプ名］(112 ページ)に関する注意を説明します。

使用するプリンタ	設定内容など
PostScriptプリンタ	［タイプ名］リストから［PS printer］を選択します。 ***【注意】*** ［PSバイナリ］項目（112ページ参照）が［Disable］（無効）の場合は、PostScriptプリンタへのデータ出力はASCIIデータのみに限られます。
ESC/Pプリンタ	EPSON製のVPシリーズのAppleTalk対応プリンタドライバをインターネットなどからダウンロードして使用してください。
EPSON製ESC/Pageプリンタ	EPSON製LP-8200以前のプリンタは、以下の3種類のプリンタドライバに対応しています。 ［AT-T1ESC/Page］、［AT-T2ESC/Page］、 ［AT-T3ESC/Page］ これらを使用する場合は、［タイプ名］リストからプリンタドライバと同じ名前を選択します。 LP-8200以降は［AT-EP3Page］に対応しています。
EPSON製カラーインクジェットプリンタ	本製品は以下の2種類のプリンタドライバに対応しています。 ［AT-MJColor］、［EPSON MJ/PM(AT)］ このプリンタドライバを使用する場合は、［タイプ名］リストから［AT-MJColor］を選択します。 ***【注意】*** ［AT-MJColor］に設定した場合、EPSON製マッハジェットプリンタ以外ではプリンタのジョブランプが点滅し、本製品の電源を切ると印刷を実行しなくても 紙が排出されます。 これは、［AT-MJColor］で印刷するためのコマンドが印刷されるためです。動作異常ではありませんので、本製品の設定を確認して正しい設定を行ってください。
キャノン製LIPSプリンタ	本製品は［PrintCaddie］というプリンタドライバに対応しています。 このプリンタドライバを使用する場合は、［タイプ名］リストから［LaserShot AppleTalk］を選択します。
Macintoshでは使用しない場合	［タイプ名］リストから［Not used with EtherTalk］を選択します。

［プリンタ名］に関する注意

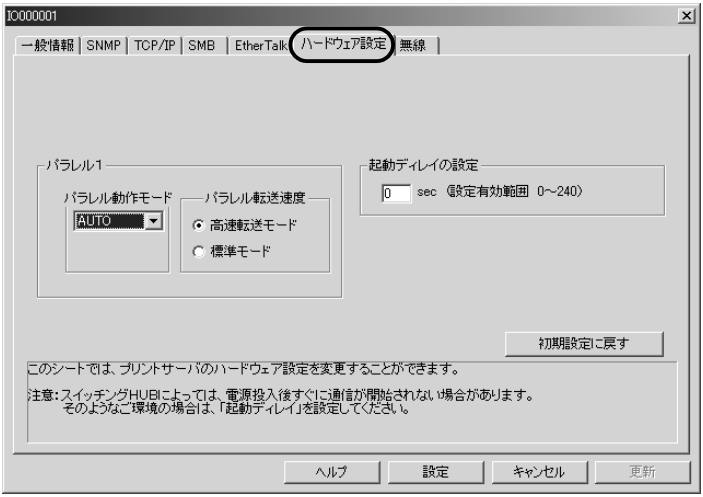
ここでは、設定する［プリンタ名］(112 ページ)に関する注意を説明します。

本製品に接続するプリンタが PostScript プリンタ、または EPSON 製カラーインクジェットプリンタおよび EPSON 製レーザプリンタの場合はプリンタの機種名を設定しなければ、印刷できない場合があります。それ以外のプリンタを使用する場合はこの項目を設定する必要はありません。

使用するプリンタ	設定内容など
PostScriptプリンタ	［プリンタ名］リストの中に使用するプリンタがある場合は選択します。 **【注意】** ［PSバイナリ］項目（112ページ参照）が［Disable］(無効)の場合は、PostScriptプリンタへのデータ出力はASCIIデータのみに限られます。 **【参考】** リストにないプリンタ、またはハードディスクにオプションのフォントを追加しているプリンタを使用する場合は情報の取得を行う必要があります。 プリンタ情報を取得するにはMacintoshからでしか行えません。別冊【Macintosh編】をご覧ください。
EPSON製カラーインクジェットプリンタ	［プリンタ名］リストの中に使用するプリンタがある場合は選択します。 **【注意】** プリンタが双方向通信可能な設定になっており、本製品の［パラレル動作モード］項目(次ページ参照)をAUTO/ECP/Nibbleにし、プリンタ→本製品の順に電源を投入した場合、プリンタ名を双方向通信にて取得します。その場合は［プリンタ名］を設定する必要はありません。
EPSON製レーザプリンタ	レーザプリンタの場合、ほとんどが［プリンタ名］を設定する必要がありません。 プリンタが双方向通信可能な設定になっており、本製品の［パラレル動作モード］項目(次ページ参照)の設定がAUTO/ECP/Nibbleに設定されていることを確認してください。

ハードウェアを設定する…［ハードウェア設定］タブ

［ハードウェア設定］タブでは、本製品のハードウェアを設定することができます。



パラレル動作モード	本製品の電源を入れた時の、接続されているプリンタとの接続確認（ネゴシエーション）の設定変更ができます。 ※ECP/Nibbleをサポートしているプリンタと接続確認（ネゴシエーション）を行うためにはプリンタの電源が先に入っている必要があります。 ※本製品を「ECP」もしくは［Nibble］モードに固定した場合は、プリンタが［ECP］もしくは［Nibble］をサポートしていて、かつ、プリンタの設定と本製品の設定が一致している必要があります。この条件を満足しない場合は、接続確認（ネゴシエーション）エラーとなり印刷が行えません。

パラレル 転送速度	本製品のパラレルポートの転送速度を設定します。 パラレルポートへのデータの転送速度を2段階に設定できます。ただし、接続されているプリンタのパラレルポートの設定で「コウソク」などが選択できないプリンタの場合に、本製品の設定を［高速転送モード］に設定すると正常に印刷できないことがあります。 ※［パラレル転送速度］の設定は、［パラレル動作モード］項目が、［ECP］の場合は無効です。
起動ディレイ の設定	本製品起動時の遅延時間の確認と変更を行います。 通常は変更する必要はありません。 設定値：0～240（秒） ※本製品とアクセスポイントを同じコンセントにしている場合では、本製品とアクセスポイントは同時に電源が投入されます。 この場合、本製品の方が先に起動しますので、この時にDHCPなどの関係で不都合が生じる場合、起動ディレイが有効な手段となります。

初期設定に 戻す	本製品のハードウェア設定を工場出荷状態に戻します。

参考

［ECP］、［Nibble］、［Compatible］とは

→ECP とは、

ECP(Extended Capability Port)は HP（ヒューレットパッカード）と Microsoft の 2 社より提案され、IEEE1284 で標準化されている規格です。データ圧縮転送(RLE)をサポートし、高速な転送が可能です。

→Nibble とは、

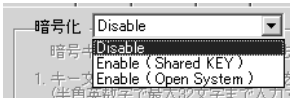
Compatible を双方向に対応させたパラレルポートのモードです。

→Compatible とは、

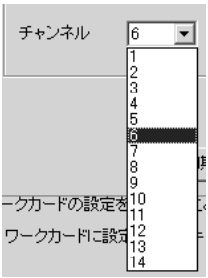
片方向（出力）のみ通信可能な低速なパラレルポートのモードです。

無線情報を設定する…[無線]タブ

［無線］タブでは、本製品の無線情報を設定することができます。
ご使用の無線LAN環境に応じて設定してください。

暗号化	暗号化通信を行う際のWEP(Wired Equivalent Privacy)を設定した機器同士の認証手順の設定です。 現在、無線LANで使用している暗号キーの認証手順と同じ認証手順を設定する必要があります。 手順については、122ページ【暗号化の設定手順】を参照してください。 

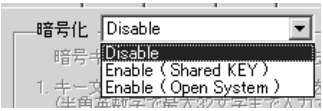
キー文字列	暗号キーを生成するためのキー文字列です。 現在、無線LANで使用している暗号キーのキー文字列と同じ文字列を入力する必要があります。 ※大文字/小文字は区別されます。 ※直接、暗号キーを[Key1]から[Key4]までの入力欄に入力する場合は、キー文字列を入力する必要はありません。
Key生成	暗号キーを生成するためのボタンです。 キー文字列からユニークな4つの暗号キーを生成します。
クリア	キー文字列、生成された暗号キー全てをクリアします。
Key1、Key2、Key3、Key4	キー文字列から生成された暗号キーを表示する欄です。 [Key1]から[Key4]までのユニークな4つの暗号キーが表示されます。 この入力欄には直接暗号キーを入力することもできます。 この場合も無線LANアダプタなどの通信相手側に設定されている暗号キーと同じものを入力する必要があります。 （暗号キーは16進数で入力する必要があります。）
Default Key	リストで表示される[Key1]、[Key2]、[Key3]、[Key4]の中から1つの暗号キーを選択します。 このとき無線LANアダプタなどの通信相手側に設定してある暗号キーと同じ暗号キーを選択する必要があります。 選択された暗号キーでデータを暗号化および復号化します。 ※[Default Key]（デフォルト送信キー）の設定の無いアクセスポイント（弊社製WN-B11/AXPなど）と通信する場合は、本設定を[key1]に設定します。
通信モード	現在使用している無線LANの環境にあわせて通信モードを選択します。

SSID	現在、無線LANで使用している[SSID]と同じ[SSID]に設定する必要があります。 出荷時の SSID は[default]です。 ※半角英数字 32 文字以内 ※大文字、小文字は区別されます。
チャンネル	現在、無線LANで使用しているチャンネルと同じチャンネルに設定する必要があります。  ※チャンネルの設定は、[Ad Hoc]モードの場合にのみ有効です。 ※複数チャンネルが存在する環境の場合は、チャンネル同士を5つ以上離して設定してください。離さないと混信し、正常に印刷できない恐れがあります。

初期値に戻す	本製品の無線設定を工場出荷状態に戻します。

暗号化の設定手順

1 ［暗号化］リストから［Enable(Shared KEY)］または［Enable(Open System)］を選択し、暗号化を有効にします。



※ご使用のネットワークに合わせて選択してください。
（ネットワーク内で弊社製WN-B11/AXP、WN-B11/PCM、WN-B11/USB、WN-B11/PCIをお使いの場合は［Enable(Shared KEY)］を選択してください。）

※弊社製WN-B11/USBなど製品によっては、［Shared KEY］を［共有鍵］、［Open System］を［開放型］と表示・記載されている場合があります。

参考

［Shared KEY］、［Open System］とは
→WEP を設定した機器同士の認証手順です。
Shared KEY はチャレンジテキストというものを使用して認証を行います。Open System はこれを使用しません。（Shared KEY の方が複雑な認証手順です。）
なお、Infrastructure モードでは、Shared KEY と Open System の間では通信できません。

2 現在、無線LANで使用しているキー文字列と同じキー文字列を入力します。
（直接、暗号キーを［Key1］～［Key4］までの欄に入力する場合は以下の**3**と**4**の手順は必要ありません。）

3 暗号キーを生成するために［Key生成］ボタンをクリックします。
キー文字列からユニークな4つの暗号キーが生成されます。

4 使用する暗号キーを［Default Key］ドロップダウンリストで表示される［Key1］～［Key4］の中から1つ選択します。選択した暗号キーは、データの暗号化および復号化に使用されます。

5 ［設定］または［更新］ボタンをクリックして暗号キーを設定します。

注意！

WEP キーの設定後、本ツールを再起動した場合、このプロパティシートをクリックしても、以前設定した［キー文字列］や［Default Key］の値は表示されません。これはセキュリティを確保するための仕様ですので、ご了承ください。

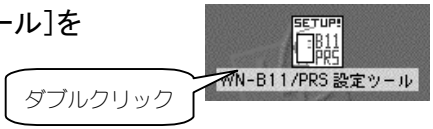
Macintosh 版設定ツールの詳細

ここでは、別冊【Macintosh編】で使用している［Macintosh版設定ツール］の詳細について説明します。
必要に応じてお読みください。

・設定画面を起動する……124
・TCP/IP を設定する……127
・SNMP を設定する ……129
・EtherTalk を設定する(プリンタ名以外)……130
・プリンタ名を設定する ……133
・SMB を設定する……137
・無線を設定する ……141
・起動ディレイタイムを設定する……147
・パラレルポートを設定する……148
・バージョン情報を確認する ……150
・パスワードを変更する場合 ……151
・出荷時状態に戻す場合 ……152
・本製品をリセットする ……153

設定画面を起動する

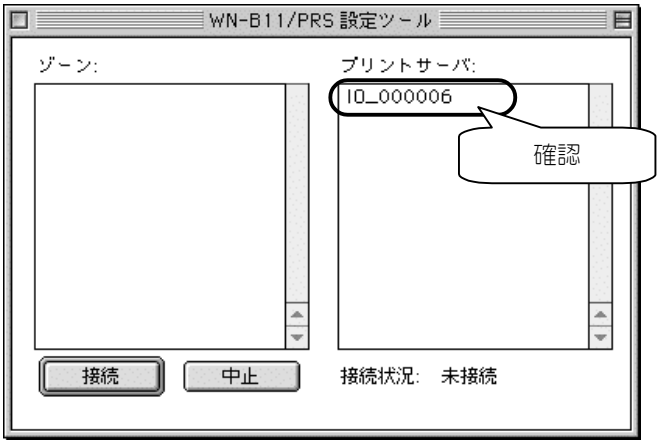
1 [WN-B11/PRS設定ツール]を
ダブルクリックします。



2 以下の設定メイン画面が表示されます。
[プリントサーバ]欄に本製品が表示されていることを確認します。本製品は、出荷時以下のように表示されます。

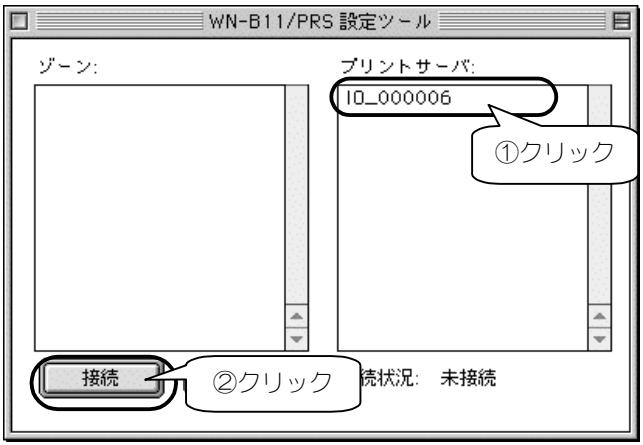
IO_xxxxxx

（xxxxxxは、本製品のMACアドレスの「00A0B0」の後の下6桁の数値です。MACアドレスは、本製品底面のラベル面に記載されています。）



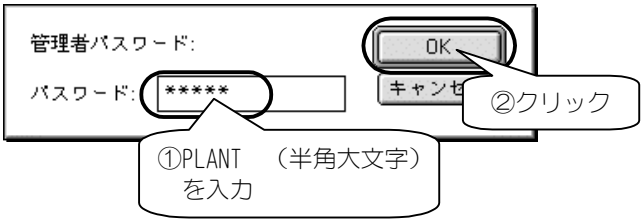
3 本製品([IO_xxxxxx])をクリック後、[接続]ボタンをクリックします。

※ネットワーク上に[ゾーン]が存在する場合は、本製品の属するゾーンを選択します。(工場出荷時の本製品はデフォルトゾーンに属します。デフォルトゾーンが不明な場合はネットワーク管理者にお問い合わせください。)



4 以下のパスワードを入力後、[OK]ボタンをクリックします。

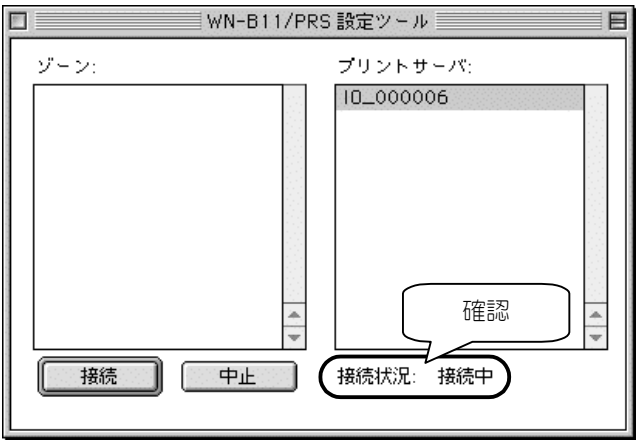
PLANT (半角大文字)



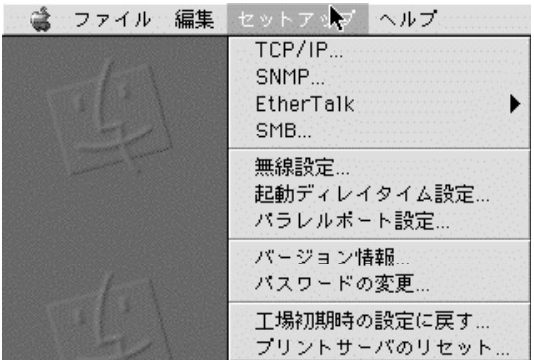
参考

[パスワード]は管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定することを防ぐためのものです。出荷時の[パスワード]は[PLANT]となっていますが、必要に応じて変更してください。変更方法は、151 ページを参照してください。

5 [接続状況:]欄が[接続中]になっていることを確認します。



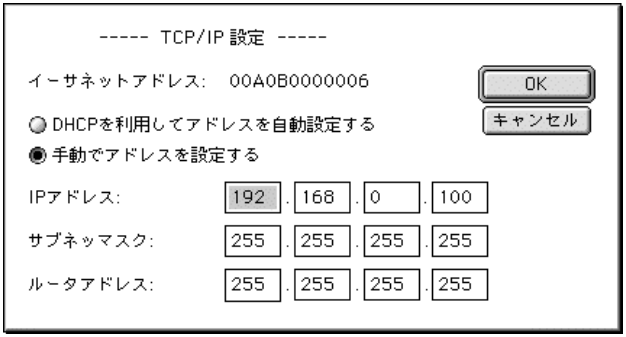
6 次ページ以降で[セットアップ]メニューから各種設定を行います。



TCP/IP を設定する

[セットアップ]メニュー→[TCP/IP]では、本製品のIPアドレスなどを設定することができます。
ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。

なお、この設定は、Windowsパソコンから設定や印刷する際、また、Webブラウザから設定する際にのみ必要な設定です。本Macintosh用設定ツールでの設定とMacintoshからの印刷しか行わない場合は特に設定の必要はありません。

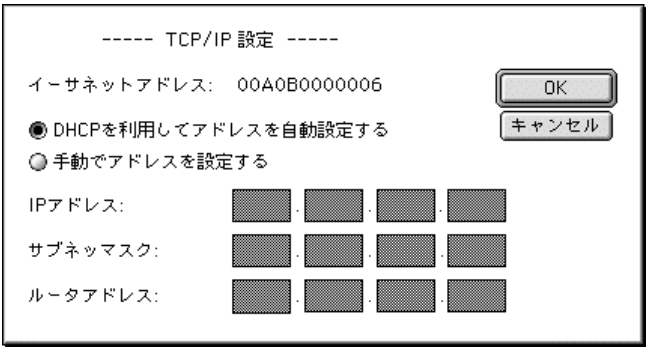


DHCPを利用してアドレスを自動設定する	DHCPサーバが存在する環境では、本製品のTCP/IP設定をDHCPサーバから取得することができるようになります。
手動でアドレスを設定する	本製品のIPアドレスを手動で設定することができるようになります。
IPアドレス	本製品を TCP/IP 環境で使用するためには、必ず設定する必要があります。 ただし、IPアドレスをDHCPサーバから取得する設定にした場合には、設定する必要はありません。
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを設定できます。 Windowsパソコンでルータを越えてTCP/IP通信(印刷)する場合には必ず設定してください。(※1)
ルータアドレス	本製品のゲートウェイアドレスを設定できます。 Windowsパソコンでルータを越えてTCP/IP通信(印刷)する場合には必ず設定してください。(※1)

※1　本製品を利用してMacintoshからルータを越えて印刷することはできません。

DHCPをご利用になる場合の注意

[DHCP を利用してアドレスを自動設定する]に設定した場合は、
DHCP サーバ(例:Windows 2000 サーバおよび Windows NT サーバなど)の設定時に本製品の IP アドレスを予約するようお薦めします。



DHCP を使用すると IP アドレスの管理が簡単になりますが、本製品を含め各 DHCP クライアントが使用する IP アドレスが固定でなくなります。本製品の場合、本製品の IP アドレスが変わると印刷をするパソコンの印刷用設定を変更する必要があります。(各パソコンの印刷用設定時に本製品の IP アドレスを指定する場合)
このような事態を避けるため、DHCP サーバの中には IP アドレスの予約ができるようになっているもの(例:Windows 2000 サーバおよび Windows NT サーバなど)がありますので、予約ができる場合は、DHCP サーバ設定時に本製品の IP アドレスを予約してください。

注意!

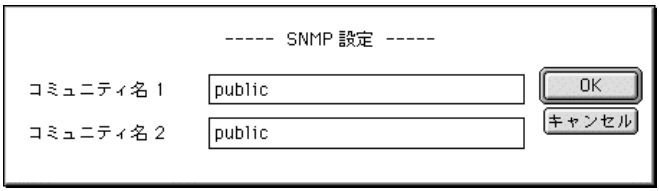
ネットワーク上に WINS サーバが存在し、WINS による名前解決を行える環境で、以下の場合は IP アドレスの予約を行う必要はありません。

- **[TCP/IP 設定]で[DHCP を利用してアドレスを自動設定する]にチェックしている(上記画面)**
- **[SMB 設定]で[WINS を使用しない]のチェックを外している(137 ページ)**

SNMP を設定する

[セットアップ]メニュー→[SNMP]をクリックし、本製品側のSNMP設定を行うことができます。
特に変更する必要はありません。

なお、この設定は、本製品と「Windows版設定ツール」がSNMP通信するときのための設定です。



コミュニティ名1	本製品のSNMPコミュニティ名を設定できます。
コミュニティ名2	本製品のSNMPコミュニティ名を設定できます。

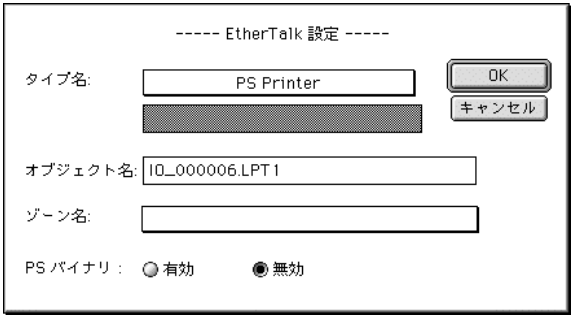
参考

[SNMP]とは

→SNMP とは、簡易ネットワーク管理プロトコル（Simple Network Management Protocol）の略称で、ネットワーク上にある様々な機器を管理できる標準プロトコルです。
SNMP は、SNMP マネージャと SNMP エージェントから構成されています。基本的には、SNMP エージェントは管理されている機器に搭載されており、SNMP マネージャはエージェントから情報を得ます。マネージャおよびエージェントは、MIB（Management Information Base）と呼ばれる管理情報を持っており、この管理情報を基にして機器の管理を行います。

EtherTalk を設定する（プリンタ名以外）

［セットアップ］メニュー→［EtherTalk］→［ポートの設定］では、本製品を接続したプリンタのタイプ名などを設定することができます。
ご使用のプリンタやネットワーク環境に応じて設定してください。



タイプ名	本製品に接続したプリンタ用のプリンタドライバをリストから選択します。（132ページ【［タイプ名］に関する注意】も参照してください。）
オブジェクト名	Macintoshのセレクタ上から見えるプリンタ名であり、任意に設定できます。 ※オブジェクト名として使用できるのは以下の文字以外のASCII文字で長さ32文字以内です。 =(イコール)、 *(アスタリスク)、 ~(チルダ)、 @(アットマーク)、 :(コロン)
ゾーン名	ご使用になる環境にゾーンが設定されている場合は、本製品が所属するゾーンを割り当てることができます。
PSバイナリ	［タイプ名］で［PS Printer］を設定しているときに本項目［PSバイナリ］の設定内容が有効になります。 ［有効］：バイナリデータを印刷できます（ASCIIデータも印刷できます）。 ［無効］：ASCIIデータのみとなります。 ※TBCP非対応のプリンタに対して、PSバイナリを［有効］にして印刷すると、正常に動作しません。 ※本製品はBCPには対応していません。

参考

[ECP]、[PS バイナリ]、[TBCP]、[BCP]、[Nibble]、[Compatible]、[ASCII]、[バイナリ]とは

→ECP とは、

ECP(Extended Capability Port)は HP(ヒューレットパッカード)と Microsoft の 2 社より提案され、IEEE1284 で標準化されている規格です。データ圧縮転送(RLE)をサポートし、高速な転送が可能です。

→PS バイナリとは、

PostScript を使用して印刷データをバイナリで処理します。
別に[PS アスキー]も存在し、PostScript を使用して印刷データを ASCII で処理します。印刷に時間がかかります。

→TBCP とは、

TBCP(Tagged Binary Communications Protocol)はタグ付きバイナリ通信プロトコルです。BCP と互換性はありません。タグを使用して、送信側と受信側を接続し、通信を行います。ASCII より高速に印刷する事ができます。

→BCP とは、

BCP(Binary Communications Protocol)は 8 ビット値で表現できる任意の 256 種類のデータを転送する事ができます。バイナリイメージを含んだ PostScript ジョブの送信に一連の制御文字を含むデータを送信する事ができます。ASCII より高速に印刷する事ができます。

→Nibble(ニブル)とは、

Compatible を双方向に対応させたパラレルポートのモードです。

→Compatible(コンパチブル)とは、

片方向(出力)のみ通信可能な低速なパラレルポートのモードです。

→ASCII(アスキー)とは、

ASCII コードのみで記述されているテキストファイルなど

→バイナリとは

アプリケーション独自のデータなどで構成されるファイルなど

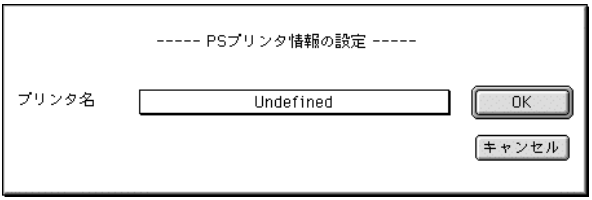
[タイプ名]に関する注意

ここでは、設定する[タイプ名](130 ページ参照)に関する注意を説明します。

使用プリンタ	設定内容など
PostScript プリンタ	[タイプ名]リストから[PS Printer]を選択します。 ***【注意】*** [PSバイナリ]項目(130ページ参照)が[無効]の場合は、PostScriptプリンタへのデータ出力はASCIIデータのみに限られます。
ESC/Pプリンタ	EPSON製のVPシリーズのAppleTalk対応プリンタドライバをインターネットなどからダウンロードして使用してください。
EPSON製ESC/Pageプリンタ	EPSON製LP-8200以前のプリンタは、以下の3種類のプリンタドライバに対応しています。 [AT-T1ESC/Page]、[AT-T2ESC/Page]、 [AT-T3ESC/Page] これらを使用する場合は、[タイプ名]リストからプリンタドライバと同じ名前を選択します。 LP-8200以降は[AT-EP3Page]に対応しています。
EPSON製カラーインクジェットプリンタ	本製品は、以下の2種類のプリンタドライバに対応しています。 [AT-MJColor]、[EPSON MJ/PM(AT)] このプリンタドライバを使用する場合は、[タイプ名]リストから[AT-MJColor]を選択します。 ***【注意】*** [AT-MJColor]に設定した場合、EPSON製マッハジェットプリンタ以外ではプリンタのジョブランプが点滅し、本製品の電源を切ると印刷を実行しなくても 紙が排出されます。 これは、[AT-MJColor]で印刷するためのコマンドが印刷されるためです。動作異常ではありませんので、本製品の設定を確認して正しい設定を行ってください。
キャノン製LIPSプリンタ	本製品は[PrintCaddie]というプリンタドライバに対応しています。 このプリンタドライバを使用する場合は、[タイプ名]リストから[LaserShot AppleTalk]を選択します。
Macintoshでは使用しない場合	[タイプ名]リストから[Set EtherTalk inactive]を選択します。
上記以外のAppleTalk対応プリンタ	[タイプ名]リストから[User Setting]を選択してタイプ名を直接入力すると使用できるものもあります。

プリンタ名を設定する

[セットアップ]メニュー→[EtherTalk]→[プリンタの設定]では、本製品を接続したプリンタの[プリンタ名]を選択します。



プリンタ名	[タイプ名]項目(130ページ参照)で[PS Printer][AT-MJColor]を選択した場合には、ご使用になられるプリンタの機種をリストから選択します。 (次ページ【[プリンタ名]に関する注意】も参照してください。) ※[パラレルポートの動作モード]項目(148ページ参照)を[ECPモード]または[Nibbleモード]に設定している場合はプリンタの情報を自動的に取得することがあります。その場合は変更しないでください。

[プリンタ名]に関する注意

本製品に接続するプリンタが PostScript プリンタ、または EPSON 製カラーインクジェットプリンタおよび EPSON 製レーザプリンタの場合はプリンタの機種名を設定しなければ、印刷できない場合があります。それ以外のプリンタを使用する場合はこの項目を設定する必要はありません。

使用するプリンタ	設定内容など
PostScriptプリンタ	[プリンタ名]リストの中に使用するプリンタがある場合は選択します。 ***【注意】*** [PSバイナリ]項目(130ページ参照)が[無効]の場合は、PostScriptプリンタへのデータ出力はASCIIデータのみに限られます。 *【参考】* リストにないプリンタ、またはハードディスクにオプションのフォントを追加しているプリンタを使用する場合は情報の取得を行う必要があります。次ページ【参考:プリンタの情報取得】も参照してください。
EPSON製カラーインクジェットプリンタ	[プリンタ名]リストの中に使用するプリンタがある場合は選択します。 ***【注意】*** プリンタが双方向通信可能な設定になっており、本製品の[パラレル動作モード]項目(148ページ参照)をAUTO/ECPモード/Nibbleモードにし、プリンタ→本製品の順に電源を投入した場合、プリンタ名を双方向通信にて取得します。その場合は[プリンタ名]項目を設定する必要はありません。
EPSON製レーザプリンタ	レーザプリンタの場合、ほとんどが[プリンタ名]項目を設定する必要がありません。 プリンタが双方向通信可能な設定になっており、本製品の[パラレル動作モード]項目(148ページ参照)の設定がAUTO/ECPモード/Nibbleモードに設定されていることを確認してください。

参考:プリンタの情報取得

[設定ツール]のリストにない PostScript プリンタまたはハードディスクに追加のフォントをダウンロードしている PostScript プリンタを使用する場合は以下の手順でプリンタ情報の取得を行ってください。

注意！

・AirMac 対応 Macintosh のみの環境では、この手順はご利用いただけません。
・以下の手順を行うには、アクセスポイントと有線 LAN 接続でき、かつ、LocalTalk ポートを持った Macintosh が必要です。また、プリンタにも LocalTalk ポートが必要です。（詳細については、Macintosh およびプリンタの取扱説明書またはメーカーにお問い合わせください。）
・設定ツールの[プリンタ名]リストに載っていない PostScript プリンタで、そのプリンタの持っているフォントがあらかじめ本製品の持っているフォント情報と一致する場合のみ設定可能です。

1 PostScriptプリンタおよび本製品の電源を入れます。

2 LocalTalkポートを持つMacintoshを有線LANでアクセスポイントに接続します。

3 ***2***の手順で準備したMacintoshとPostScriptプリンタをLocalTalkケーブルで接続します。この時、MacintoshのLocalTalkポートにはプリンタのみを接続してください。

4 設定用パソコンで、アクセスポイントと本製品を通信できるように設定します。（[Infrastructure]モード）

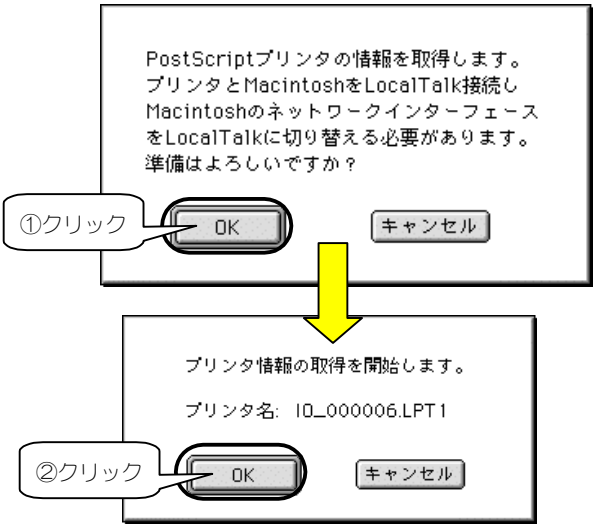
参考

アクセスポイントについてはアクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

5 ***3***の手順で準備したMacintoshに、本製品の[設定ツール]をインストールし、設定ツールを起動後、本製品を設定できる状態にします。
（【1. 設定画面を起動する】(124ページ)の ***1*** ～ ***6*** の手順）

6 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[AppleTalk]をクリックし、[経由先]を[LocalTalk]に変更します。

7 設定ツールの[セットアップ]メニュー→[EtherTalk]→[PSプリンタ情報の取得]で、本製品を接続したプリンタに関する情報を取得します。



8 [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[AppleTalk]をクリックし、[経由先]を[EtherTalk]に変更します。

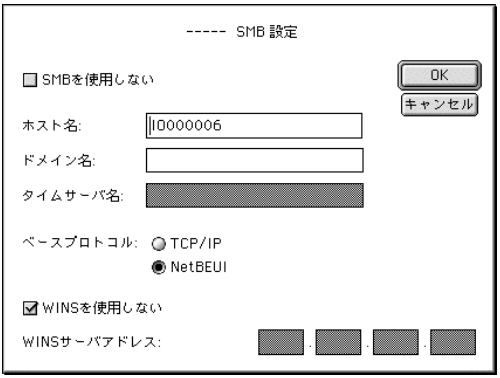
9 設定ツールの[セットアップ]メニュー→[EtherTalk]→[取得した情報の設定]を選択します。

10 設定終了後、確認のための画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。

以上でプリンタの情報取得は終了です。

SMB を設定する

[セットアップ]メニュー→[SMB]では、本製品のSMB設定することができます。
ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。



注意！

ご使用のネットワーク内に Windows パソコンがない場合など、SMB をご使用にならない場合は、必ず「SMB を使用しない」をチェックしてください。（140 ページも参照してください。）

参考

[SMB]とは

→SMB（Server Message Block）とは、Windows でネットワークを通じてファイル・プリンタ共有を実現するプロトコルです。

SMBを使用しない	チェックすると、SMBの機能を停止することができます。
ホスト名	ネットワーク上での本製品の名称を指定してください。 （半角英数字15文字以内） ※他の機器と同じ名前を使用することはできません。 必ず固有の名前を指定してください。
ドメイン名	使用するドメイン名またはワークグループ名を指定してください。 （半角英数字15文字以内） ドメイン管理を使用していない場合は、特に入力する必要はありません。 ドメイン管理している場合は、使用するドメイン名を指定してください。
タイムサーバ名	本製品に設定したドメインのドメインコントローラを指定してください。（TCP/IP使用時のみ） タイムサーバ名を設定しなくても印刷には影響しませんが、プリントジョブ情報の時間が正しく表示されません。 Windows NT 4.0サーバおよびWindows NT 3.51サーバを使用していない場合やドメインの設定をしない場合は、このタイムサーバ名は無効です。 ※下位プロトコルでTCP/IPを選択した場合のみ設定可能です。
ベースプロトコル	SMBで使用する下位プロトコル(NetBEUIまたはTCP/IP)を選択します。
WINSを使用しない	WINS を使用しない場合に、チェックしてください。 WINSをサポートしている環境では、WINSを有効にすることで本製品が起動時にWINSデータベースにホスト名とそのIPアドレスが自動的に登録され、ネットワーク内での名前の重複をさけることを可能にします。 ※ネットワーク上にWINSサーバが存在しない場合は、有効にする必要はありません。 ※Windowsでルータを越えた印刷を行う場合には、ルータアドレスとサブネットマスクを正しく設定する必要があります。（127ページ参照） （本製品を利用してMacintoshでルータを越えた印刷はできません。）

WINSサーバ アドレス	WINSを使用する場合には、WINSサーバのIPアドレスを設定する必要があります。 ※DHCPを使用してWINSサーバのIPアドレスを取得する場合は設定する必要はありません。(この場合には、DHCPを有効にする必要があります。) ただし、DHCPが有効であるにも関わらず、WINSサーバのIPアドレスを取得できない場合があります。この場合は、WINSサーバのIPアドレスを直接設定する必要があります。

注意！

SMB の仕様上、印刷中に別のクライアントより印刷要求があった場合には、後から印刷したデータはエラーとなり印刷できません。前の印刷が終了した後、再度印刷を行う必要があります。

注意！

ホスト名、ドメイン/ワークグループ名、タイムサーバ名は、下記の半角記号は入力禁止文字です。入力された場合は、カーソルが先頭に戻りますが、これは設定ツール側で入力されないように処理を行っているためです。

“”(ダブルクォーテーション)、 “=”(イコール)、 “|”(パイプ)、 “¥”(円マーク)、 “+”(プラス)、 “; ”(セミコロン)、 “*”(アスタリスク)、 “:”(コロン)、 “]”(大カッコ右)、 “[”(大カッコ左)、 “,”(カンマ)、 “<”(不等号小なり)、 “>”(不等号大なり)、 “?”(クエスチョンマーク)

EtherTalk/SMBで使用しない場合の注意

本製品は起動すると、EtherTalk、SMB の仕様に基づき、定期的にパケットを送出します。これはネットワーク上で EtherTalk、SMB を使用していない場合にも行われます。(TCP/IP については、設定により起動時にのみ RARP/BOOTP/DHCP のパケットを送出します。起動後は要求がない限り送出しません。)
このため、本製品の接続されているネットワークが、ダイヤルアップ式のルータで他のネットワークに接続されている場合、これらのパケットが送出されるたびにダイヤルアップしてしまう可能性があります。(常時通話中になる場合もあります。)

ルータを越えた先に印刷する必要が無い場合や、EtherTalk を使用しない場合には、この現象を回避するために以下のどちらかの設定を行う必要があります。

・*ルータに本製品からのパケットを通過させないよう設定する。*
設定方法については、ルータの取扱説明書などをご覧ください。

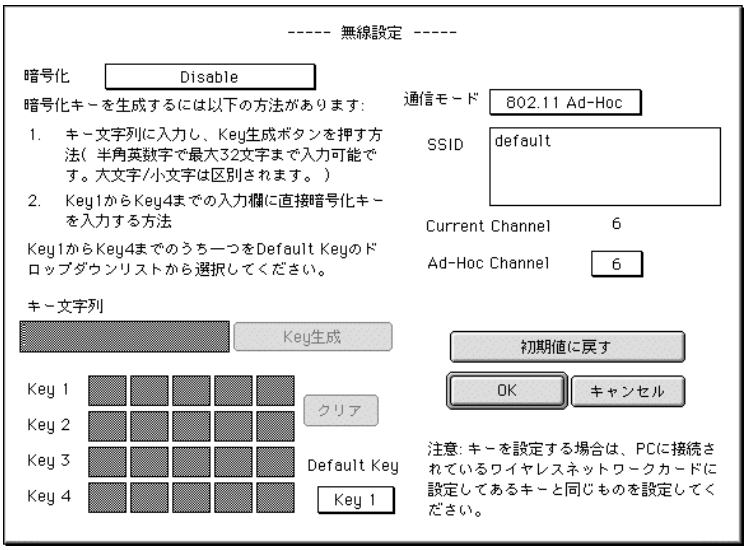
注意！

上記設定を行うと、ルータを超えた EtherTalk 経由の印刷はできなくなります。

・*本製品が、EtherTalk、SMB のパケットを送出しないよう設定する。*
・137 ページの画面で[SMB を使用しない]をチェックする
・別冊【リファレンス編】の【Web ブラウザから設定したい場合】の項を参照して、Web 上の設定ツールから[EtherTalk プロトコル]を[無効]に設定する
([無効]に設定すると AirMac および有線 LAN 上の Macintosh から印刷できなくなります。)

無線を設定する

[セットアップ]メニュー→[無線設定]では、本製品の無線に関する設定をすることができます。
ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。



暗号化	暗号化通信を行う際のWEP(Wired Equivalent Privacy)を設定した機器同士の認証手順の設定です。 現在、無線LANで使用している暗号キーの認証手順と同じ認証手順を設定する必要があります。 手順については、144ページ【暗号化の設定手順】を参照してください。
キー文字列	暗号キーを生成するためのキー文字列です。 現在、無線LANで使用している暗号キーのキー文字列と同じ文字列を入力する必要があります。 ※大文字/小文字は区別されます。 ※直接、暗号キーを[Key1]から[Key4]までの入力欄に入力する場合は、キー文字列を入力する必要はありません。
Key生成	暗号キーを生成するためのボタンです。 キー文字列からユニークな4つの暗号キーを生成します。

クリア	キー文字列、生成された暗号キー全てをクリアします。
Key1、Key2、Key3、Key4	キー文字列から生成された暗号キーを表示する欄です。 [Key1]から[Key4]までのユニークな4つの暗号キーが表示されます。 この入力欄には直接暗号キーを入力することもできます。 この場合も無線LANアダプタなどの通信相手側に設定されている暗号キーと同じものを入力する必要があります。 (暗号キーは16進数で入力する必要があります。)
Default Key	リストで表示される[Key1]、[Key2]、[Key3]、[Key4]の中から1つの暗号キーを選択します。 このとき無線LANアダプタなどの通信相手側に設定してある暗号キーと同じ暗号キーを選択する必要があります。 選択された暗号キーでデータを暗号化および復号化します。 ※[Default Key](デフォルト送信キー)の設定の無いアクセスポイント(弊社製WN-B11/AXPなど)と通信する場合は、本設定を[Key1]に設定します。

注意！

弊社製アクセスポイント WN-B11/AXP では、Key1,Key2,Key3,Key4 という設定はありません。本製品と WN-B11/AXP や WN-B11/AXP と AirMac とで暗号化設定する際は、本製品の Key1 を使用してください。

通信モード	現在使用している無線LANの環境にあわせて通信モードを選択します。
SSID	SSID(Service Set IDentifier)は、無線LANを構成する装置同士(パソコン、本製品やアクセスポイントなど)を識別する名前です。 現在、無線LANで使用しているSSIDと同じSSIDを設定する必要があります。 (半角英数字32文字以内) 同じネットワークに属するクライアント(パソコン、本製品やアクセスポイントなど)同士は、同じ SSID を設定しなければなりません。 出荷時のSSIDは[default]です。 ※大文字、小文字は区別されます。

Ad-Hoc Channel	無線LANを構成する装置同士（パソコンや本製品など）を同じチャンネルに設定する必要があります。 現在使用している無線LANの環境にあわせてAd-Hocチャンネルを選択します。 ※チャンネルの設定は、[Ad-Hoc]モードの場合にのみ有効です。複数チャンネルが存在する環境の場合は、チャンネル同士を5つ以上離して設定してください。混信の恐れがあります。

初期値に戻す	本製品の無線設定を工場出荷状態に戻します。

暗号化の設定手順

1 [暗号化]リストから[Enable(Shared KEY)]または[Enable(Open System)]を選択し、暗号化を有効にします。

※ご使用のネットワークに合わせて選択してください。
（ネットワーク内で弊社製WN-B11/AXP、WN-B11/PCM、WN-B11/USB、WN-B11/PCIをお使いの場合は[Enable(Shared KEY)]を選択してください。）

※弊社製WN-B11/USBなど製品によっては、[Shared KEY]を[共有鍵]、[Open System]を[開放型]と表示・記載されている場合があります。

参考

[Shared KEY]、[Open System]とは
→WEP を設定した機器同士の認証手順です。
Shared KEY はチャレンジテキストというものを使用して認証を行います。Open System はこれを使用しません。（Shared KEY の方が複雑な認証手順です。）
なお、Infrastructure モードでは、Shared KEY と Open System の間では通信できません。

2 現在、無線LANで使用しているキー文字列と同じキー文字列を入力します。
（直接、暗号キーを[Key1]～[Key4]までの欄に入力する場合は以下の**3**と**4**の手順は必要ありません。）

3 暗号キーを生成するために[Key生成]ボタンをクリックします。
キー文字列からユニークな4つの暗号キーが生成されます。

4 使用する暗号キーを[Default Key]ドロップダウンリストで表示される[Key1]～[Key4]の中から1つ選択します。選択した暗号キーは、データの暗号化および復号化に使用されます。

5 [OK]ボタンをクリックして暗号キーを設定します。

AirMacと本製品での暗号化の設定

AirMac と本製品とで暗号化通信を行う場合は、以下の 2 通りの方法があります。

注意！

AirMac のパスフレーズ（文字列から暗号生成）での設定では、本製品と暗号化通信を行うことはできません。
必ず以下のいずれかの手順で行ってください。

方法1：ASCII 5文字で行う方法

AirMac 側の設定	本製品側の設定
文字列の前後を ”” で囲んで設定します。 例） ″12345″	AirMac 側に設定した文字列の ”” 以外を 1 文字ずつ 16 進コード（次ページ参照）に変換して設定します。 右の例 ″12345″ の場合、本製品の[キー文字列]欄には、以下を入力します。 31 32 33 34 35

方法2：16 進 10 桁で行う方法

AirMac 側の設定	本製品側の設定
10 桁の 16 進数の先頭に $（ドルマーク）を付けて設定します。 例） $3132333435	AirMac 側に設定した $（ドルマーク）以外の 10 桁の 16 進数を設定します。 右の例 $3132333435 の場合、本製品の[キー文字列]欄には、以下を入力します。 31 32 33 34 35

●16進コード表

文字	16進
!	21
″	22
#	23
$	24
%	25
&	26
’	27
(	28
)	29
*	2a
+	2b
,	2c
−	2d
.	2e

文字	16進
/	2f
0	30
1	31
2	32
3	33
4	34
5	35
6	36
7	37
8	38
9	39
:	3a
;	3b
<	3c

文字	16進
=	3d
>	3e
?	3f
@	40
A	41
B	42
C	43
D	44
E	45
F	46
G	47
H	48
I	49
J	4a

文字	16進
K	4b
L	4c
M	4d
N	4e
O	4f
P	50
Q	51
R	52
S	53
T	54
U	55
V	56
W	57
X	58

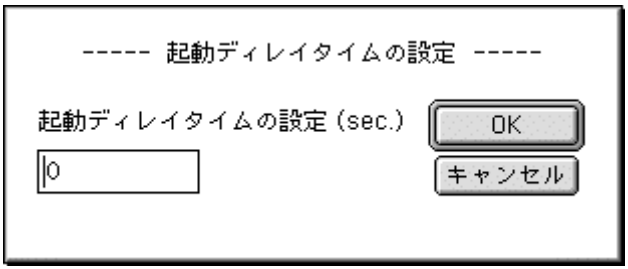
文字	16進
Y	59
Z	5a
[	5b
¥	5c
]	5d
^	5e
_	5f
`	60
a	61
b	62
c	63
d	64
e	65
f	66

文字	16進
g	67
h	68
I	69
j	6a
k	6b
l	6c
m	6d
n	6e
o	6f
p	70
q	71
r	72
s	73
t	74

文字	16進
u	75
v	76
w	77
x	78
y	79
z	7a
{	7b
|	7c
}	7d
~	7e

起動ディレイタイムを設定する

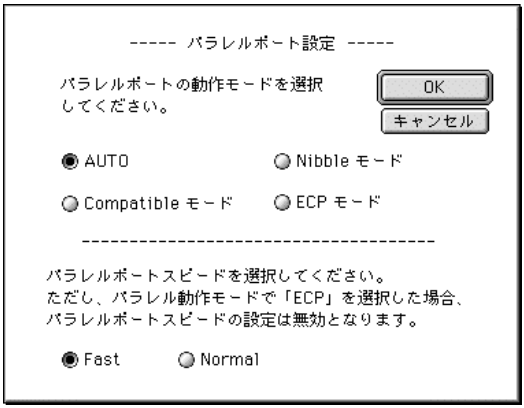
[セットアップ]メニュー→[起動ディレイタイム設定]では、本製品の起動ディレイタイムを設定することができます。



起動ディレイタイムの設定	本製品起動時の遅延時間の確認と変更を行います。 通常は変更する必要はありません。 設定値:0～240(秒) ※本製品とアクセスポイントを同じコンセントにしている場合では、本製品とアクセスポイントは同時に電源が投入されます。 この場合、本製品の方が先に起動しますので、この時にDHCPなどの関係で不都合が生じる場合、起動ディレイが有効な手段となります。

パラレルポートを設定する

[セットアップ]メニュー→[パラレルポート設定]では、本製品のパラレルポートに関する設定をすることができます。



パラレルポートの動作モード	本製品の電源を入れた時の、接続されているプリンタとの接続確認(ネゴシエーション)の設定変更ができます。 ※ECP/Nibbleをサポートしているプリンタと接続確認(ネゴシエーション)を行うためにはプリンタの電源が先に入っている必要があります。 ※本製品を[ECPモード]もしくは[Nibbleモード]に固定した場合は、プリンタが[ECPモード]もしくは[Nibbleモード]をサポートしていて、かつ、プリンタの設定と本製品の設定が一致している必要があります。この条件を満たさない場合は、接続確認(ネゴシエーション)エラーとなり印刷が行えません。
パラレルポートスピード	本製品のパラレルポートの転送速度を設定します。 パラレルポートへのデータの転送速度を2段階に設定できます。ただし、接続されているプリンタのパラレルポートの設定で「コウソク」などが選択できないプリンタの場合に、本製品の設定を[高速転送モード]に設定すると正常に印刷できないことがあります。 ※[パラレルポートスピード]の設定は、[パラレルポートの動作モード]の設定が、[ECPモード]の場合は無効です。

参考

[ECP]、[Nibble]、[Compatible]とは

→ECP とは、

ECP(Extended Capability Port)は HP(ヒューレットパッカード)と Microsoft の 2 社より提案され、IEEE1284 で標準化されている規格です。データ圧縮転送(RLE)をサポートし、高速な転送が可能です。

→Nibble(ニブル)とは、

Compatible を双方向に対応させたパラレルポートのモードです。

→Compatible(コンパチブル)とは、

片方向(出力)のみ通信可能な低速なパラレルポートのモードです。

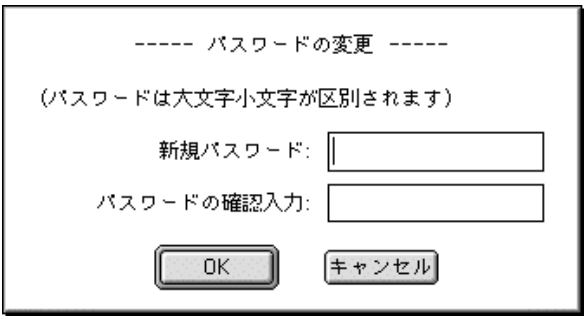
バージョン情報を確認する

[セットアップ]メニュー→[バージョン情報]では、本製品のバージョンに関する情報を確認することができます。

パスワードを変更する場合

[セットアップ]メニュー→[パスワードの変更]では、本ツールでのパスワード※を変更することができます。

※【1. 設定画面を起動する】(125ページ)の手順*4*で入力する文字列



注意！

パスワードは、英数字 15 文字以内まで設定できます。

参考

[パスワード]は管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定することを防ぐためのものです。必要に応じて[パスワード]を変更してください。
ただし、変更した場合は必ずメモなどして忘れないようにしてください。お忘れになった場合は、別冊の【Windows 版】またはの【Macintosh 版】の【本製品を出荷時状態に戻す場合】を参照して、購入時の状態に戻すことにより、出荷時のパスワード[PLANT]を使用できるようになります。ただし、出荷時に戻した場合、すべての設定した内容が元に戻りますのでご注意ください。

出荷時状態に戻す場合

［設定ツール］ から本製品を工場出荷時の設定に戻すことができます。

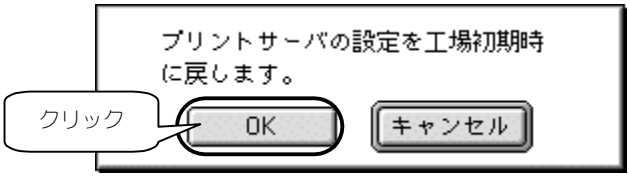
注意！

本製品を工場出荷時の状態に戻すと、変更した設定もすべて工場出荷時の設定に戻ります。別冊【Macintosh】を参照して最初からすべて設定し直してください。

1 ［設定ツール］を起動します。
（【設定画面を起動する】124ページ参照）

2 ［セットアップ］メニュー→［工場出荷時の設定に戻す］をクリックします。

3 ［OK］ボタンをクリックします。



注意！

［OK］ボタンクリック後、本製品が正常に動作するまでに 10 秒以上かかります。

参考

本製品を工場出荷時の設定に戻した後、AirMac などから本製品と通信を行う前にテスト印字を行った場合、［6. Current Status］欄には何も印字されません。

本製品をリセットする

すべての設定を終了したら、[セットアップ] メニューの [プリントサーバのリセット] で変更した内容を本製品に反映させます。

注意！

・設定を変更した後、[プリントサーバのリセット]でリセットしないと本製品に設定が反映されません。設定を変更した場合は必ず[プリントサーバのリセット]を実行してください。
・設定を変更した後、リセットしないと本製品に設定が反映されません。設定を変更した場合は必ず以下の手順でリセットしてください。
・リセット後に再度本製品の設定を行う場合、「設定ツール」の画面を一度閉じ、再度[ファイル]→[開く]を選択して画面を表示させてください。
・リセット後、本製品が動作するまでに10秒以上かかります。

1 [セットアップ]メニュー→[プリントサーバのリセット]をクリックします。

2 [OK]ボタンをクリックして本製品をリセットしてください。

MEMO

TCP/IPプリンタ・ポートモニタの詳細

ここでは、別冊【Windows編】のWindows Me/98/95でTCP/IP印刷時に使用する［TCP/IPプリンタ・ポートモニタ］の詳細について説明します。
必要に応じてお読みください。

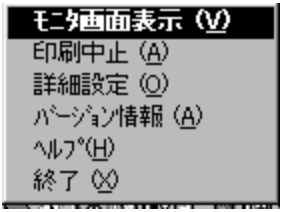
・印刷および印刷の中止 …… 156
・TCP/IP プリンタ・ポートモニタの［詳細］画面 …… 159
・EPSON インクジェットプリンタへ
印刷する際の注意点 …… 161

印刷および印刷の中止

印刷中タスクトレイに ←このアイコンが表示されます。

このアイコンが出ている間はモニタ中です。

上のアイコンを右クリックするとメニューが表示されます。



・モニタ画面表示

選択するとモニタ画面が表示されます。

モニタ画面にはジョブのステータスや、プリンタの状況などが表示されます。

[隠す]ボタンをクリックするとモニタ画面を消すことができます。

メニューの詳細設定で[印刷時にモニタ画面を表示する]をチェックしている場合も印刷時にポップアップします。

注意！

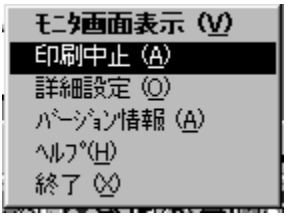
・ポートの詳細設定で「プリンタのステータスを監視する」をチェックしている場合のみ、信号の表示、オンライン/オフライン、用紙の各項目が表示されます。

・ECP/Nibble モードで印刷している場合は、オフライン情報/紙切れ情報は取得できません。また、プリンタによっては、オフライン情報/紙切れ情報を取得するのに必要なパラレル信号を出力しないものがあります。

・印刷中止

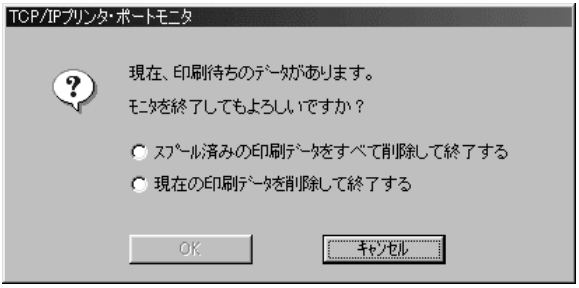
印刷中のジョブを破棄し印刷を中止することができます。

1 印刷中に上のアイコンを右クリックすると、以下が表示されます。



2 [印刷中止]をクリックすると以下の画面が表示されます。

印刷ジョブが複数スプールされている場合は、下図が表示されます。
すべての印刷データを削除するか、現在の印刷データを削除するか選択できます。



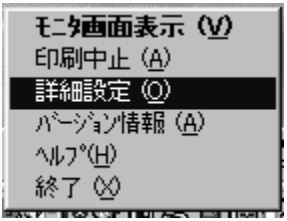
3 [はい][OK]ボタンをクリックすると現在実行中の印刷が中止します。キューの中にまだ送信されていない印刷ジョブがある場合は、次の印刷ジョブの送信が始まります。

注意！

送信済みのデータは破棄されません。

・詳細設定

詳細設定画面を表示します。詳細は、次ページを参照してください。



・バージョン情報

「TCP/IPプリンタ・ポートモニタ」のバージョンを表示します。

・ヘルプ

ヘルプを表示します。

・終了

「TCP/IPプリンタ・ポートモニタ」を終了します。

また印刷中のジョブは破棄され、印刷は中止されます。

キュー内にまだ送信されていない印刷ジョブがある場合は、次回起動時に送信されます。

注意！

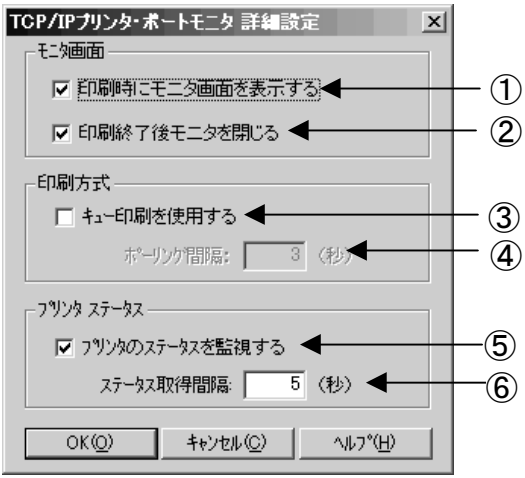
印刷を実行しスプールしている途中でモニタ画面がオフライン状態になった場合、しばらくすると「通信に時間がかかりすぎています。このまま処理を続行しますか？」の「TCP/IP プリンタ・ポートモニタ通信障害」画面が表示されます。

●「続ける」ボタンをクリックするとこのまま印刷を続けます。クリックする前にもう一度オンライン状態であるかを確認してください。

●「中断する」ボタンをクリックすると印刷を中断します。

TCP/IPプリンタ・ポートモニタの[詳細]画面

「TCP/IPプリンタ・ポートモニタ」画面の「詳細」ボタンをクリックすると次の「TCP/IPプリンタ・ポートモニタ詳細設定」画面が表示されます。



①	印刷時にモニタ画面を表示する	印刷状況を表示します。
②	印刷終了後モニタを閉じる	印刷終了後、自動的にモニタを閉じます。
③	キュー印刷をする	*チェックしない場合* 複数のプリンタへの同時印刷時には、複数のモニタが起動し、各プリンタへ同時に送信します。なお、上記の動作中タスクトレイには複数の[TCP/IPプリンタ・ポートモニタ]アイコンが表示されます。この結果、複数のプリンタへの同時送信が可能なので、[チェックした場合]よりも早く印刷を終了することができます。 *チェックした場合* 複数のプリンタへの同時印刷時にも一つのモニタのみ起動し、一つ目の印刷データが終了次第、次の印刷データの送信を開始します。

④	ボーリング間隔	“キュー印刷を使用する”にチェックした場合のみ有効となります。 設定可能な範囲は「3～60」(秒)です。
⑤	プリンタのステータスを監視する	チェックすると、モニタ画面にプリンタの状態を表示します。表示内容は【印刷のモニタおよび印刷の中止】をご覧ください。
⑥	ステータス取得間隔	[プリンタのステータスを監視する]をチェックした場合のみ有効となります。 設定値の間隔で、プリンタの状態を監視します。設定範囲は「5～60」(秒)です。

EPSONインクジェットプリンタへ印刷する際の注意点

「TCP/IPプリンタ・ポートモニタ」を使って、EPSON社製インクジェットプリンタ(PM・MJシリーズなど)へ「TCP/IPプリンタ・ポートモニタ」を使用して印刷する場合、以下の設定を行ってください。

1 プリンタドライバのインストール後、スプールマネージャを起動し、メニューの「プリントキュー」→「セットアップ」を選択します。

2 [全体]タブで[プリントマネージャを使用する]をチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。

なお、スプールマネージャのメニュー表示が無い機種に関しては設定の必要がありません。

例） MJ-8000C、PM-5000C など。

MEMO

テスト印字

テスト印字すれば、本製品の現在の状態をプリンタや通信状態などを印字し、設定を確認することができます。
本製品の設定を忘れてしまった場合など、必要に応じて印字してください。

参考

テスト印字では、A4 サイズ固定で印字されます。

印字手順

1 本製品とプリンタが接続され、本製品およびプリンタの電源が入っていることを確認します。

2 本製品の[TEST]ボタンを押し、[STATUS]ランプが点灯したら指を離します。

3 しばらくすると、プリンタから本製品の現在の設定を印刷した用紙が出力されます。

注意！

テスト印字を行った際、1 行目に文字が重なって印刷されますが、異常ではありません。また、この現象はテスト印字を行ったときのみです。

テスト印字仕様

注：(D)は工場出荷時の初期設置値

No	項目	印字される値
1	TCPIP settings	
	IP Address	192.168.0.100(D) ユーザ設定値が表示されます
	Subnet mask	255.255.255.255(D) ユーザ設定値が表示されます
	Gateway IP Address	255.255.255.255(D) ユーザ設定値が表示されます
	RARP	Enable(D) Disable
	BOOTP	Disable(D) Enable
	DHCP	Disable(D) Enable
	ARP+PING	Enable(D) Disable

No	項目	印字される値
2	EtherTalk settings	
	Status	Enable(D) Disable
	LPT1 Printer (EtherTalkがDisableの場合は表示されません。)	TypeがPS Printer時 Undefined(D) OKI MICROLINE 800 PS II LT OKI MICROLINE 801 PS OKI MICROLINE 801 PS +F OKI MICROLINE 801 PS II OKI MICROLINE 801 PS II +F OKI MICROLINE 803 PS II OKI MICROLINE 803 PS II +F EPSON LP-9000PS2 F2 EPSON LP-9000PS2 F5 Tektronix Phaser 140 Canon LASER SHOT A404PS Canon LASER SHOT A404PS-Lite Canon LASER SHOT B406PS Canon LASER SHOT B406PS-Lite TypeがAT-MJColor時 MJ-700V2C(D) MJ-900C MJ-910C MJ-930C MJ-3000C MJ-3000CU MJ-5000C MJ-5100C MJ-6000C MJ-8000C また、ユーザが設定した場合(Macユーティリティからのみ変更可能)は設定した値が表示されます
	Zone (EtherTalkがDisableの場合は表示されません。)	*(Zoneが存在しない時) Zoneが存在する場合はZone名が表示されます

No	項目	印字される値
2	Type (EtherTalk が Disable の場合は表示されません。)	PS Printer AT-T1ESC/Page AT-T2ESC/Page AT-T3ESC/Page AT-EP3Page AT-MJColor LaserShot AppleTalk Not used with EtherTalk ユーザが設定した場合は設定した値が表示されます
	Object (EtherTalk が Disable の場合は表示されません。)	IO_******.LPT1(D) ユーザ設定値が表示されます
	Time Server Name	(None)(D) ユーザ設定値が表示されます
	PsBinary (EtherTalk が Disable の場合は表示されません)	Disable(D) Enable

3	Wireless settings	
	Status	Enable
	Connection Mode	Infrastructure AdHoc(DipSW1 OFF時)(D) AdHoc(802.11)(DipSW1 ON時) (D)
	WEP Request	Disable(D) Enable(Shared Key) Enable(Open System)
	SSID	default(D) ユーザ設定値が表示されます
	AdHoc Channel	6(D) 1～14の値を取ります

No	項目	印字される値
4	SMB settings	
	Status	Enable(D) Disable
	Protocol	NetBEUI(D) TCP/IP
	Host Name	IO******(D) ユーザ設定値が表示されます
	Domain Name	(None)(D) ユーザ設定値が表示されます
	Time Server Name	(None)(D) ユーザ設定値が表示されます
	WINS	255.255.255.255(Disable) (D) ***.***.***.***(Enable) ユーザ設定値が表示されます
5	SNMP settings	
	Community Name 1	public (D) ユーザ設定値が表示されます
	Community Name 2	public (D) ユーザ設定値が表示されます
6	Current Status	
	Connection Status	Searching Connected(AdHoc) Connected(Infrastructure) Out Of Range(Infrastructure)
	Current Channel	1～14の値を取ります
	Current Datarate(Mbps)	0(Mbps) 1 2 5.5 11
	Parallel I/F Mode	Compatible Mode(Normal) Compatible Mode(Fast) NIBBLE Mode ECP Mode Get Device ID Negotiation Error! (ECP) Negotiation Error! (NIBBLE)

No	項目	印字される値
7	Printer Status	
	Manufacturer	unknown 双方向通信で情報が取得できた場合はメーカ名が表示されます
	Model	unknown 双方向通信で情報が取得できた場合はモデル名が表示されます
	Command Set	unknown 双方向通信で情報が取得できた場合はプリンタコマンドの名称が表示されます

8	Other Information	
	Ether Address	00A0B0****** （製品のMACアドレス）
	FLASH-ROM Type	1603 （固定値）
	Version	0100 （Ver1.00時）
	Date	2001-07-09 （Ver1.00時）
	BOOT-ROM Type	1603 （固定値）
	Version	0100 （ver1.00時）
	Date	2001-06-18 （ver1.00時）
	Error Code	ff ff ff ff ff ff （Errorが発生していない時）
	Boot Delay Time	0 sec. (D) 0～240の値を取ります
	Parallel I/F Speed	Normal(for non ECP/NIBBLE printing) Fast(for non ECP/NIBBLE printing) (D)
	Area Code	07 （固定値）

TCP/IPの基礎知識

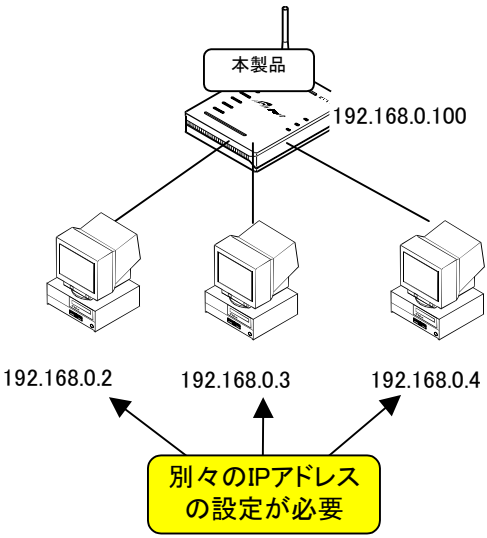
ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

・*IP アドレス* ····· *170*
同じネットワーク上では別々の IP アドレスが必要 ····· 170
インターネットの IP アドレスと LAN の IP アドレス ····· 171
LAN 内で使用する IP アドレスのクラス ····· 172
・*DHCP* ····· *173*
・*具体的な IP アドレスの設定例* ····· *174*

IPアドレス

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

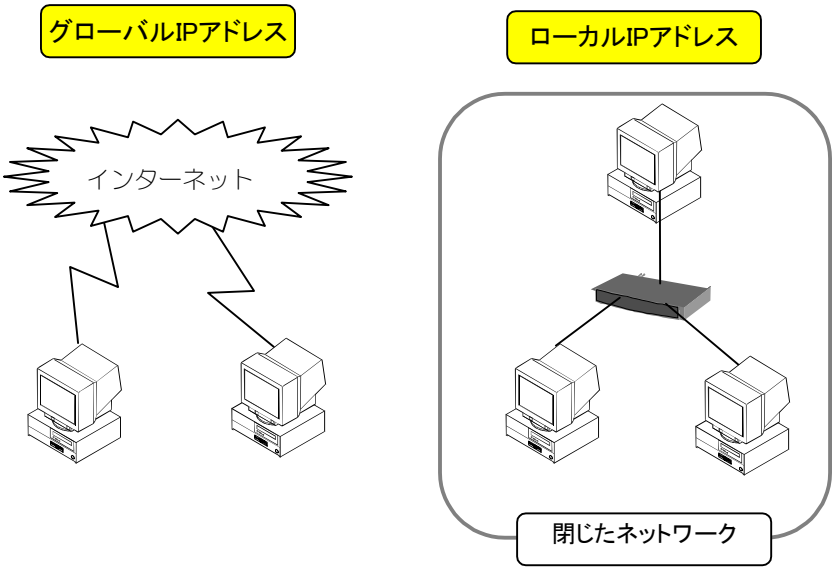
本製品を使用するには、本製品やパソコンにIPアドレスの設定が必要です。
また、設定するIPアドレスは、本製品および本製品に接続したパソコンのすべてに別々のIPアドレスが必要です。
IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の１軒１軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも１台１台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。もし、同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192.168.0.100」のIPアドレスを持ちますが、
ネットワーク上に、同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。



インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

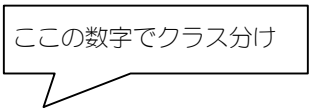
IP アドレスには、「グローバル IP アドレス」と「ローカル IP アドレス」（プライベート IP アドレス）があります。
「グローバル IP アドレス」は、インターネットで使用する IP アドレスです。
「ローカル IP アドレス」は、通常 LAN 内で使用する IP アドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみなど）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。



LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IP アドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、3つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば[クラスAの IP アドレス]、中規模なら[クラスBの IP アドレス]、小規模の場合は[クラスCの IP アドレス]となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスの IP アドレスである必要があります。
実際には、本製品の出荷時の IP アドレス「192.168.0.100」のように、IP アドレスは、ピリオドで区切られた4つの数字の羅列で構成されていて、4つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。



IP アドレス　xxx.xxx.xxx.xxx

例　本製品の出荷時の IP アドレス「192. 168. 0. 100」の場合は「192」

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
1～127	クラスA	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
128～191	クラスB	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
192～223	クラスC	小規模ネットワーク用（最大約 120 台）

※「224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数十台で構成されるネットワークでは、クラスCの IP アドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカル IP アドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスA	10. 0. 0. 0　～　10. 255. 255. 255
クラスB	172. 16. 0. 0　～　172. 31. 255. 255
クラスC	192. 168. 0. 0　～　192. 168. 255. 255

DHCP

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)とは、IP アドレスの自動割り当て機能のことです。
DHCP は、DHCP サーバと DHCP クライアントで構成され、DHCP サーバが DHCP クライアントに使用可能な IP アドレスを割り当てます。
例えば、本製品を DHCP サーバとし、複数台のすべてのパソコンを DHCP クライアントに設定した場合、各パソコンは、パソコン起動時に使用可能な IP アドレスを入手し、終了時に開放します。

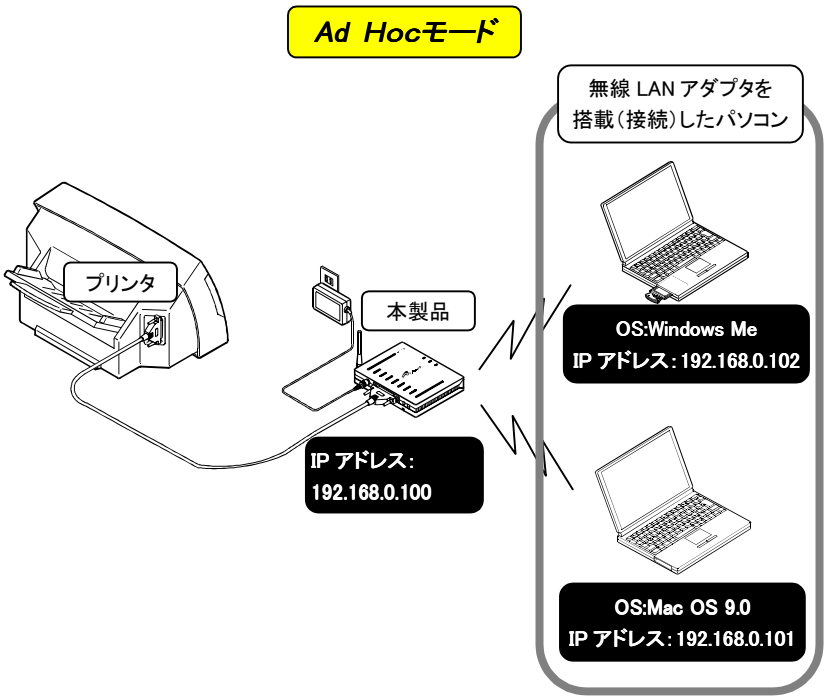
●*DHCP の特徴*

・個々のパソコンに IP アドレスをセットする手間が省けます。
・設定できる IP アドレスが変更された場合、DHCP サーバのみの変更で済みます。
そのため、クライアント側で IP アドレスを考慮する必要がなくなります。
DHCP クライアント側では、DNS やゲートウェイ(ルータ)の IP アドレスも自動で設定されます。
・DHCP クライアント側の IP アドレスは、起動時毎に毎回異なる場合があります。

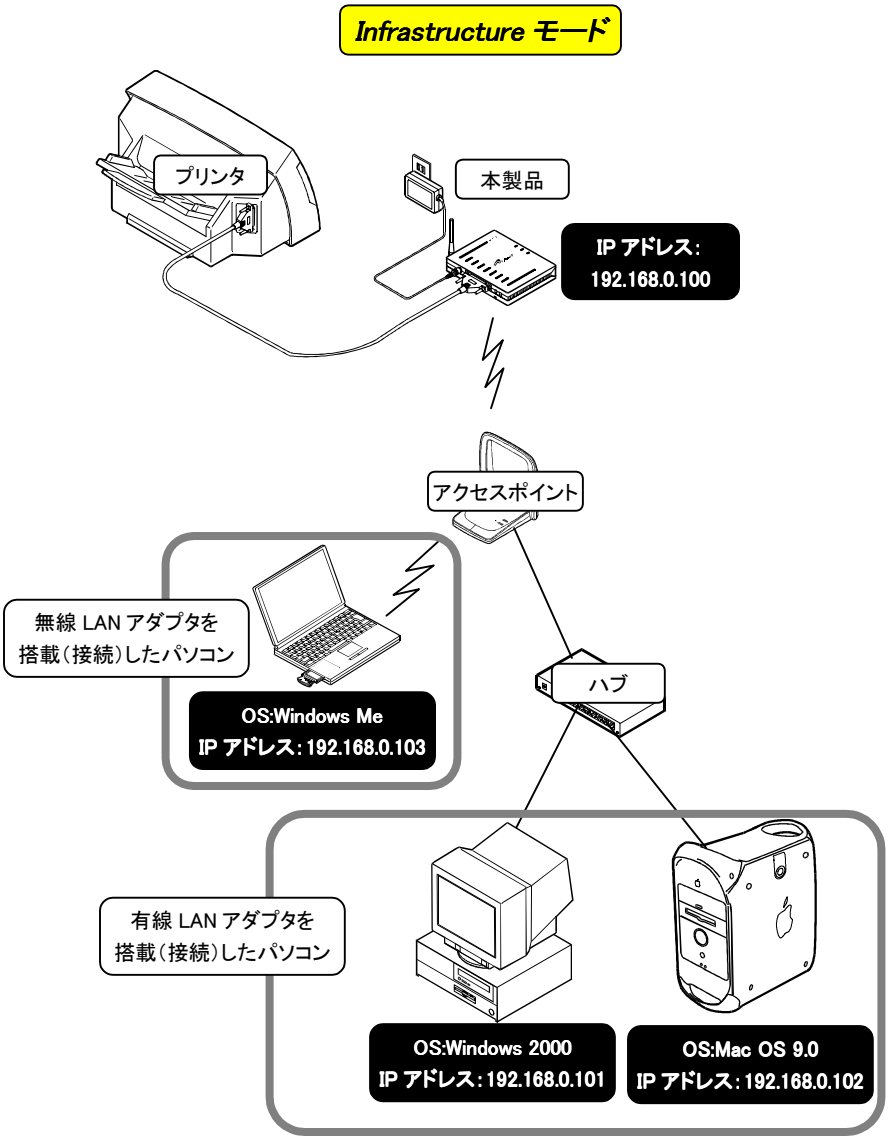
具体的なIPアドレスの設定例

ここでは、小規模ネットワークでの、本製品を使用した場合の IP アドレスの具体的な設定例について説明します。

［無線LANアダプタのみ（Ad Hocモード）の環境での印刷環境例］



［アクセスポイント経由（Infrastructureモード）の環境での印刷環境例］



MEMO

用語解説

Ad Hoc[アドホック]

アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード(Infrastructure mode)があります。

BCP[Binary Communications Protocol]

8ビット値で表現できる任意の256種類のデータを転送する事ができます。
バイナリイメージを含んだPostScriptジョブの送信に一連の制御文字を含むデータを送信する事ができます。アスキーより高速に印刷する事ができます。

Compatible[コンパチブル]

片方向(出力)のみ通信可能な低速なパラレルポートのモードです。

DHCPサーバ(Dynamic Host Configuration Protocol Server)

DHCPとは各クライアントやEthernet機器へ起動時に動的にIPアドレスを割り当て、終了時にIPアドレスを回収するためのプロトコルです。
同時にゲートウェイアドレスやドメイン名、サブネットマスクその他の情報をネットワーク上のクライアントやEthernet機器へ通知することもできます。

この動的にIPアドレスの割当を行う側の機器がDHCPサーバと呼ばれます。
ダイアルアップルータ等の機器もDHCPサーバの機能を持っています。

DS-SS[直接拡散・スペクトラム拡散]

無線通信における変調方式の1つです。
干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

ECP[Extended Capability Port]

HP(ヒューレットパッカード)とMicrosoftの2社より提案され、IEEE1284で標準化されている規格です。
データ圧縮転送(RLE)をサポートし、高速な転送が可能です。

Ethernet[イーサネット]

米国ゼロックス社、ディジタル・イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式です。当初この方式は、基礎帯域伝達、CSMA/CDアクセス、論理バストポロジー、同軸ケーブルを使用して構成されていました。
後にIEEE 802.3として規格化され、光ファイバー、広周波数帯域、ツイストペアで運用するリピータなどを使って拡張する追加機能が定義されました。

IEEE 802.11

無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE 802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。

IEEE 1284

米国電気電子協会（IEEE）が定めた高速なパラレルインターフェイスの規格です。プリンタ専用の低速なポートであったものを改良し、高速かつ双方向通信を実現したものです。

Infrastructure［インフラストラクチャ］

アクセスポイントを介して通信する形態のことです。

LPR［エルピーアール］

印刷プロトコルのひとつです。UNIXの印刷コマンドとして知られています。パソコンネットワークの普及にともなって、パソコン上のOSもこの印刷プロトコルによる印刷ができるようになってきました。
Windows 2000やWindows NTでは標準でLPR機能を持っています。（詳細はWindows 2000やWindows NTのヘルプを参照してください。）

MACアドレス（Media Access Control Address）

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。
MACアドレスは、先頭からの3バイトのベンダーコードと残り3バイトのユーザコードの6バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器の製造メーカが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

Mbps（Megabits per second）[メガビーピーエス]

1秒間に伝送するデータの単位です。
10Mbpsは1秒間に10メガビットのデータを伝送できます。

NetBEUI（NetBios Extended User Interface）[ネットビューイ]

IBMにより、1985年に開発されたプロトコルの名称。
Microsoft Network/LANmanagerやIBM LANserverなどに採用されています。
TCP/IPより高速で、Windows NTやOS/2 Warp Serverなどでは今でも使用できますが,NetBEUIにはルーティングできないという致命的な欠点がありネットワークの分割が不可能なため、大規模なネットワークでは事実上使用する事ができません。

Nibble[ニブル]

Compatibleを双方向通信に対応させたパラレルポートのモードです。

PSバイナリ

PostScriptを使用して印刷データをバイナリで処理します。
別に「PSアスキー」も存在し、PostScriptを使用して印刷データをアスキーで処理します。印刷に時間がかかります。

SS ID（Service Set ID）[エスエスアイデー]

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。

TBCP［Tagged Binary Communications Protocol］

タグ付きバイナリ通信プロトコルです。
BCPと互換性はありません。タグを使用して、送信側と受信側を接続し、通信を行います。アスキーより高速に印刷する事ができます。

TCP/IP

主にインターネット上などで使用される基本プロトコルの1つです。

WEP（Wired Equivalent Privacy）

IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

ピアツーピア接続

サーバ／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

プリントキュー

プリントジョブをプリンタに転送する前に一時的に保存して置く場所です。この一時的に保存して置く動作を「キューイング」といいます。プリントキューにはプリントキュー名があります。

工場出荷時の設定

メニュー	サブメニュー	工場出荷時設定値	設定有効タイミング
TCP/IP	IPアドレス	192.168.0.100	“arp” & “ping”、WEP_SETは設定直後有効、 その他はリセット(RESET)後有効
	サブネットマスク	255.255.255.255	
	デフォルトルータ	255.255.255.255	
	RARP	有効(Enable)	SNMPは設定後有効、 その他はリセット(RESET)後有効
	BOOTP	無効(Disable)	
	DHCP	無効(Disable)	
	ARP+PING	有効(Enable)	
	SNMP	public public public	
EtherTalk	プリンタ	未定義	リセット(RESET)後有効
	ゾーン	未設定 (デフォルトゾーン)	
	タイプ	PS printer	
	オブジェクト	IO_xxxxxxx.LPT1	
	PSバイナリ	無効(Disable)	
	有効/無効	有効	

メニュー	サブメニュー	工場出荷時設定値	設定有効タイミング
SMB	ホスト名	Ioxxxxxx	リセット(RESET)後有効
	ワークグループ名	未設定	
	タイムサーバ名	未設定	
	プロトコル	NetBEUI	
	WINS	無効(Disable)	
	WINSサーバ IPアドレス	255.255.255.255	
	有効/無効	有効	
パスワード		PLANT (半角大文字)	設定直後有効
ハードウェア	パラレルポート	高速(FAST)	リセット(RESET)後有効
	ブートディレイ	0 (秒)	電源再投入後
	サポートパラレルモード	自動(AUTO)	
	通信モード	Ad Hoc	リセット(RESET)後有効
	通信チャンネル	6	
	WEPリクエスト	無効(Disable)	
	WEPキー	FF,FF,FF,FF,FF,FF	
	SS ID	default	
	エラーステータス		設定直後有効
	0x40	FF	
	0x41	FF	
	0x42	FF	
	0x43	FF	
	0x44	FF	
	0x45	FF	

●SNMPについて

本製品はネットワーク管理プロトコルのSNMPに対応しており、SNMPマネージャソフトウェアにより管理することができます。

SNMPバージョン	SNMPv1(RFC1157)準拠 (SNMPv2には対応していません。)
トランスポートプロトコル	UDP/IP
コミュニティ名	Read-Onlyコミュニティ名および Read-Writeコミュニティ名を設定可
対応MIB	MIB-Ⅱ(RFC-1213)の一部 I-O DATA Private MIBの一部 HP Private MIB等の一部
対応PDU	GetRequest 、GetNextRequest 、SetRequest 、 GetResponse

※SNMPでの管理方法については、各SNMPマネージャソフトウェアの操作マニュアルをご覧ください。

参考

本製品は、SNMP のコミュニティ名を使用して「設定ツール」にて設定および管理が行えます。